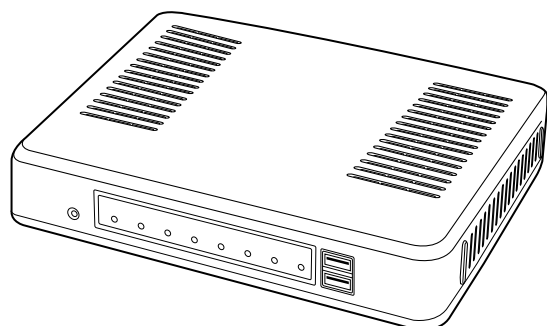


VoIP ROUTER
VR-7000

IP電話対応



Icom Inc.

導入ガイド	1
管理者用の設定画面について	2
「ルーター機能設定」メニュー	3
「電話回線設定」メニュー	4
「Peer to Peer設定」メニュー	5
「簡単設定」メニュー	6
「PBX設定」メニュー	7
「PBX拡張設定」メニュー	8
「管理」メニュー	9
ご参考に	10

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IP電話対応のVoIPルーターです。

ご使用の際は、この設定マニュアルをよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

不正アクセス対策についての重要なお知らせ

下記のような環境でご使用になる場合、容易に推測できるパスワードを本製品に設定すると、正規利用者になりすまして本製品にアクセスされ、パソコンや電話回線(IP電話回線/ISDN回線/アナログ電話回線など)が不正に利用される危険性があります。

◎本製品をインターネット(サービスプロバイダー)に接続して利用している

◎本製品のVoIPルーター機能により、本製品が対応するIP電話機を利用している

【不正アクセス防止のアドバイス】

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更すると効果があります。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」 表記: 本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[] 表記: 各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

〈 〉 表記: 設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(〈 〉)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows® 7 Home Premium、Microsoft® Windows® 7 ProfessionalおよびMicrosoft® Windows® 7 Ultimateは、Windows 7と表記します。

Microsoft® Windows Vista® Home Basic、Microsoft® Windows Vista® Home Premium、Microsoft® Windows Vista® BusinessおよびMicrosoft® Windows Vista® Ultimateは、Windows Vistaと表記します。

Microsoft® Windows® XP Home Edition、Microsoft® Windows® XP Professionalは、Windows XPと表記します。

※本書は、Ver. 1.09(N)のファームウェアを使用して説明しています。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe、Adobe Readerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標および登録商標です。

本製品の概要について

- ◎本製品の子機として、IP電話機や対応端末を最大24台★¹まで登録できます。
 - ★1. 本製品の[TEL]ポートに接続するアナログ電話機(2台)を含めると、最大26台まで使用できます。
 - ※本製品で無線IP携帯を使用したい場合は、本製品のネットワーク上に無線アクセスポイントを接続してください。
 - ※IP電話機には、弊社製のVP-701(多機能電話機)が使用できます。
- ◎FTTH、xDSL対応のVoIPルーター機能を搭載しています。
 - ※物理インターフェース変換用モデムが別途必要です。
- ◎一般加入電話回線は、NTT東日本、またはNTT西日本のアナログ回線(2回線)、ISDN回線(3回線★²)に対応しています。
 - ★2. 2回線は、本製品に内蔵のDSUを使用し、残りの1回線は、市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器を使用した場合の回線数です。
- ◎一般加入電話回線とIP電話回線★³との併用ができます。
 - ★3. 本製品が対応するIP電話回線は、NTT東日本、またはNTT西日本のフレッツ光ネクスト(インターネット接続サービス)で提供するひかり電話サービスです。
 - このひかり電話サービスには、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタイプ、ひかり電話オフィスエースの3種類があり、それぞれ、網直収とゲートウェイ(GW)接続に対応しています。
- ◎本製品に接続されたアナログ電話機、IP電話機や対応端末同士で内線通話や内線転送ができ、IP電話回線、アナログ回線、ISDN回線を使用して外線通話★⁴ができます。
 - ★4. 内線通話と外線通話を合わせた最大通話数は、12通話までです。
 - なお、外線通話は、最大8通話までです。
- ◎VP-701(多機能電話機)用の共通電話帳には最大300件、グループ電話帳には設定グループごとに最大100件(設定グループ1～設定グループ20の合計:最大2000件)まで、相手先電話番号を登録できます。
- ◎本製品に登録したVP-701(多機能電話機)用の共通電話帳(最大300件)とグループ電話帳(最大100件)は、VP-701起動時に、VP-701本体の電話帳に自動転送されます。
- ◎Peer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)の発信で使用するVoIP電話帳には、相手先電話番号を最大1000件まで登録できます。
- ◎留守番電話機能を搭載していますので、不在時に指定した応答専用メッセージ(3種類設定可能)を流し、相手の用件を録音できます。
 - ※録音できるのは、最大45件(留守電ボックスの合計)で、1件あたりでは最大2分まで録音できます。
- ◎有線LANは、10BASE-T/100BASE-TXの自動切り替えに対応し、ポートの極性についても、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)を自動判別します。
- ◎ネットワーク管理機能として、SNMPに対応しています。
- ◎IPフィルター機能を搭載していますので、アクセス制限ができます。

【ISDN用のインターフェースについて】

VR-7000に内蔵のDSUにより、ISDN回線を本製品の[U1]ポートと[U2]ポートに直接接続できます。(※1章)

G4ファクシミリなどのISDN機器、市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器(TAなど)を[S/T1]ポートと[S/T3]ポートに接続できます。

[S/T1]ポートに接続したISDN機器は、ISDN2とISDN3の回線では使用できません。

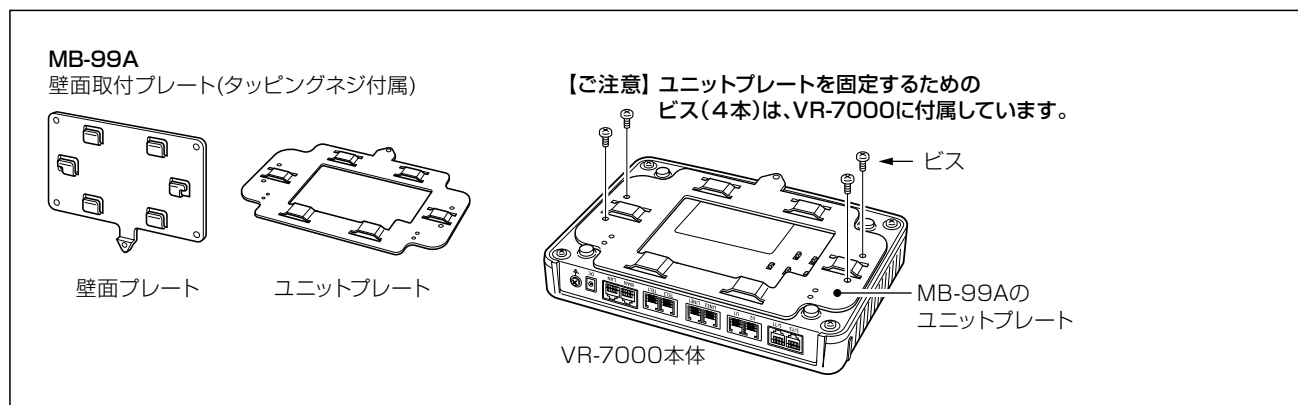
[S/T3]ポートに接続したISDN機器は、ISDN1とISDN2の回線では使用できません。

○:使用可能 ×:使用不可能

ポート 回線	U1	U2	S/T1	S/T3
ISDN1	○	×	○	×
ISDN2	×	○	×	×
ISDN3	×	×	×	○

はじめに

別売品について



【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じるネットワーク機器の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

出荷時のおもな設定値について

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ルーター機能設定	LAN設定	LAN設定/DHCPサーバー設定	LANIPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
			DHCPサーバー機能	有効
			開始IPアドレス	192.168.0.10
			割り当て個数	30個
	WAN動作モード設定	回線種別設定	回線種別	使用しない
PBX設定	基本設定	基本設定	留守番電話機能	無効
電話回線設定	IP回線	SIPサーバー接続共通設定	接続先の選択	ひかり電話(網直収)
管理	管理者設定	パスワードの設定	現在のパスワード	admin(半角小文字)
	USB設定	USB設定	USBポート	有効

※上記以外の設定値については、本書10章をご覧ください。

※本製品の管理者用ID(admin)は、変更できません。

【不正アクセス防止のアドバイス】

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更すると効果があります。

管理者用の設定画面を使用した設定の流れ

本書で説明する管理者用の設定画面を使用して設定する場合は、次の手順にしたがってお読みください。

※各Stepの右端に記載する数字は、本書の参照箇所です。

※運用形態やご契約の回線によっては設定不要のStepもありますので、その場合は次のStepに進んでください。



運用形態に応じて設定してください。

6章か7章のどちらかで設定してください。

運用形態に応じて設定してください。

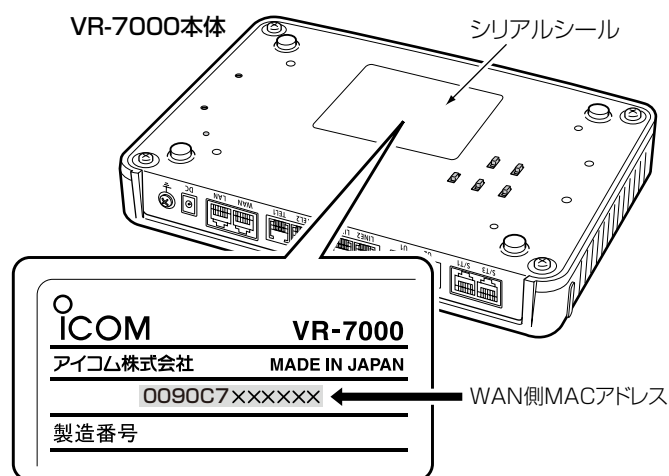
はじめに

本体MACアドレスが必要なときは

本体MACアドレスは、本製品のシリアルシールに12桁で記載されています。

次のような場合は、本体MACアドレスが必要ですので、下図の場所をご覧ください。

- ◎1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアのバージョンアップをするときは、あらかじめ、本製品のWAN側本体MACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。(P17)
- ◎本製品をインターネットに接続してご使用になる場合、ご契約の接続業者、またはプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、モデムに直接接続するネットワーク機器(本製品)がそれぞれ独自に持っているMACアドレス(機器固有の番号)を、接続業者、またはプロバイダーに対して事前申請する必要があります。
そのような場合、申請、および登録が完了するまで、本製品を利用してインターネットに接続できません。



※MACアドレスの記載位置は、シリアルシールに変更があった場合、お買い上げの製品によって若干異なる場合があります。

【ご参考に】

上記のWAN側MACアドレスは、管理者用の設定画面(P24)で確認できます。

この章では、
本製品をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ	8
■ 接続/設定準備について	8
■ 設定の流れについて	9
■ ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は	10
2. 光通信回線と接続するには	11
■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合 ひかり電話(網直収)	11
■ NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイと接続する場合 ひかり電話(GW配下)	11
3. ISDN回線と接続するには	12
■ ISDN回線を[U1]ポートに接続するには	12
■ 外部DSUを[S/T1]ポートと接続する場合	13
■ ISDN回線を[U2]ポートに接続する場合	13
■ 外部DSUを[S/T3]ポートと接続する場合	13
4. アナログ電話回線と接続するには	14
■ アナログ回線を直接接続する場合	14
■ ADSLモデムやVDSLモデムと接続する場合	14
■ アナログ電話回線からの発信を確認するには	14
5. 内線電話の構築について	15
6. USBポートで利用できる機能について	16
■ USBメモリーによる自動設定機能について	16
7. USBメモリーから自動で設定を復元するには	18
8. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには	20

【ネットワーク環境について】

ご使用になる端末を内線電話として使用するには、本製品に接続できるネットワーク環境が必要です。
事前にご使用のネットワーク、および各機器の設定をご確認ください。

【アイコンについて】

ひかり電話(網直収) は、「ひかり電話(網直収)」でお使いになる場合にご覧ください。

ひかり電話(GW配下) は、「ひかり電話(GW配下)」でお使いになる場合にご覧ください。

1 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 接続/設定準備について

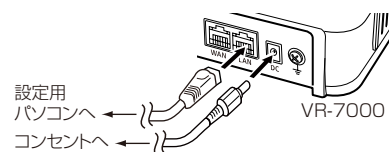
本製品に機器を接続して、管理者用の設定画面にアクセスするまでの流れです。

1. 電話機や回線の接続(☞P11～P14)

IP電話機、アナログ電話機、電話回線を本製品に接続します。

2. 設定用パソコンの接続(☞詳細は、別紙の「接続ガイド」をご覧ください。)

設定用パソコンを本製品の[LAN]ポートに接続し、電源を接続します。



3. 管理者用の設定画面へアクセス(☞2章)

- ① WWWブラウザを起動し、WWWブラウザのアドレスバーに「<http://本製品のLAN側IPアドレス/admin/>」を入力します。
入力例) <http://192.168.0.1/admin/>
- ② [Enter]キーを押します。
- ③ [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックします。

【VR-7000の設定画面について】

VR-7000の設定画面には、管理者用とユーザー用があります。

※管理者用の設定画面で電話回線やPBXなどを設定していない場合や本製品を出荷時の状態に戻した場合は、ご使用になる端末を内線電話として利用できませんのでご注意ください。

管理者用の設定画面(☞2章～9章)

管理者用の設定画面で電話回線やPBXなどの設定が完了すると、ご使用になる端末を内線電話として利用できます。

- ルーター機能設定(ネットワーク関連)
- 電話回線設定(外線関連)
- Peer to Peer設定
- 簡単設定(内線関連)
- PBX設定(内線関連)
- PBX拡張設定(内線関連)
- 管理(保守関連)

ユーザー用の設定画面(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

本製品の「ユーザー設定」画面★¹を利用して、下記の項目を設定できます。

- 主装置の時刻を修正★²
- 非通知着信拒否設定
- 迷惑電話お断り設定
- 外線着信転送設定
- 留守番電話設定
- 昼夜切替設定
- 電話帳の編集
- 保留音設定
- 着信設定(端末ごとの転送設定)★³
- パスワード変更★³

★¹ パソコンから、本製品の「ユーザー設定」画面にアクセスするときは、<http://本製品のLAN側IPアドレス/> をWWWブラウザのアドレスバーに入力して、[Enter]キーを押します。

入力例 <http://192.168.0.1/>

★² 管理者用の「時刻設定」画面で、[自動時計設定]欄を「無効」にしている場合だけ、「ユーザー設定」画面で設定できます。

★³ 端末ごとの着信設定やパスワード変更(初期設定:内線番号)をするときは、端末に設定された内線番号(ユーザーID)とパスワードを入力して、〈ログイン〉をクリックします。

【RS-SIP1(VoIP設定ツール)を使用して設定する場合】

VR-7000初期導入時の電話設定情報をRS-SIP1で作成できるのは、ひかり電話(網直収)、ISDN回線、アナログ電話回線をご利用になる場合だけです。

RS-SIP1を起動すると表示される画面にしたがって、ご使用になるアナログ電話回線やISDN回線の契約者番号、ひかり電話(網直収)の契約者番号、および追加番号、内線番号などを設定し、ネットワーク経由、またはUSBメモリーを使用してVR-7000に反映してから、ご使用になるネットワーク環境に応じて、VR-7000のLAN側IPアドレス(出荷時の設定:192.168.0.1)やDHCPサーバー機能(出荷時の設定:有効)を管理者用設定画面で変更してください。

※RS-SIP1で設定した契約者番号や内線番号の数に応じて、内線代表名(Group1、Group2～Group26)と内線代表番号(9999999、9999998～9999974)が、VR-7000の設定画面に自動設定されます。

※RS-SIP1を使用して、VR-7000初期導入時の設定情報を作成する方法は、RS-SIP1のCD(VR-7000に付属)に収録されている取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

1. ご使用になるまでの流れ(つづき)

■ 設定の流れについて

管理者用の設定画面を使用して設定する場合の流れです。

1. ルーター機能設定(☞3章)

ご利用の環境に合わせて、管理者用の「LAN設定」画面でLAN側のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)を設定します。

★出荷時、本製品のルーター機能のWAN動作モードは、「使用しない」に設定されています。

ひかり電話(網直収)に加えてインターネットをご利用になる場合は、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN側動作モード設定」画面の「回線種別設定」項目で「PPPoE」を選択します。(☞P35)
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、〈登録して再起動〉をクリックします。(☞P38)
- ③再起動後、「回線状態表示」項目で〈接続〉をクリックします。(☞P34)

ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN側動作モード設定」画面の「回線種別設定」項目で「DHCPクライアント」を選択します。(☞P35)
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、〈登録して再起動〉をクリックします。(☞P36)
- ③再起動後、「回線状態表示」項目に接続状態が表示されます。(☞P32)

※ひかり電話(GW配下)に加えてインターネットをご利用になる場合は、本製品と接続されたNTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのインターネット接続設定が必要です。

2. 電話回線設定(☞4章)

本製品に接続するアナログ電話回線の契約回線番号、またはISDN回線の契約回線番号やダイヤルイン番号、IP回線のIP電話番号を設定します。

3. PBX設定(☞7章)

次の手順で内線番号などを設定して、ご使用になる端末を本製品の内線子機として登録します。

「基本設定」画面/「特番設定」画面

保留音、留守番電話機能、TELポートの通信中転送、特別番号を設定します。

※出荷時、本製品の留守番電話機能、TELポートの通信中転送は、「無効」に設定されていますので、必要に応じて設定してください。

「内線個別設定」画面/「内線代表設定」画面/「着信設定」画面

「簡単設定」メニュー(☞6章)の「簡単設定」画面にあるウィザードを使用しない場合、本製品に内線子機として登録する端末の内線番号、プリセット発信時の外線選択設定、本製品に接続する端末の機種と留守電ボックス、外線を着信させる端末の内線代表、または内線番号、鳴り分け判別(着信音)の選択、内線代表内にある端末の鳴動設定(スライド着信)などを設定します。

「電話機設定」画面/「電話帳設定」画面

VP-701の機能(外線ボタン、機能ボタン)の割り当て、電話帳など、必要に応じて設定します。

(☞次ページにつづく)

【設定の更新について】

本製品で変更した設定を端末に反映させるためには、端末の再起動が必要な場合がありますので、ご注意ください。

1 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて(つづき)

4. 簡単設定(※6章)

「PBX設定」メニュー(※7章)の「内線個別設定」画面/「内線代表設定」画面/「着信設定」画面を使用しない場合、本製品に内線子機として登録する端末の内線代表名、内線番号、機種などをウィザードにしたがって設定します。

「簡単設定」画面

- ① 内線代表名と内線番号の設定
- ② 内線代表内にある端末の鳴動設定(スライド着信)
- ③ 外線を着信させる端末の内線代表、または内線番号、鳴り分け判別(着信音)の選択
- ④ 本製品に接続する端末の機種と留守電ボックスの選択
- ⑤ プリセット発信時の外線選択設定

※[内線・グループ設定ウィザード(発信設定)]項目の<完了>をクリックすると、設定が有効になります。

5. 電話機の登録

PBX設定完了後、内線子機としてご使用になる端末側の内線設定をします。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

6. 着信拒否/転送先/留守番設定

必要に応じて、「ユーザー設定」画面で、着信を拒否する電話番号、転送先、留守番電話を使用する回線などを設定します。(※「ユーザー設定」画面については、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。)

【ご参考】 ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は

2012年7月現在、NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの出荷時のIPアドレスは、192.168.1.1に設定されていますので、本製品のLAN側IPアドレス(出荷時の設定: 192.168.0.1)との重複はありませんが、将来的に、これらのゲートウェイ製品の仕様が変更されることもありますので、ご使用になる前に、ゲートウェイ装置の取扱説明書で、設定を確認ください。

ゲートウェイ装置のIPアドレスが本製品のLAN側IPアドレスと重複する場合は、ご使用になる前に、IPアドレス(サブネット)が異なるように、IPアドレス「aaa.bbb.ccc.ddd」の「ccc」部分を変更する必要があります。(ddd部分の変更では同一サブネットとなりLAN-WAN間の通信となりません。)

本製品側を変更する場合

[LAN設定/DHCPサーバー設定]項目(※3章)で、本製品の「LAN IPアドレス」、および自動割り当ての「開始IPアドレス」を変更します。

変更例:

LAN側IPアドレス : 192.168.24.1
DHCP開始IPアドレス : 192.168.24.2

ゲートウェイ側を変更する場合

ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続したパソコンより、設定画面にアクセスして、「詳細設定」メニュー→「DHCPv4サーバ設定」画面で、下記のように変更します。

LAN側IPアドレス : 192.168.24.1/24
開始IPアドレス : 192.168.24.2

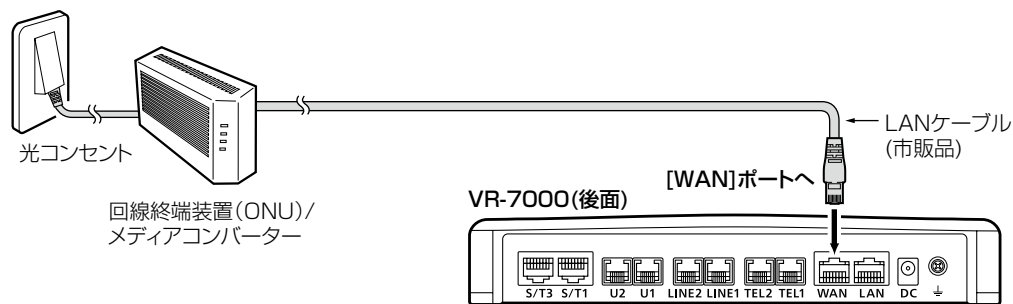
※操作方法については、ご使用になるホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの「機能詳細ガイド」をご覧ください。

2. 光通信回線と接続するには

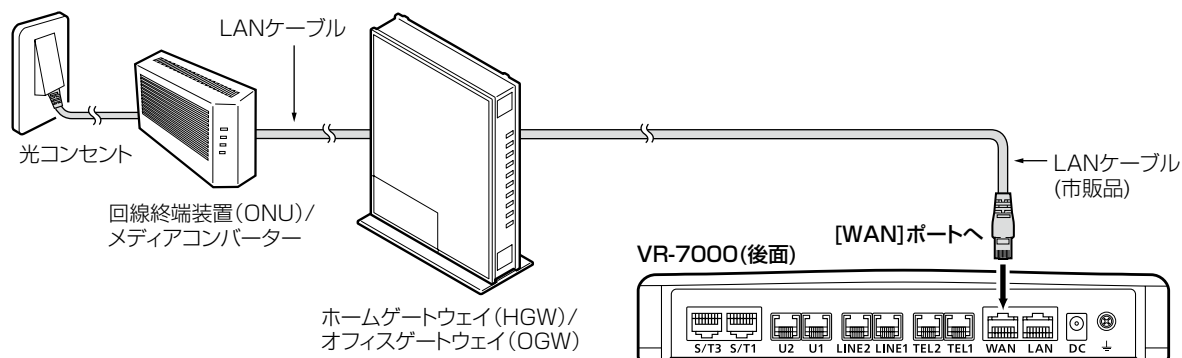
回線接続業者とのご契約内容によって、本製品と接続する機器が異なります。

※接続の前に、本製品のWAN側動作モード設定が必要な場合がありますので、ご契約の回線接続業者の指示にしたがってください。

■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合 (ひかり電話(網直収))



■ NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイと接続する場合 (ひかり電話(GW配下))



1 導入ガイド

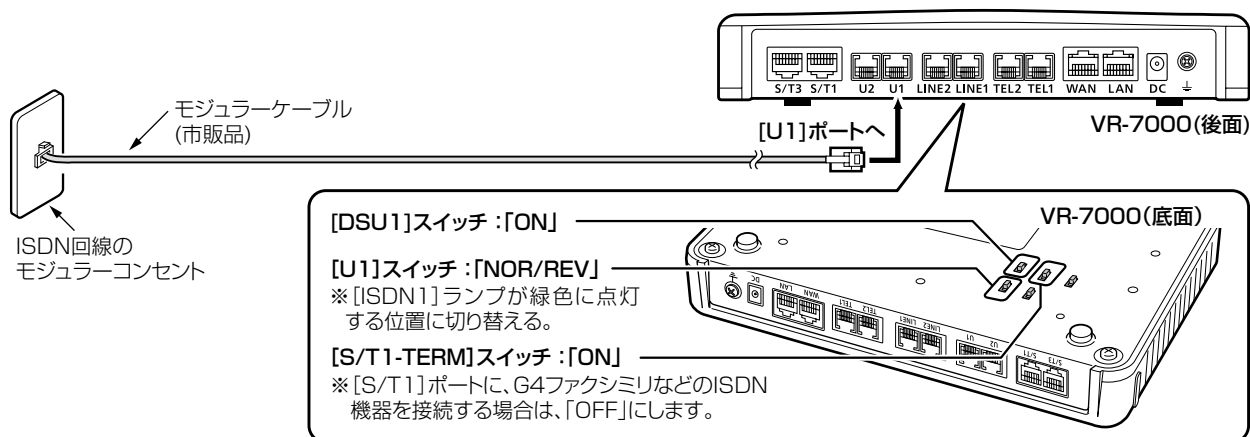
3. ISDN回線と接続するには

本製品に内蔵のDSUを使用すると、ISDN1 (U1) とISDN2 (U2) の2回線が接続できます。
外部DSUを[S/T3]ポートに接続することで、合計3回線分のISDN回線で使えます。

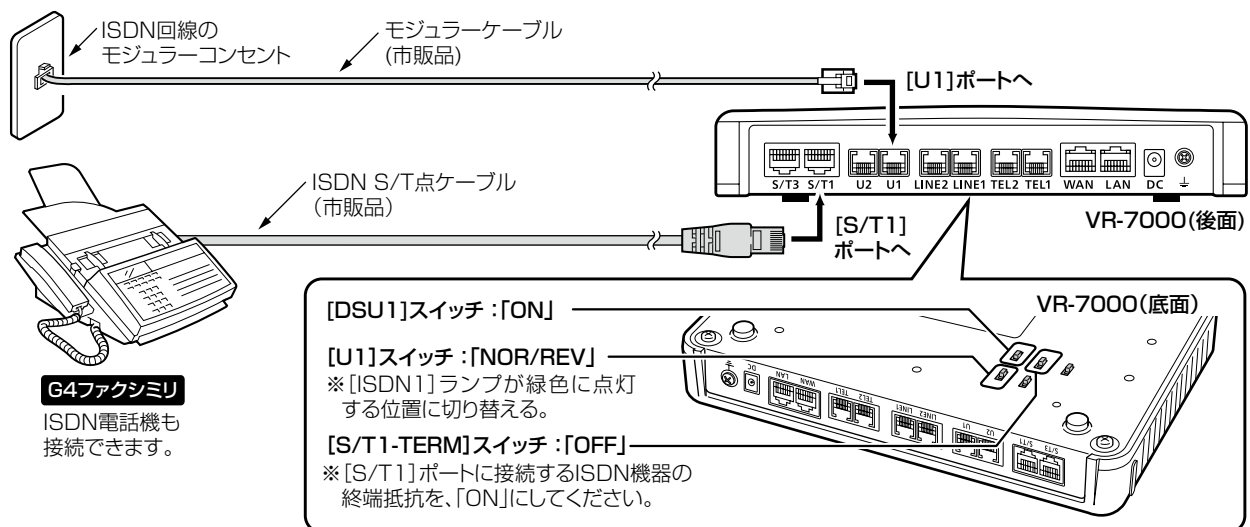
■ ISDN回線を[U1]ポートに接続するには

底面部の[DSU1]スイッチを「ON」(内蔵のDSUを使用する)にしてください。

【ISDN機器を[S/T1]ポートに接続しない場合】



【ISDN機器を[S/T1]ポートに接続する場合】



【ISDN用のインターフェースについて】

VR-7000に内蔵のDSUにより、ISDN回線を[U1]ポートと[U2]ポートに直接接続できます。

G4ファクシミリなどのISDN機器、市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器(TAなど)を[S/T1]ポートと[S/T3]ポートに接続できます。

[S/T1]ポートに接続したISDN機器は、ISDN2とISDN3の回線では使用できません。

[S/T3]ポートに接続したISDN機器は、ISDN1とISDN2の回線では使用できません。

○: 使用可能 ×: 使用不可能

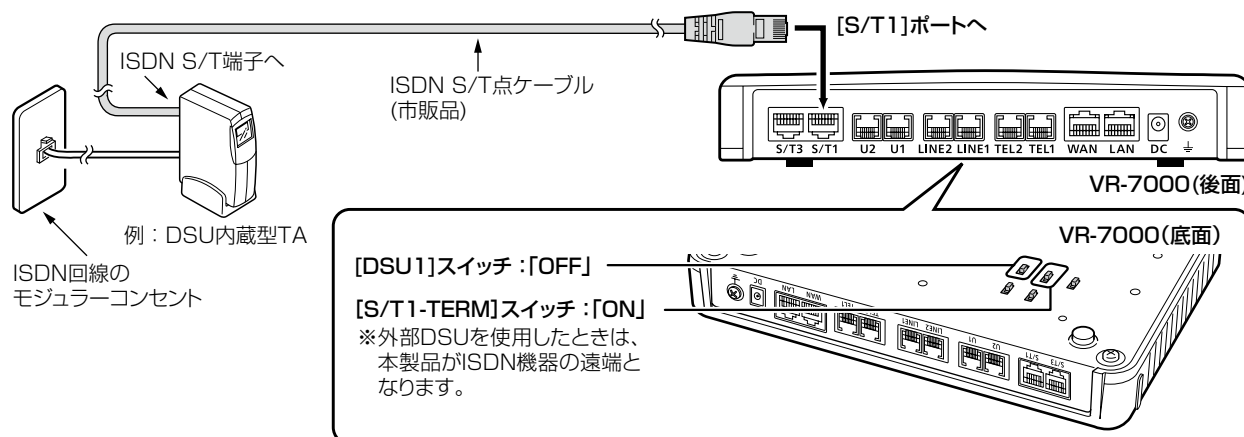
ポート 回線	U1	U2	S/T1	S/T3
ISDN1	○	×	○	×
ISDN2	×	○	×	×
ISDN3	×	×	×	○

3. ISDN回線と接続するには(つづき)

■ 外部DSUを[S/T1]ポートと接続する場合

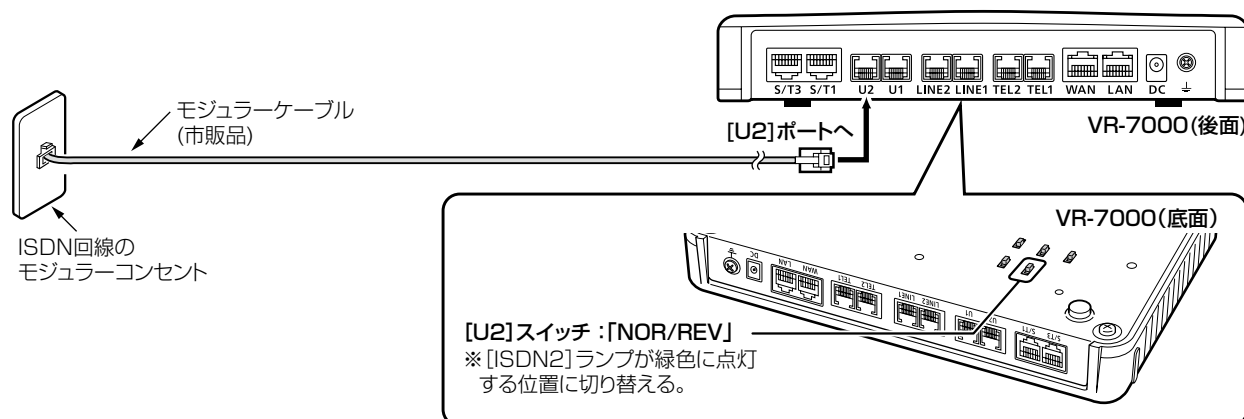
市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器を本製品の[S/T1]ポートに接続する場合は、底面部の[DSU1]スイッチを「OFF」(内蔵のDSUを使用しない)にしてください。

※ISDN S/T点ケーブル(市販品)、または全ピンストレート結線されたLANケーブル(市販品)をご使用ください。



■ ISDN回線を[U2]ポートに接続する場合

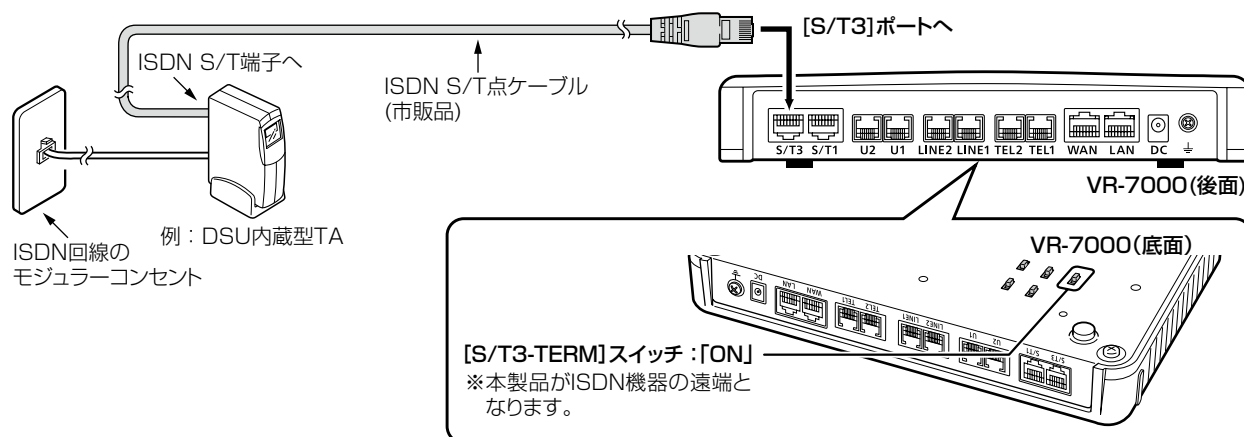
ISDN2には、[S/T]ポートを装備していませんので、内蔵DSUだけでのご使用となります。



■ 外部DSUを[S/T3]ポートと接続する場合

市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器を本製品の[S/T3]ポートに接続する場合は、図のように接続します。

※ISDN S/T点ケーブル(市販品)、または全ピンストレート結線されたLANケーブル(市販品)をご使用ください。



1 導入ガイド

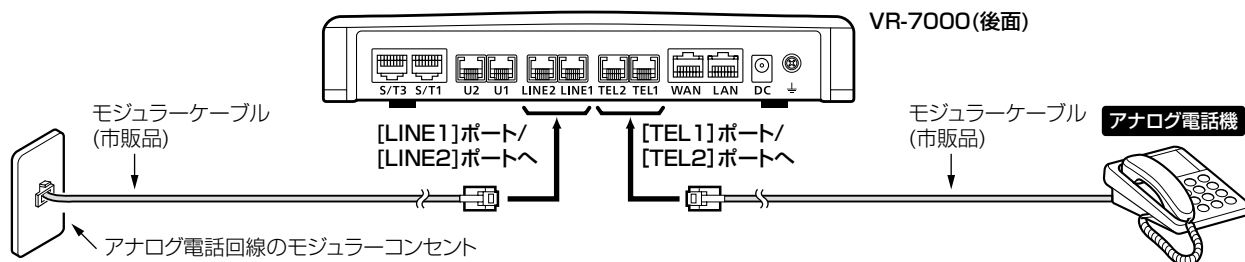
4. アナログ電話回線と接続するには

本製品には、LINE1とLINE2の2回線を接続できます。

※[TEL1]ポートと[TEL2]ポートには、電話機(またはG3ファクシミリ)を1台だけ接続してください。

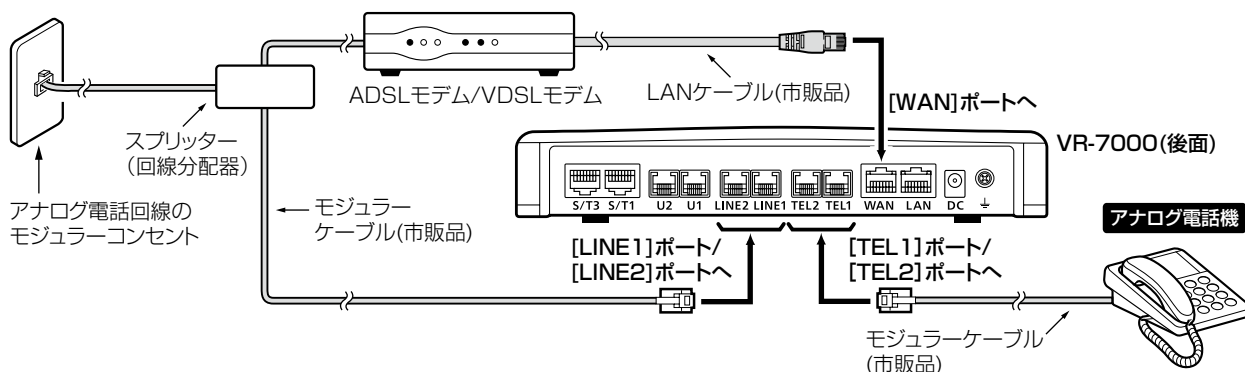
モジュラー2分配用コネクタなどを使用すると、誤動作の原因になります。

■ アナログ回線を直接接続する場合



■ ADSLモデムやVDSLモデムと接続する場合

ADSLモデムやVDSLモデムとの接続の前に、本製品のWAN側動作モード設定が必要な場合がありますので、ご契約の回線接続業者の指示にしたがってください。



■ アナログ電話回線からの発信を確認するには

停電時★でも、一般加入電話回線を使用するために、あらかじめ、本製品の電源が切れた状態で本製品の[TEL1]ポート、または[TEL2]ポートに接続された電話機から発信できることを確認しておいてください。

★停電時は、本製品の[LINE1]ポートと[TEL1]ポート、[LINE2]ポートと[TEL2]ポートが内部で直接接続された状態になります。

※IP電話回線によるファクシミリ通信は、保証いたしません。

ネットワークの状態により、正常に動作しない場合があります。

※IP電話回線(ひかり電話を含む)やISDN回線は、停電中に使用できません。



■ ナンバーディスプレイ機能について

【ナンバーディスプレイサービスをご契約の場合】

本製品は、出荷時、[LINE1]ポートと[LINE2]ポートのナンバーディスプレイ機能が「自動」に設定されていますので、本製品の設定を変更することなくナンバーディスプレイサービスを利用できます。

※回線分配器などで複数の機器を接続した場合、ナンバーディスプレイ機能が正常に動作しないことがありますのでご注意ください。

【本製品の[TEL1]ポートと[TEL2]ポートにナンバーディスプレイ機能付き電話機を接続する場合】

本製品は、出荷時、[TEL1]ポートと[TEL2]ポートのナンバーディスプレイ機能が「無効」に設定されています。

「PBX設定」メニューの「内線個別設定」画面にある[TEL1設定]項目、または[TEL2設定]項目で、[ナンバーディスプレイ]欄(P115)を「有効」に変更してからご使用ください。

※[TEL1]ポート、または[TEL2]ポートに接続された電話機の機能と異なる設定をした場合、着信や通話ができないことがあります。

5. 内線電話の構築について

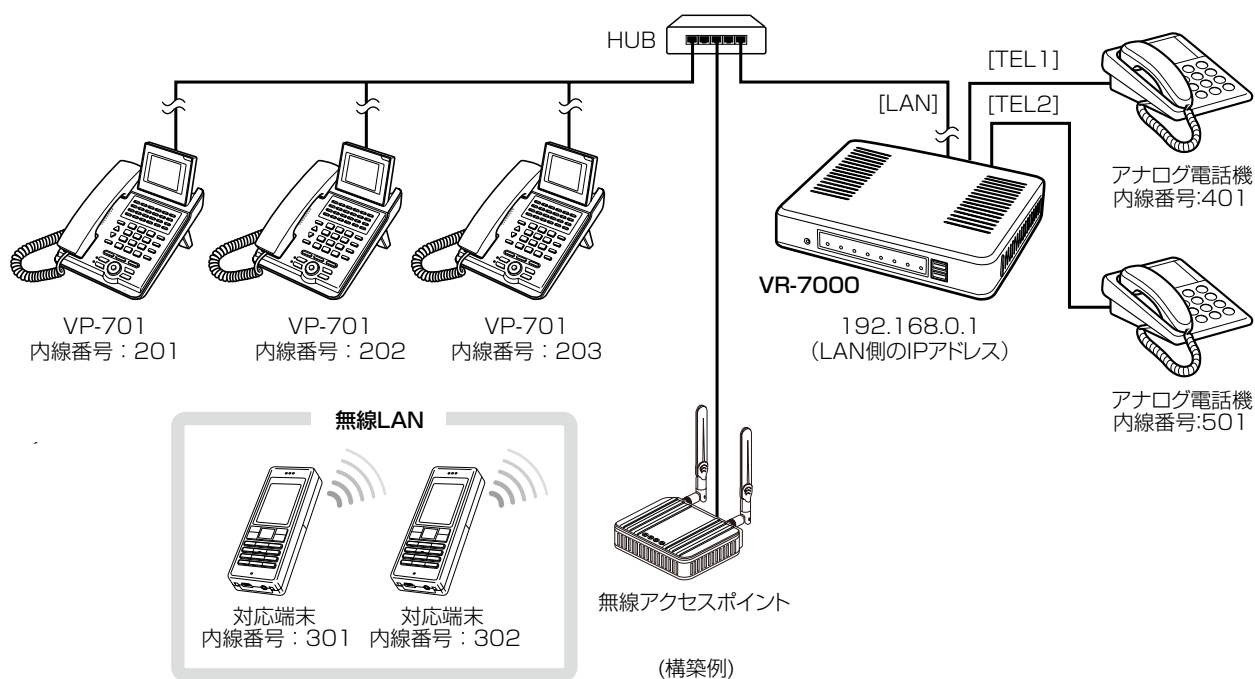
本製品の子機として、[TEL1]ポート、または[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機(2台)とは別に、IP電話機や対応端末を最大24台まで登録できます。

※本製品で無線IP携帯を使用したい場合は、本製品のネットワーク上に無線アクセスポイントを接続してください。

※IP電話機には、弊社製のVP-701(多機能電話機)が使用できます。

※内線子機としてご使用になる端末ごとに、「内線番号」の設定が必要です。

内線代表番号やプレフィックスなど、番号が重複しないように構築してください。(6章、7章)



【内線子機として使用する端末に内線番号を設定するときは】

- ◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。
- ◎緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。
- ◎「0」ではじまる番号を使用しないでください。
- ※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になれます。
- ※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

6.USBポートで利用できる機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について

あらかじめ、本製品の設定が保存されたファイル(以後、設定ファイルと表記)やファームウェアファイルをUSBメモリー(市販品)に保存しておくことで、本製品の電源を入れたとき、本製品にあらかじめ接続されたUSBメモリーから設定ファイルやファームウェアファイルを読み込んで、自動設定される機能です。

また、本製品のWAN側MACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成することで、1つのUSBメモリーを使用して、複数台(本製品)の設定復元やファームウェアのバージョンアップができます。

※操作方法については、本書18ページ～20ページをご覧ください。

【[USB]ポートに接続する機器について】

※USBメモリー以外は、接続しないでください。

※指紋認証型、アプリケーション認証(パスワードを入力したらアクセスできる)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。

【USBメモリー使用時のご注意】

※本製品の[USB]ポートは、電源を入れた状態で抜き差しできる(ホットスワップ)仕様ではありませんので、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを抜き差ししてください。

※USBメモリーを差し込むときは、形状と差し込み方向に注意して、奥まで確実に差し込んでください。

※本製品に電源を接続後、USBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときは、自動設定機能は動作しません。

※USBメモリーは、どちらか一方の[USB]ポートにだけ接続してください。

2つの[USB]ポートを同時には使用できません。

※設定復元、およびファームウェアのバージョンアップ(アクセス)が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずさないでください。

※USBメモリーにアクセス中は、[PWR/MSG]ランプが橙色と緑色で交互に点滅します。

設定復元が完了すると、[PWR/MSG]ランプが緑色の点灯に切り替わります。

ファームウェアのバージョンアップ中は、すべてのランプが橙色で点灯します。

※設定を復元する直前の設定値は、設定ファイル(bakdata.sav)として、本製品に接続したUSBメモリーにバックアップされます。

バックアップされた設定ファイルは、作成日時や更新日時を表示しませんが、故障ではありません。

※USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり本製品以外のものであるときは、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。

※設定ファイルとファームウェアファイルの両方がUSBメモリーに保存されている場合は、設定復元、ファームウェアのバージョンアップの順に自動設定を実行します。

【対応するUSBの規格】

インターフェース :USB2.0

デバイス :USB 大容量デバイス(USB Mass Storage Class)

フォーマット :FAT16/FAT32(exFATやNTFSなど、ほかのフォーマットには対応していません。)

【自動設定に使用するファイル名の付けかた】

設定ファイル名は、savedata.savでUSBメモリーに保存してください。

※自動設定に使用する設定ファイルは、「管理」メニュー→「設定のバックアップ/リストア」画面→「設定のバックアップ」項目(☞P158)で保存したものの以外を使用できません。

ファームウェアファイル名は、firmware.datでUSBメモリーに保存してください。

※ファームウェアの自動バージョンアップに使用するファームウェアファイルは、弊社ホームページからダウンロードしてから、ファームウェアファイル名を変更してください。

(☞次ページにつづく)

6.USBポートで利用できる機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について(つづき)

【自動バックアップされる設定ファイルについて】

バックアップは、下記のファイル名で、最大10世代前まで自動バックアップされます。

最新のバックアップ設定ファイルは、bakdata.savで自動バックアップされます。

例: 1世代前のファイル名 bakdata_1.sav

2世代前のファイル名 bakdata_2.sav

3世代前のファイル名 bakdata_3.sav

～ 中略 ～

10世代前のファイル名 bakdata_10.sav

※10世代を超えると、最も古いバックアップ設定ファイル(savedata_10.sav)が削除されます。

また、削除と同時に、ファイル名が1世代後退します。(例:bakdata_9.sav→bakdata_10.sav)

※ファームウェアファイルは、バックアップされません。

【複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには】

1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアのバージョンアップをするときは、あらかじめ、本製品のWAN側本体MACアドレス(※P6、P24)をフォルダー名★とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。

★全角のフォルダー名は使用できません。

例:本製品のWAN側本体MACアドレスが0090C7000001と仮定した場合の動作

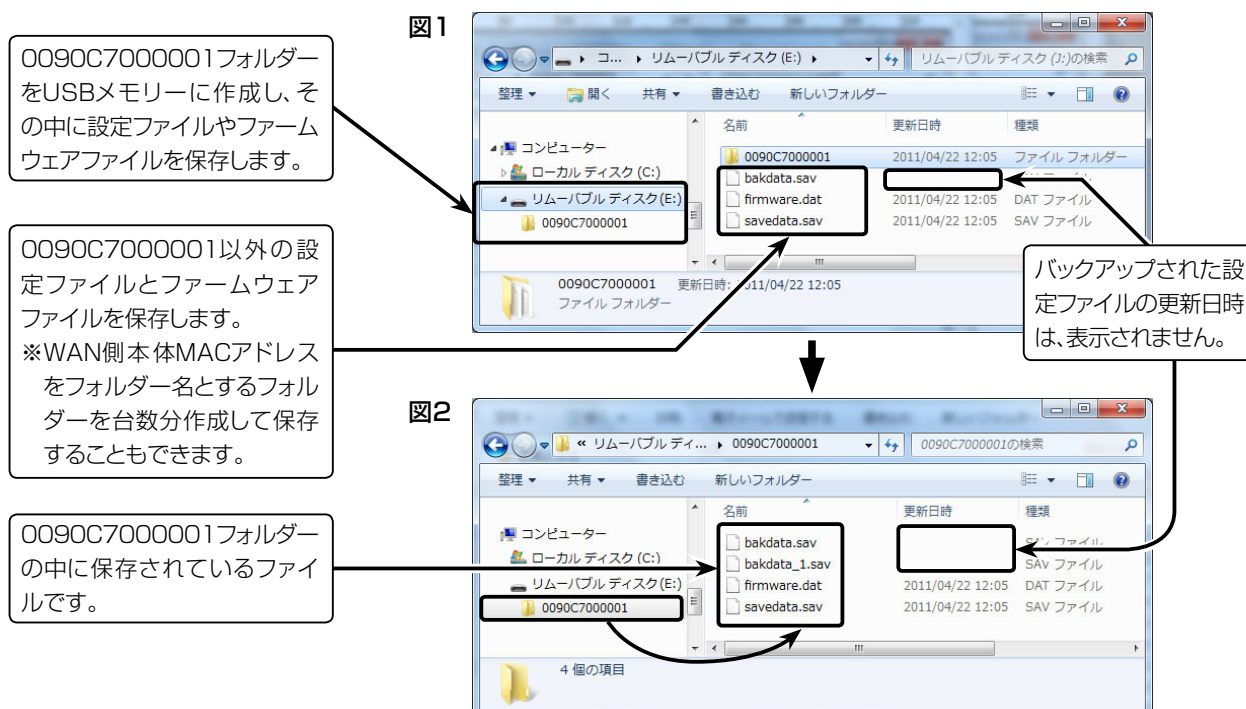
◎下記の内容(図1、図2)が保存されたUSBメモリーをVR-7000(0090C7000001)に差し込むと、作成した0090C7000001フォルダーの中にバックアップ設定ファイルを作成します。

設定ファイルやファームウェアファイルも0090C7000001フォルダーの中から読み込みます。

※0090C7000001フォルダー以外の場所に保存されたsavedata.savとfirmware.datは、利用されません。

◎下記の内容(図1、図2)が保存されたUSBメモリーをVR-7000(0090C7000002)に差し込むと、自身のWAN側本体MACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

また、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。



1 導入ガイド

7. USBメモリーから自動で設定を復元するには

本製品の設定ファイルをUSBメモリー（市販品）に保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元するまでの手順について説明します。

※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P16)をご覧ください。

※ パソコンのWWWブラウザは、Microsoft Internet Explorer 8を使用している場合を例に説明しています。

設定ファイルを保存して復元するまでの手順

- 1 USBメモリー（市販品）をパソコンに差し込みます。
- 2 本製品の設定画面にアクセスします。
- 3 「管理」メニュー、「設定のバックアップ/リストア」の順にクリックします。
「設定のバックアップ」画面を表示します。
- 4 「設定のバックアップ」欄にある「バックアップ」をクリックします。
「ファイルのダウンロード」画面（別画面）を表示します。

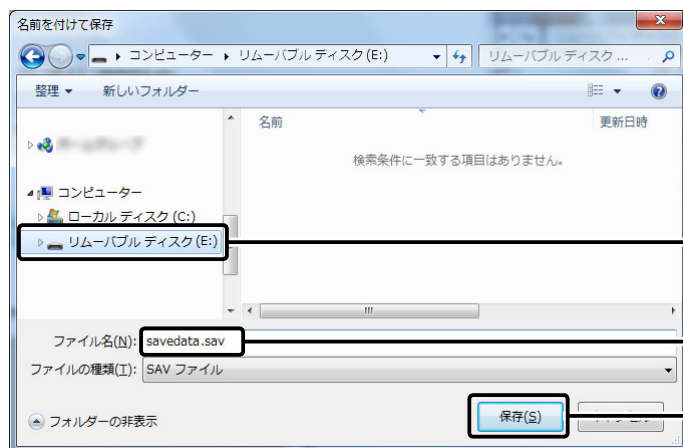
設定のバックアップ

設定のバックアップ

バックアップ

クリック

- 5 「ファイルのダウンロード」画面の「保存(S)」をクリックします。
「名前を付けて保存」画面（別画面）を表示します。
- 6 「名前を付けて保存」（別画面）画面で、設定ファイルの保存先にUSBメモリーのルートディレクトリーを指定してから、「保存(S)」をクリックします。
※ 設定ファイルの名称は、savedata.sav以外の名称に変更しないでください。
自動設定に使用する設定ファイル名は、「管理」メニュー→「設定のバックアップ/リストア」画面→「設定のバックアップ」項目(P158)で保存されたファイル名の状態では、USBメモリーからの復元に使用できません。
※ ファイル名の付けかたについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P16)をご覧ください。



①ルートディレクトリーを指定

②savedata.savの表示を確認

③クリック

- 7 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※ USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

(P次ページにつづく)

7. USBメモリーから自動で設定を復元するには

設定ファイルを保存して復元するまでの手順(つづき)

8 USBメモリーに保存した設定ファイルと異なる設定の本製品を用意します。

9 本製品から電源を取りはずします。

【ご注意】 データ保護のため、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを差し込んでください。
電源を接続した状態で、USBメモリーを差し込んでも自動復元を開始できません。

10 savedata.savが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、電源を本製品に接続します。



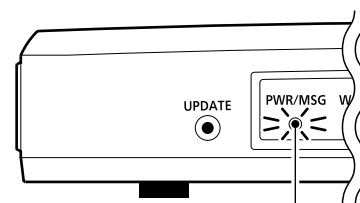
11 [PWR/MSG] ランプが緑色で点灯後、約3秒経過すると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

アクセス(設定の復元)中は、[PWR/MSG] ランプが橙色と緑色で交互に点滅します。

【ご注意】 設定復元(アクセス)が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を取りはずしたりしないでください。

途中で、USBメモリーや電源を取りはずすと、設定ファイルの消失や故障の原因になります。

また、設定復元が完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。



アクセス中は交互に点滅(橙色/緑色)

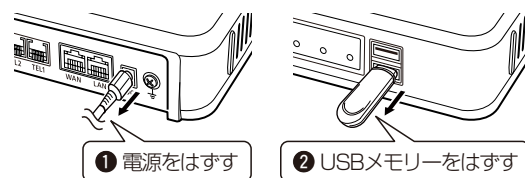
12 [PWR/MSG] ランプが消灯し、本製品が再起動されます。

起動中、[PWR/MSG] ランプが緑色の点滅から点灯に切り替わったことを確認してから本製品から電源をはずします。

最後に、本製品からUSBメモリーを取りはずします。

※ USBメモリーには、復元前の設定内容を保存した設定ファイルが自動でバックアップファイル(bakdata.sav)として保存されています。

【ご注意】 データ保護のため、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを取りはずしてください。

**【ご参考に】**

「管理」メニューの「USB設定」画面で、[USBポート]欄が「有効」(出荷時の設定)に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。(P168)

8. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには

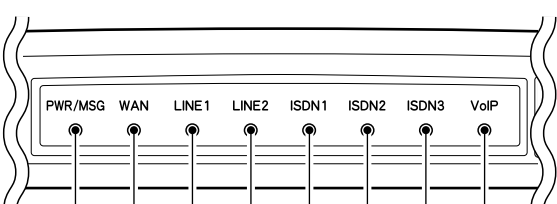
弊社ホームページよりダウンロードした本製品のファームウェアファイル(拡張子:dat)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品のファームウェアをバージョンアップするまでの手順について説明します。

※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P16)をご覧ください。

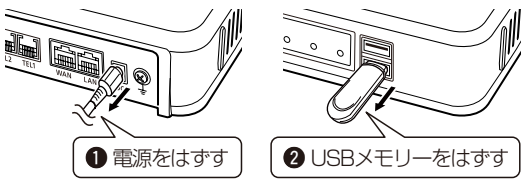
※ バージョンアップの前に、「バージョンアップについてのご注意」(P162)をご覧ください。

バージョンアップするまでの手順

- 1 本製品のファームウェアファイルを弊社ホームページよりダウンロードします。
 - 2 ダウンロードしたファームウェアファイルのファイル名をfirmware.datに変更します。
※ ファイル名がfirmware.dat以外の場合は、USBメモリーからのバージョンアップに使用できません。
※ ファイル名の付けかたについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P16)をご覧ください。
 - 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
 - 4 firmware.datをUSBメモリーのルートディレクトリーに保存します。
 - 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※ USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
 - 6 バージョンアップする本製品を用意します。
 - 7 本製品から電源を取りはずしてから、本製品に接続するすべてのネットワーク機器を取りはずします。
【ご注意】 データ保護のため、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを差し込んでください。
電源を接続した状態で、USBメモリーを差し込んでもバージョンアップを開始できません。
 - 8 firmware.datが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、電源を本製品に接続します。
 - [PWR/MSG]ランプが緑色で点灯します。

① USBメモリーを差し込む ② 電源を接続する
 - 9 約3秒経過すると、USBメモリーへのアクセスが開始され、[PWR/MSG]ランプが橙色と緑色で交互に点滅します。
 - ファームウェアのバージョンアップ中は、すべてのランプが橙色に点灯します。

バージョンアップ中は橙色で点灯

【ご注意】
ファームウェアのバージョンアップが完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を取りはずしたりしないでください。
バージョンアップ中に、USBメモリーや電源を取りはずすと、故障の原因になります。
 - 10 すべてのランプが消灯し、本製品が再起動されます。
起動中、[PWR/MSG]ランプが緑色の点滅から点灯に切り替わったことを確認してから本製品から電源をはずします。
最後に、本製品からUSBメモリーを取りはずします。
【ご注意】 データ保護のため、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを取りはずしてください。
- 
- ① 電源をはずす ② USBメモリーをはずす

【バージョンアップ操作後は、本製品の管理者用設定画面にアクセスして、ファームウェアバージョンを確認してください。】

USBメモリーに保存されたファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり本製品以外のものであるときは、ファームウェアの更新を中止します。

この章では、
管理者用の設定画面、アクセスしたときに表示される設定一覧について説明します。

1. 管理者用の設定画面にアクセスするときは	22
2. 設定画面の名称と機能について	23
3. 「設定一覧」画面	24
■ 設定一覧(製品情報)	24
■ 設定一覧(ネットワーク)	24
■ 設定一覧(外線電話番号)	24

【ご注意】

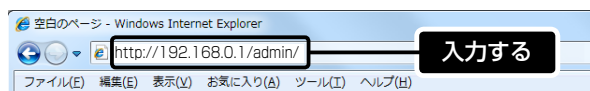
本製品を出荷時の状態に戻した場合は、本製品のLAN側IPアドレスは、「192.168.0.1 (出荷時の設定)」で動作します。
出荷時の状態に戻すと、ご使用になる端末を内線子機としてご利用いただけなくなりますので、ご契約の回線接続業者から指定された回線種別と契約者番号、本製品に接続する電話機の内線番号などを設定しなおしてください。

2 管理者用の設定画面について

1. 管理者用の設定画面にアクセスするときは

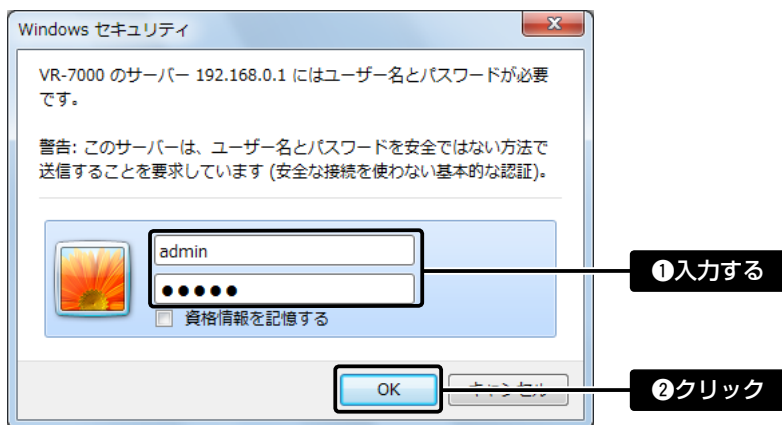
本製品に接続したパソコンのWWWブラウザから、管理者用の設定画面にアクセスする手順を説明します。

- 1 WWWブラウザを起動し、WWWブラウザのアドレスバーに「http://本製品に設定されたLAN側IPアドレス/admin/」を入力します。



※上図は、出荷時のLAN側IPアドレス(192.168.0.1)を入力した場合です。

- 2 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されます。
- 3 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックすると、管理者用の設定画面が表示されます。



TOP	設定一覧(製品情報)
ルーター機能設定	ファームウェアバージョン 1.0000
電話回線設定	WAN MACアドレス 00-00-00-00-00-00
Peer to Peer設定	LAN MACアドレス 00-00-00-00-00-00
簡単設定	設定一覧(ネットワーク)
PBX設定	WAN動作モード 使用しない
PBX拡張設定	WAN情報 -
	LAN IPアドレス 192.168.0.1
	DHCPサーバー機能 有効
	設定一覧(外線電話番号)
	アナログ回線1 -
	アナログ回線2 -

【不正アクセス防止のアドバイス】

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更すると効果があります。

【WWWブラウザについて】

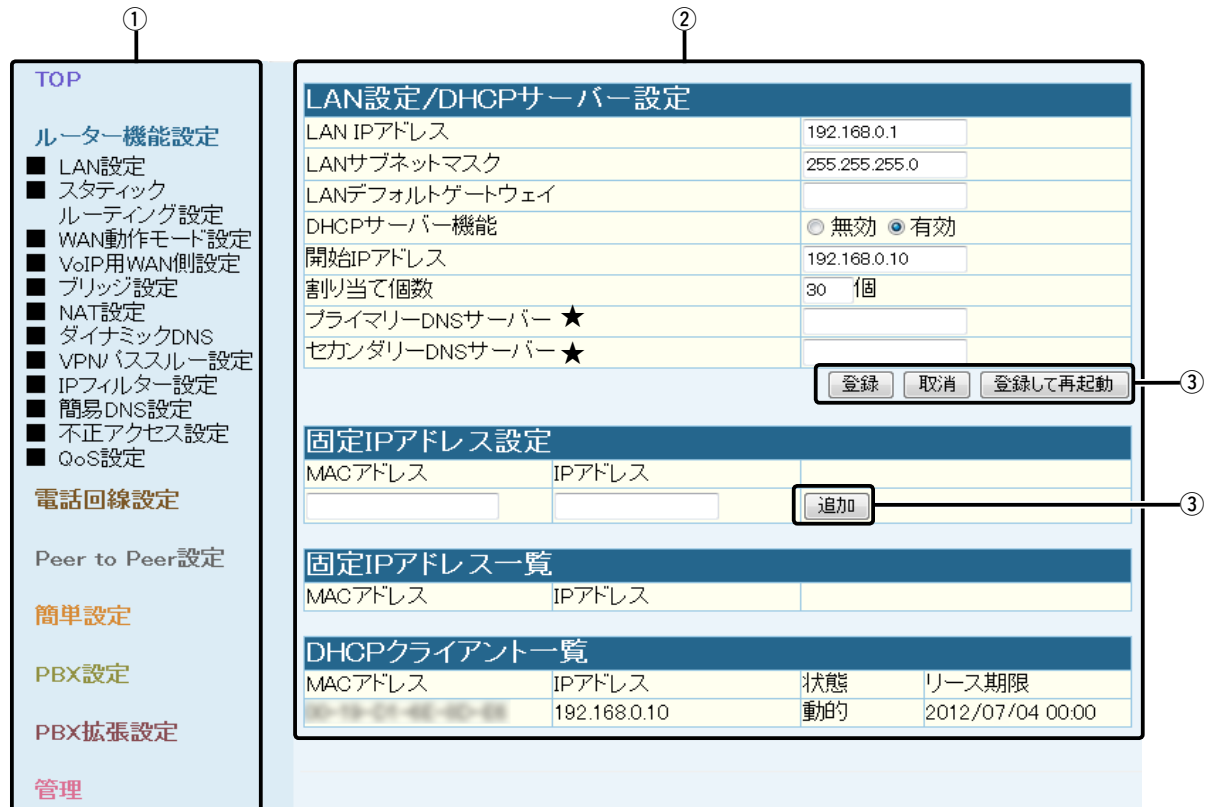
Microsoft Internet Explorer 8で動作確認しています。

設定画面が正しく表示できるように、WWWブラウザのJavaScript機能、およびCookieは有効にしてください。

※Microsoft Internet Explorer 7以前をご使用の場合は、正しく表示できないことがあります。

2. 設定画面の名称と機能について

管理者用の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
設定画面の構成について詳しくは、本書10章をご覧ください。



※説明には、管理者用の「LAN設定」画面を使用しています。

★「簡易DNS設定」画面で、[DNS代理応答機能] 欄の設定を「無効」にすると、表示されます。

- ① 設定画面選択メニュー ... 各メニューのタイトル上にマウスポインターを合わせてクリックすると、そのメニューに含まれる画面名を表示します。
- ② 設定画面表示エリア [設定画面選択メニュー] で選択したメニューに含まれる画面名(例: ルーター機能設定/LAN設定)をクリックしたとき、その内容を表示します。
- ③ 設定ボタン 設定した内容の登録や取り消しをします。
 <登録>をクリックして、「再起動が必要な項目が変更されています。」と表示されるときは、<登録して再起動>をクリックすると、画面上で確定された内容が再起動後に有効となります。
 再起動中は、下記の画面を表示します。

再起動中

再起動するまでXX秒です。

本体の起動を確認後、画面更新されない場合は、[Back]をクリックしてください。
[Back]

※再起動が完了(約50秒)するまで、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックしても、設定画面に戻りませんので、しばらくしてから再度クリックしてください。

※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

2 管理者用の設定画面について

3. 「設定一覧」画面

「設定一覧」—「TOP」

本製品の製品情報や設定内容を一覧で表示します。

■ 設定一覧(製品情報)

ファームウェアのバージョン情報、本製品の本体MACアドレス(WAN/LAN)を表示します。

設定一覧(製品情報)	
ファームウェアバージョン	V11120A
WAN MACアドレス	00-90-C7-4E-80-10
LAN MACアドレス	00-90-C7-4E-80-10

※MACアドレスは、本製品のようなネットワーク機器がそれぞれ独自に持っている機器固有の番号で、12桁(0090C7××××××)で表示されています。

※本製品本体に貼られているシリアルシール(☞P6)では、WAN側のMACアドレスを確認できます。

■ 設定一覧(ネットワーク)

WAN側、LAN側のIPアドレスなど、ネットワーク情報を表示します。

設定一覧(ネットワーク)	
WAN動作モード	使用しない
WAN情報	—
LAN IPアドレス	192.168.0.1
DHCPサーバー機能	有効

※「WAN側動作モード設定」画面で[回線種別]項目、[回線設定]項目を設定すると、[WAN情報]欄にWAN側のIPアドレスを表示します。

■ 設定一覧(外線電話番号)

本製品に設定した回線(外線電話番号)を表示します。

設定一覧(外線電話番号)	
アナログ回線1	—
アナログ回線2	—
ISDN回線1	—
ISDN回線2	—
ISDN回線3	—
IP回線	—

この章では、
管理者用の「ルーター機能設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「LAN設定」画面	27
■ LAN設定/DHCPサーバー設定	27
■ 固定IPアドレス設定	29
■ 固定IPアドレス一覧	29
■ DHCPクライアント一覧	29
2.「スタティックルーティング設定」画面	30
■ IP経路情報	30
■ スタティックルーティング設定	31
■ 現在の登録	31
3.「WAN側動作モード設定」画面	32
■ 回線状態表示 (DHCPクライアント設定時)	32
■ 回線状態表示 (固定IP設定時)	33
■ 回線状態表示 (PPPoE設定時)	34
■ 回線種別設定	35
■ 回線設定 (DHCPクライアント設定時)	36
■ 回線設定 (固定IP設定時)	37
■ 回線設定 (PPPoE設定時)	38
■ 回線設定一覧 (PPPoE設定時)	39
4.「VoIP用WAN側設定」画面	40
■ 回線状態表示 (ひかり電話(網直収))	40
■ 回線種別設定 (ひかり電話(網直収))	41
■ 回線設定 (ひかり電話(網直収))	41
5.「ブリッジ設定」画面	42
■ PPPoEブリッジ	42
■ IPv6ブリッジ	42

(次ページにつづく)

【表示される設定項目について】

◎「ルーター機能設定」メニューの「WAN側動作モード設定」画面で表示される[回線種別設定]項目の設定内容に応じて、表示される設定項目が一部変更になります。

(DHCPクライアント設定時) は、「DHCPクライアント」を選択したときに表示される設定項目です。

(固定IP設定時) は、「固定IP」を選択したときに表示される設定項目です。

(PPPoE設定時) は、「PPPoE」を選択したときに表示される設定項目です。

◎「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面で表示される[SIPサーバー接続共通設定]項目の設定内容に応じて、表示される設定項目が一部変更になります。

(ひかり電話(網直収)) は、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定項目です。

3 「ルーター機能設定」メニュー

下記は、前ページからの「つづき」です。

6.「NAT設定」画面	43
■ アドレス変換設定	43
■ DMZホスト設定	43
■ 静的マスカレードテーブル設定	44
■ 現在の登録	44
7.「ダイナミックDNS」画面	45
■ ダイナミックDNS設定(1)/(2)	45
■ ダイナミックDNS登録状況	47
8.「VPNパススルー設定」画面	48
■ IPSecパススルー	48
■ PPTPパススルー	49
9.「IPフィルター設定」画面	50
■ IPフィルター設定	50
■ 現在の登録	54
10. 「簡易DNS設定」画面	55
■ DNSサーバーの代理応答	55
■ 簡易DNSサーバー設定	55
■ 現在の登録	55
11. 「不正アクセス設定」画面	56
■ ICMPステルス	56
12. 「QoS設定」画面	57
■ QoS設定	57
■ QoSルール設定	58
■ 現在の登録	58

1. 「LAN設定」画面

「ルーター機能設定」－「LAN設定」

本製品をネットワークに接続するための設定画面です。

■ LAN設定/DHCPサーバー設定

本製品のLAN側IPアドレスとDHCPサーバー機能を設定します。

LAN設定/DHCPサーバー設定			
LAN IPアドレス	①	192.168.0.1	
LANサブネットマスク	②	255.255.255.0	
LANデフォルトゲートウェイ	③		
DHCPサーバー機能	④	☐ 無効 ☒ 有効	
開始IPアドレス	⑤	192.168.0.10	
割り当て個数	⑥	30	個
プライマリーDNSサーバー	⑦		
セカンダリーDNSサーバー	⑧		

※ ⑦、⑧は、「簡易DNS設定」画面の[DNSサーバーの代理応答]項目にある[DNS代理応答機能]欄(※P55)を「無効」に設定した場合に表示されます。

- ① **LAN IPアドレス** …………… 本製品のLAN側IPアドレスを入力します。（出荷時の設定：192.168.0.1）
 本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークアドレスに変更してください。
 ※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合は、[開始IPアドレス]欄についてもネットワーク部を同じに設定してください。

- ② **LANサブネットマスク** … 本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。（出荷時の設定：255.255.255.0）
 ※本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

【例：「255.255.255.248」に設定する場合】

同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲は、「192.168.0.0～192.168.0.7」になります。

この場合、端末に割り当てできるIPアドレスの範囲は、「192.168.0.2～192.168.0.6」です。

なお、端末に割り当てできないIPアドレスは次のようになります。

「192.168.0.0」：ネットワークアドレス

「192.168.0.1」：本製品のIPアドレス

「192.168.0.7」：ブロードキャストアドレス

- ③ **LANデフォルトゲートウェイ** ……………

本製品のLAN側に、ほかのルーターなどデフォルトゲートウェイ装置があり、これを利用する場合、その装置のIPアドレスを入力します。

※LAN側にデフォルトゲートウェイが設定されていても、WAN側にデフォルトゲートウェイが作成された場合WAN側経路を優先します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

1. 「LAN設定」画面

「ルーター機能設定」－「LAN設定」

■LAN設定/DHCPサーバー設定(つづき)

LAN設定/DHCPサーバー設定			
LAN IPアドレス	①	192.168.0.1	
LANサブネットマスク	②	255.255.255.0	
LANデフォルトゲートウェイ	③		
DHCPサーバー機能	④	☐ 無効 ☒ 有効	
開始IPアドレス	⑤	192.168.0.10	
割り当て個数	⑥	30	個
プライマリーDNSサーバー	⑦		
セカンダリーDNSサーバー	⑧		

※ ⑦、⑧は、「簡易DNS設定」画面の[DNSサーバーの代理応答]項目にある[DNS代理応答機能]欄(☞P55)を「無効」に設定した場合に表示されます。

④ **DHCPサーバー機能** …… 本製品のDHCPサーバー機能を設定します。 (出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、本製品に有線、および無線で接続している端末がTCP/IP設定を「IPアドレスを自動的に取得する」にしている場合、本製品のDHCPクライアントになります。

⑤ **開始IPアドレス** …… 本製品に有線、および無線で接続する端末へ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。 (出荷時の設定: 192.168.0.10)

⑥ **割り当て個数** …… 本製品が自動割り当てできるIPアドレスの個数を設定します。 (出荷時の設定: 30)
[開始IPアドレス](⑤)欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当てできるIPアドレスの最大個数は、「0～128」(個)までです。
※最大個数には、無線LANで接続する端末を含みます。
※128個を超える分については設定できませんので、手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てをしません。

⑦ **プライマリーDNSサーバー** 必要に応じて使い分けたいDNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバーアドレスをDHCPクライアントに通知します。
※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合に有効です。
※「簡易DNS設定」画面の[DNSサーバーの代理応答]項目にある[DNS代理応答機能]欄(☞P55)が「有効」(出荷時の設定)に設定されている場合、設定は無効になり、表示されません。

⑧ **セカンダリーDNSサーバー** [プライマリーDNSサーバー](⑦)欄と同様に、使い分けたいDNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。
※「簡易DNS設定」画面の[DNSサーバーの代理応答]項目にある[DNS代理応答機能]欄(☞P55)が「有効」(出荷時の設定)に設定されている場合、設定は無効になり、表示されません。

1. 「LAN設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」→「LAN設定」

■ 固定IPアドレス設定

固定IPアドレスを特定の端末に割り当てる設定です。

固定IPアドレス設定		
MACアドレス	IPアドレス	
		追加

端末のMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録します。

※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。

※最大32個の組み合わせまで登録できます。

※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合に有効です。

※DHCPサーバー機能により自動で割り当てられるIPアドレスの範囲外でIPアドレスを設定してください。

例: [LAN設定/DHCPサーバー設定]項目(☞P27)で、[開始IPアドレス]欄と[割り当て個数]欄が出荷時の設定の場合は、192.168.0.40以降のIPアドレスを設定してください。

※本製品のWAN側、およびLAN側のIPアドレスと重複しないように設定してください。

■ 固定IPアドレス一覧

[固定IPアドレス設定]項目で登録した内容を表示します。

固定IPアドレス一覧		
MACアドレス	IPアドレス	
00-00-00-00-00-00	192.168.0.50	削除
00-00-00-00-00-00	192.168.0.100	削除

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

■ DHCPクライアント一覧

本製品のDHCPサーバー機能を使用している場合、本製品に接続する端末に割り当てされたIPアドレスの状態と有効期限を表示します。

DHCPクライアント一覧			
MACアドレス	IPアドレス	状態	リース期限
00-00-00-00-00-00	192.168.0.10	動的	2012/07/04 09:27
00-00-00-00-00-00	192.168.0.50	静的	
00-00-00-00-00-00	192.168.0.100	静的	

※[状態]欄には、「動的」/「静的」/「解放済」を表示します。

※[リース期限]欄は、[状態]欄が「動的」のときだけ表示されます。

※最大160件(自動割り当て128個+固定割り当て32個)表示します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

2. 「スタティックルーティング設定」画面

「ルーター機能設定」-「スタティックルーティング設定」

通信経路(ルート)についての設定画面です。

■ IP経路情報

ルーターがパケットの送信において、そのパケットをどのルーター、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。

IP経路情報	②	③	④	⑤
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	作成
127.0.0.0	255.0.0.0	127.0.0.1	lo0	misc
127.0.0.1	255.255.255.255	127.0.0.1	lo0	host
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	mirror0	misc
192.168.0.1	255.255.255.255		lo0	host

※この項目には、現在有効な経路だけを表示します。

- ①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②サブネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④経路 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを表示します。
◎lo0 : ループバックアドレスを意味するインターフェース
◎vr1 : インターフェースが有線WANの場合
◎pppoe0 : インターフェースがWAN側PPPoEの場合
◎mirror0 : インターフェースが有線LANの場合
- ⑤作成 どのように経路情報が作成されたかを表示します。
◎static : スタティック(定義された)ルートにより作成
◎misc : ブロードキャストに関するフレーム処理で作成
◎host : ホストルートにより作成

2. 「スタティックルーティング設定」画面(つづき) 「ルーター機能設定」-「スタティックルーティング設定」

■スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を最大32件まで登録できます。

スタティックルーティング 設定			
宛先①	サブネットマスク②	ゲートウェイ③	④
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	追加

※画面の値は、入力例です。

- ①宛先 対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
- ②サブネットマスク 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ③ゲートウェイ パケット転送先ルーターのIPアドレスを入力します。
- ④〈追加〉 入力内容が登録され、[現在の登録]項目に表示します。

■現在の登録

[スタティックルーティング設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録			
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	削除

※画面の値は、入力例です。

- 〈削除〉..... 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN側動作モード設定」画面

「ルーター機能設定」→「WAN側動作モード設定」

本製品をインターネットに接続するための設定画面です。

■ 回線状態表示 (DHCPクライアント設定時)

登録された回線への接続状態を表示します。

回線状態表示	
接続状態	① 接続試行中 再接続 最新状態に更新
回線種別	② DHCPクライアント
DNSサーバー	③
本体側のIPアドレス	④
相手先のIPアドレス	⑤
接続時間	⑥

※ ①の〈再接続〉は、「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄を「サーバー接続」、または「使用しない」に設定したとき、表示されるボタンです。

- ① **接続状態** WAN側回線への接続状態を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。
 〈再接続〉
 WAN側回線に再接続するとき、クリックします。
 ※「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄を「ひかり電話(GW配下)」に設定したとき、表示されるボタンです。
 〈最新状態に更新〉
 現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
 ※クリックしても[接続状態]欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ② **回線種別** 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ③ **DNSサーバー** 手動設定、またはDHCPで自動取得したDNSサーバーIPアドレスを表示します。
- ④ **本体側のIPアドレス** 本製品のWAN側に自動取得したIPアドレスを表示します。
- ⑤ **相手先のIPアドレス** DHCPで自動取得したゲートウェイIPアドレスを表示します。
- ⑥ **接続時間** ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
 最新の接続時間を表示させるときは、〈最新状態に更新〉をクリックします。

3. 「WAN側動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」→「WAN側動作モード設定」

■ 回線状態表示 (固定IP設定時)

登録された回線への接続状態を表示します。

回線状態表示		
接続状態	①	未接続 最新状態に更新
回線種別	②	固定IP
DNSサーバー	③	
本体側のIPアドレス	④	
相手先のIPアドレス	⑤	
接続時間	⑥	

- ① **接続状態** WAN側回線への接続状態を「未接続」/「接続中」で表示します。
 〈最新状態に更新〉
 現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
 ※クリックしても[接続状態]欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容やWAN側の接続ケーブル(リンク状態)をご確認ください。
- ② **回線種別** 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ③ **DNSサーバー** 手動設定したDNSサーバーIPアドレスを表示します。
- ④ **本体側のIPアドレス** 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。
- ⑤ **相手先のIPアドレス** 手動設定したデフォルトゲートウェイIPアドレスを表示します。
- ⑥ **接続時間** ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
 最新の接続時間を表示させるときは、〈最新状態に更新〉をクリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN側動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」→「WAN側動作モード設定」

■回線状態表示 (PPPoE設定時)

登録された回線への接続状態を表示します。

回線状態表示	
接続先の選択	① WAN01 ▼ 接続 最新状態に更新
接続状態	② 未接続
回線種別	③ PPPoE
DNSサーバー	④
本体側のIPアドレス	⑤
相手先のIPアドレス	⑥
接続時間	⑦

- ① 接続先の選択 [回線設定]項目(☞P38)で登録したWAN側回線への接続先から選択します。
※回線接続中は、選択できません。
〈接続〉/〈切断〉
手動で回線を接続、および切断するとき、クリックします。
※〈切断〉は、回線が接続されているとき表示します。
〈最新状態に更新〉
現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状態](②)欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ② 接続状態 WAN側回線への接続状態を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。
- ③ 回線種別 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ④ DNSサーバー ご契約の回線接続業者のDNSサーバーIPアドレスを表示します。
- ⑤ 本体側のIPアドレス 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。
- ⑥ 相手先のIPアドレス ご契約の回線接続業者のIPアドレスを表示します。
- ⑦ 接続時間 ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、〈最新状態に更新〉をクリックします。

3. 「WAN側動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」－「WAN側動作モード設定」

■ 回線種別設定

本製品の回線種別についての設定です。

回線種別設定	
回線種別	使用しない ▼

回線種別.....

ご契約の回線接続業者から指定された回線種別を選択します。

(出荷時の設定: 使用しない)

「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」を設定したときは、ルーター機能が有効になり、本製品のWAN側ポートが使用できます。

◎回線を本製品のWAN側ポートに接続しない場合

使用しない

回線を本製品のWAN側ポートに接続しても通信できません。

◎回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合

ブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置と接続できます。

DHCPクライアント

ルーター機能を使用する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から「DHCP」方式で取得します。

※「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定] 項目の[接続先の選択] 欄を「ひかり電話(網直収)」に設定したときは、選択できません。

固定IP

ルーター機能を使用する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から指定された固定のIPアドレスを割り当てて使用するときを選択します。

※「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定] 項目の[接続先の選択] 欄を「ひかり電話(網直収)」に設定したときは、選択できません。

PPPoE

本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から「PPPoE」方式で取得します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN側動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」→「WAN側動作モード設定」

■回線設定 (DHCPクライアント設定時)

本製品のWAN側について設定します。

回線設定	
接続先名 ①	
プライマリDNSサーバー ②	
セカンダリDNSサーバー ③	

- ① **接続先名** ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ② **プライマリDNSサーバー** ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
- ③ **セカンダリDNSサーバー** [プライマリDNSサーバー] (②) 欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

【DHCPによる自動取得について】

DHCPクライアント設定時、[プライマリDNSサーバー]欄、[セカンダリDNSサーバー]欄が共に空白の場合、DHCPによる自動取得を開始します。

自動取得に成功すると、[回線状態表示]項目の[DNSサーバー]欄にIPアドレスが表示されます。(P32)

3. 「WAN側動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」→「WAN側動作モード設定」

■ 回線設定 (固定IP設定時)

本製品のWAN側について設定します。

回線設定	
接続先名	①
IPアドレス	②
サブネットマスク	③
デフォルトゲートウェイ	④
プライマリーDNSサーバー	⑤
セカンダリーDNSサーバー	⑥

- ① **接続先名** ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ② **IPアドレス** ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ③ **サブネットマスク** ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ④ **デフォルトゲートウェイ** ご契約の回線接続業者から指定された本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑤ **プライマリーDNSサーバー** ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
- ⑥ **セカンダリーDNSサーバー** [プライマリーDNSサーバー](⑤)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN側動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」→「WAN側動作モード設定」

■回線設定 (PPPoE設定時)

本製品のWAN側について設定します。

回線設定		
接続先の選択	①	WAN01 ▼
接続先名	②	WAN01
ユーザーID	③	
パスワード	④	●●●●●●●●●●●●●●●●
接続方法	⑤	常時 ▼
IPアドレス	⑥	
プライマリーDNSサーバー	⑦	
セカンダリーDNSサーバー	⑧	
認証プロトコル	⑨	接続先に合わせる ▼
MSS制限値	⑩	1322

- ① 接続先の選択 接続先を追加するときは、〈▼〉をクリックして、「WAN01」～「WAN08」(最大8件まで設定可能)から選択します。 (出荷時の設定:WAN01)
登録されている接続先の内容を変更するときは、編集する接続先名を選択します。
- ② 接続先名 ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ ユーザーID ご契約の回線接続業者から指定されたログインユーザー名、またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して入力します。
- ④ パスワード ご契約の回線接続業者から指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して入力します。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑤ 接続方法 「PPPoE」回線への接続方法を選択します。 (出荷時の設定:常時)
◎手動
[回線状態表示]項目(☞P34)の〈接続〉/〈切断〉をクリックして、回線を手動で接続、または切断できます。
※本製品を起動したときは、切断された状態です。
◎常時
常時接続します。
[接続先の選択]①欄で指定した接続先と常に接続状態を保持します。
※本製品を起動したときは、接続された状態です。
※[回線状態表示]項目の〈接続〉/〈切断〉(☞P34)をクリックすると、手動で操作できます。
- ⑥ IPアドレス ご契約の回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

3. 「WAN側動作モード設定」画面

「ルーター機能設定」－「WAN側動作モード設定」

■ 回線設定(つづき) PPPoE設定時

- | | |
|------------------------|---|
| ⑦ プライマリDNSサーバー | ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。
DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。 |
| ⑧ セカンダリDNSサーバー | [プライマリDNSサーバー](⑦)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。 |
| ⑨ 認証プロトコル | ご契約の回線接続業者から指定された、認証プロトコルを設定します。
(出荷時の設定: 接続先に合わせる)
指定のない場合は、「接続先に合わせる」でご使用ください。 |
| | <p>◎PAP</p> <p>パスワードによってユーザーを識別します。
パスワードが暗号化されないなどの弱点があります。</p> <p>◎CHAP</p> <p>認証情報のやり取りが暗号化されるため、PAPよりも安全性が高い認証プロトコルです。</p> |
| ⑩ MSS制限値 | <p>ご契約の回線接続業者から指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。
(出荷時の設定: 1322)</p> <p>設定できる範囲は、「536～1452(バイト)」です。
MSS値とは、受信できるTCP最大セグメントサイズのことです。
一般に、MSS値は、フラグメントが発生しない範囲で大きいほどよいとされています。
しかし、[PPPoE]回線のMTUは、通常のEthernetのMTU(1500バイト)より小さいためMSS値が大きくなりすぎると、パケットがインターネット上を通過しないことがありますのでご注意ください。</p> |

- ⑧ **セカンダリーDNSサーバー** [プライマリーDNSサーバー] (⑦) 欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

- ⑨ 認証プロトコル …………… ご契約の回線接続業者から指定された、認証プロトコルを設定します。
(出荷時の設定: 接続先に合わせる)
指定のない場合は、「接続先に合わせる」でご使用ください。

©PAP

パスワードによってユーザーを識別します。
パスワードが暗号化されないなどの弱点があります。

©CHAP

認証情報のやり取りが暗号化されるため、PAPよりも安全性が高い認証プロトコルです。

- ⑩MSS制限値
ご契約の回線接続業者から指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。 (出荷時の設定:1322)
設定できる範囲は、「536～1452(バイト)」です。
MSS値とは、受信できるTCP最大セグメントサイズのことです。
一般に、MSS値は、フラグメントが発生しない範囲で大きいほどよいとされています。
しかし、[PPPoE]回線のMTUは、通常のEthernetのMTU(1500バイト)より小さいためMSS値が大きくなりすぎると、パケットがインターネット上を通過しないことがありますのでご注意ください。

■ 回線設定一覧 PPPoE設定時

「回線設定」項目(☞P38～P39)で登録した接続先の一覧です。

回線設定一覧			
接続先名	ユーザーID	接続方法	
WAN01		常時	削除

- 〈削除〉…………… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

4. 「VoIP用WAN側設定」画面

「ルーター機能設定」－「VoIP用WAN側設定」

「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄(☎P72)を「ひかり電話(網直収)」に設定したときだけ表示され、設定できる画面です。

■ 回線状態表示 ひかり電話(網直収)

ご契約の回線接続業者との接続状態を表示します。

回線状態表示	
接続状態	① 接続中 最新状態に更新
回線種別	② DHCPクライアント(自動)
DNSサーバー	③
本体側のIPアドレス	④
相手先のIPアドレス	⑤
接続時間	⑥ 0 days 00:00:00

- ① 接続状態

.....

本製品に設定されている回線への接続状態を「未接続」/「接続中」で表示します。
最新状態に更新
現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状態]欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容やWAN側の接続ケーブル(リンク状態)をご確認ください。
- ② 回線種別

.....

本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ③ DNSサーバー

.....

ご契約の回線接続業者のDNSサーバーIPアドレスを表示します。
- ④ 本体側のIPアドレス

.....

本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。
- ⑤ 相手先のIPアドレス

.....

ご契約の回線接続業者のIPアドレスを表示します。
- ⑥ 接続時間

.....

ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、最新状態に更新をクリックします。

4. 「VoIP用WAN側設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「VoIP用WAN側設定」

■ 回線種別設定 (ひかり電話(網直収))

本製品をひかり電話(網直収)でお使いになる場合に有効な設定です。

回線種別設定	
回線種別	DHCPクライアント(自動) ▼

回線種別.....

ひかり電話網より割り当てられるIPアドレスの設定です。

回線事業者からの指定のない限り、出荷時の設定で使します。

(出荷時の設定:DHCPクライアント(自動))

◎回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合

ブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置と接続できます。

DHCPクライアント(自動)

ひかり電話用WAN側IPアドレス、DNSアドレスをDHCP方式で自動取得します。

DHCPクライアント(手動)

ひかり電話用WAN側IPアドレスをDHCP方式で自動取得、DNSアドレスを[回線設定]項目に手動で設定します。

■ 回線設定 (ひかり電話(網直収))

ご契約の回線接続業者から指定されたWAN側のDNSサーバーアドレスについての設定です。

※[回線種別設定]項目の[回線種別]欄を「DHCPクライアント(手動)」に設定したときだけ表示される画面です。

回線設定	
プライマリーDNSサーバー ①	
セカンダリーDNSサーバー ②	

① プライマリーDNSサーバー

ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。
DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。

② セカンダリーDNSサーバー

[プライマリーDNSサーバー](①)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

5. 「ブリッジ設定」画面

「ルーター機能設定」-「ブリッジ設定」

本製品のブリッジ機能についての設定画面です。

■ PPPoEブリッジ

本製品のPPPoEブリッジ機能を設定します。

PPPoEブリッジ	
PPPoEブリッジ機能	☒ 無効 ☐ 有効

PPPoEブリッジ機能 ……… 本製品の[LAN]ポートに接続されたパソコン、またはルーター(市販品)から異なるPPPoE接続をするための設定です。 (出荷時の設定: 無効)
「有効」に設定すると、WANとLAN間でPPPoEフレームをブリッジします。

■ IPv6ブリッジ

本製品のIPv6ブリッジ機能を設定します。

IPv6ブリッジ	
IPv6ブリッジ機能	☒ 無効 ☐ 有効

IPv6ブリッジ機能 ……… 本製品の[LAN]ポートに接続されたパソコン、またはルーター(市販品)からのIPv6パケットを透過するための設定です。 (出荷時の設定: 無効)
「有効」に設定すると、WANとLAN間でIPv6フレームをブリッジします。

6. 「NAT設定」画面

「ルーター機能設定」－「NAT設定」

静的マスカレードと静的NATの設定画面です。

■ アドレス変換設定

本製品のアドレス変換機能を設定します。

※回線種別を「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」に設定(※P35)したとき、使用できる機能です。

アドレス変換設定	
アドレス変換機能	☐ 無効 ☒ 有効

アドレス変換機能…………… 本製品のアドレス変換機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)
 「有効」に設定すると、本製品のIPマスカレード機能を使用して、WAN側グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換します。

■ DMZホスト設定

本製品のDMZホスト機能を設定します。

DMZホスト設定	
DMZホスト IPアドレス	

DMZホスト IPアドレス…………… DMZホスト機能(非武装セグメント)の対象となるパソコン(ホスト)のIPアドレスを入力します。
 DMZホスト機能を使用すると、WAN(インターネット)側から発信された転送先不明のIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。これにより、本製品のLAN側に存在する端末で各種サーバーを運用したり、ネットワーク対戦ゲームなどができますが、転送先に設定した端末のIPアドレスに対してセキュリティが低下しますので、ご使用には十分ご注意ください。
 ※DMZホスト機能と静的マスカレードテーブルを同時に使用した場合は、静的マスカレードテーブルの設定が優先されます。

3 「ルーター機能設定」メニュー

6. 「NAT設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「NAT設定」

■静的マスカレードテーブル設定

静的にIPマスカレード変換をするための設定です。

テーブルに追加すると、マスカレードIP(ルーターグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルとポート番号により判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へ転送します。

静的マスカレードテーブル 設定				
WAN側ポート①	LAN側IP②	LAN側ポート③	プロトコル④	⑤
指定 ▼		指定 ▼	TCP ▼	追加

- ①WAN側ポート [プロトコル] (④)欄で選択したプロトコルに対するWAN側ポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、TELNET、Web、Whois)から選択します。
- ②LAN側IP 該当するパケットを転送するLAN側プライベートIPアドレスを入力します。
- ③LAN側ポート [プロトコル] (④)欄で選択したプロトコルに対するLAN側ポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、TELNET、Web、Whois)から選択します。
- ④プロトコル TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
- ⑤<追加> 静的マスカレードテーブルを本製品に登録するとき、クリックします。
※最大32個のマスカレードテーブルを登録できます。
※[現在の登録]項目で、<編集>をクリックしたときは、<更新>を表示します。

■現在の登録

[静的マスカレードテーブル設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録					
WAN側ポート	LAN側IP	LAN側ポート	プロトコル	①	②
Web	192.168.0.100	Web	TCP	編集	削除
12380	192.168.0.2	Web	TCP	編集	削除
12381	192.168.0.3	Web	TCP	編集	削除
21500	192.168.0.4	21500	UDP	編集	削除

※画面の値は、入力例です。

- ①<編集> 登録した内容を編集するときは、該当する欄の<編集>をクリックします。
※登録されている内容は、[静的マスカレードテーブル設定]項目に表示します。
- ②<削除> 登録した内容を削除するときは、該当する欄の<削除>をクリックします。

7. 「ダイナミックDNS」画面

「ルーター機能設定」-「ダイナミックDNS」

ダイナミックDNSサーバーに現在のIPアドレスを自動登録するための設定画面です。

■ダイナミックDNS設定(1)/(2)

ダイナミックDNSサービスから取得したドメインと、本製品のWAN側IPアドレスの関連付けについて登録、および更新するための設定です。

ダイナミックDNS設定(1)		
自動更新機能	①	☒ 無効 ☐ 有効
定期更新間隔	②	10 日
ダイナミックDNSサーバー	③	RFC2136
サーバーURL	④	
ホスト名	⑤	
ドメイン	⑥	
ユーザーID	⑦	
パスワード	⑧	
接続状態	⑨	☒ オンライン ☐ オフライン

※「RFC2136」を選択したときの[ダイナミックDNS設定(1)]項目を使用して説明しています。

- ① **自動更新機能** ダイナミックDNSサーバーへIPアドレスを自動更新する機能です。
(出荷時の設定: 無効)
「有効」に設定すると、本製品のWAN側(ご契約の回線接続業者から本製品に自動配布される)IPアドレスが変更されたらすぐに、ダイナミックDNSサーバーへの登録を自動で更新します。
※自動更新に失敗した場合は、その後、1時間ごとに自動更新します。
※「無効」を設定したときは、[定期更新間隔](②)欄も無効になります。
- ② **定期更新間隔** ダイナミックDNSサーバーへの登録間隔を設定します。
設定できる範囲は、「1～99」(日)です。(出荷時の設定: 10)
※ご利用になるダイナミックDNSサーバーによっては、一定期間更新がないと、取得したドメインが無効になるため、定期的に更新することで防止できます。
- ③ **ダイナミックDNSサーバー** ダイナミックDNSサーバーを選択します。(出荷時の設定: 使用しない)
本製品では、「RFC2136」(RFC2136方式のダイナミックDNSサーバー)と「DynamicDO!」をご利用になれます。
- ④ **サーバーURL** ご利用になるダイナミックDNSサーバーがRFC2136方式のとき、そのダイナミックDNSサーバーのURLを半角127文字以内で入力します。
※サーバーURLは、[ダイナミックDNSサーバー](③)欄で「RFC2136」を選択したときだけ表示されます。
- ⑤ **ホスト名** ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したホスト名を半角31文字以内で入力します。
- ⑥ **ドメイン** ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したドメインを半角31文字以内で入力します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

7. 「ダイナミックDNS」画面

「ルーター機能設定」-「ダイナミックDNS」

■ダイナミックDNS設定(1)/(2)つづき

ダイナミックDNS設定(1)	
自動更新機能	① ☒ 無効 ☐ 有効
定期更新間隔	② 10 日
ダイナミックDNSサーバー	③ RFC2136
サーバーURL	④
ホスト名	⑤
ドメイン	⑥
ユーザーID	⑦
パスワード	⑧
接続状態	⑨ ☒ オンライン ☐ オフライン

※「RFC2136」を選択したときの[ダイナミックDNS設定(1)]項目を使用して説明しています。

- ⑦ **ユーザーID** ご利用になるダイナミックDNSサーバーへ接続するためのユーザーIDを半角31文字以内で入力します。
- ⑧ **パスワード** ご利用になるダイナミックDNSサーバーへ接続するためのパスワードを半角31文字以内で入力します。
入力中の文字は、すべて* (アスタリスク)、または● (黒丸) で表示します。
- ⑨ **接続状態** メンテナンスなどで、本製品を一時的に使用しない場合に、あらかじめ、ご利用になるダイナミックDNSサーバーへ「オフライン」であることを通知するときに使用します。
(出荷時の設定: オンライン)

7. 「ダイナミックDNS」画面

「ルーター機能設定」-「ダイナミックDNS」

■ダイナミックDNS登録状況

ダイナミックDNSの自動更新機能を使用時、自動更新状況を表示します。

ダイナミックDNS登録状況			
			① 登録状態の更新
	③ 登録時刻	④ 登録状態	ホストアドレス⑤ IPアドレス ⑥
設定1 ② 再登録	2012/07/06 17:16	IPアドレスを更新しました	
設定2 ② 再登録	2012/07/06 17:36	IPアドレスを更新しました	

※画面の内容は、表示例です。

- ①<登録状態の更新> <登録状態の更新>をクリックすると、[ダイナミックDNS登録状況]項目に表示される内容を更新します。
- ②<再登録> 設定1/設定2の<再登録>をクリックすると、本製品に設定されたWAN側IPアドレスを、[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目で選択したダイナミックDNSサーバーに送信します。
- ③登録時刻 ご契約の回線接続業者から本製品に自動配布されるIPアドレスの変更を、ご利用のダイナミックDNSサーバーに自動アップデート(更新)されたときの時刻を表示します。
- ④登録状態 正常に自動アップデートされたときは、「IPアドレスを更新しました」を表示します。
 ※[ダイナミックDNS登録状況]項目に表示される内容は、<登録状態の更新>をクリックするまで更新されません。
 ※下記の場合は、ご利用になるダイナミックDNSサーバーからの情報が、[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目の各欄に正しく設定されているかをご確認ください。
 ◎「ダイナミックDNSサーバーにアクセスできませんでした」
 ◎「ダイナミックDNSサーバーにログインできませんでした」
 ◎「ダイナミックDNSサーバーからエラーが返されました」
 ◎「設定エラー」
 ◎「スクリプトエラー」など
- ⑤ホストアドレス ダイナミックDNSサーバーに登録されているホスト名を表示します。
 ※[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目(※P45)の[ホスト名]欄、[ドメイン]欄に入力した内容です。
 ※ホスト名「dynamicdo」、ドメイン「ddo.jp」を登録した場合は、「dynamicdo.ddo.jp」と表示されます。
- ⑥IPアドレス 現在、ダイナミックDNSサーバーに登録されているグローバルIPアドレスを表示します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

8. 「VPNパススルー設定」画面

「ルーター機能設定」-「VPNパススルー設定」

インターネット経由で仮想プライベートネットワーク(VPN)サーバーにアクセスするための設定です

■ IPsecパススルー

IPsecによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。

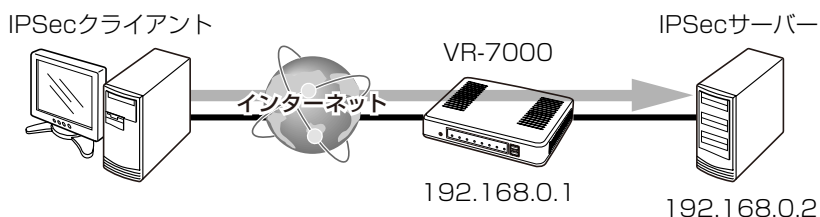
IPsecパススルー

IPsecパススルー機能 ☐ 無効 ☒ 有効

IPsecパススルー機能 ……

インターネットを経由してLAN側のIPsecクライアントからWAN側のIPsecサーバーへアクセスするときに設定します。(出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、IPsec ESPトンネルモードにおいてLAN側イニシエーター、レスポンドーともに透過します。

※下図のように、WAN側のIPsecクライアントからIKE(Internet Key Exchange)をLAN側のIPsecサーバーへ転送する場合は、「NAT設定」画面にある「静的マスカレードテーブル設定」項目(P44)で、開放するポート(UDP/500番)の登録が必要です。



【登録例】 [LAN側IP] 欄には、IPsecサーバーのIPアドレス(例:192.168.0.2)を入力します。

静的マスカレードテーブル設定

WAN側ポート	LAN側IP	LAN側ポート	プロトコル	
指定 ▼ 500	192.168.0.2	指定 ▼ 500	UDP ▼	更新

現在の登録

WAN側ポート	LAN側IP	LAN側ポート	プロトコル	
500	192.168.0.2	500	UDP	編集 削除

8. 「VPNパススルー設定」画面

「ルーター機能設定」-「VPNパススルー設定」

■PPTPパススルー

PPTPによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。

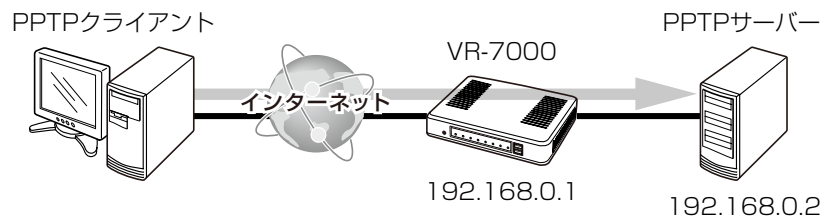
PPTPパススルー

PPTPパススルー機能 ☐ 無効 ☒ 有効

PPTPパススルー機能……………

インターネットを経由してLAN側のPPTPクライアントからWAN側のPPTPサーバーへアクセスするときに設定します。(出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、LAN側のPPTPサーバーへWAN側のPPTPクライアントからアクセスすることもできます。

※下図のように、WAN側のPPTPクライアントからLAN側のPPTPサーバーへ転送する場合は、「NAT設定」画面にある「静的マスカレードテーブル設定」項目(※P44)で、開放するポート(TCP/1723番)の登録が必要です。



【登録例】 [LAN側IP] 欄には、PPTPサーバーのIPアドレス(例:192.168.0.2)を入力します。

静的マスカレードテーブル設定

WAN側ポート	LAN側IP	WAN側ポート	プロトコル	
指定 ▼ 1723	192.168.0.2	指定 ▼ 1723	TCP ▼	更新

現在の登録

WAN側ポート	LAN側IP	WAN側ポート	プロトコル	
1723	192.168.0.2	1723	TCP	編集 削除

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

本製品のIPフィルターについての設定画面です。

■ IPフィルター設定

登録した条件に該当するパケットの通過と阻止についての設定です。

IPフィルター 設定	
番号	① 1
エントリーの動作	② ☒ 無効 ☐ 有効
フィルター方法	③ ☐ 遮断 ☒ 透過
フィルター方向	④ ☒ IN ☐ OUT
プロトコル	⑤ すべて 指定時:
TCPフラグ	⑥ 指定なし
送信元IPアドレス	⑦ マスク 32
送信元ポート番号	⑧ すべて 指定時: ~
宛先IPアドレス	⑨ マスク 32
宛先ポート番号	⑩ すべて 指定時: ~
ステートフルインスペクション(SPI)機能	⑪ ☒ 無効 ☐ 有効
フィルター検索合致時の動作	⑫ ☒ 検索を終了 ☐ 検索を継続
SYSLOGに出力	⑬ ☒ 無効 ☐ 有効

①番号 IPフィルターが比較する順位を指定します。
選択できる範囲は、「1」～「64」です。
IPフィルター機能を使用時、本製品が受信、または送信するパケットと[現在の登録]項目の内容を比較します。
出荷時、登録したIPフィルターと一致すると比較を終了するように設定されていますが、[フィルター検索合致時の動作](⑫)欄(※P53)で、フィルタリング処理方法を変更できます。

②エントリーの動作 登録するフィルターの使用について設定します。
(IPフィルター新規作成時の初期値:無効)
登録しても使用しないときは、「無効」を選択します。
「無効」で登録すると、下記の画面のように、[現在の登録]項目の[番号]欄に「3 (off)」を表示します。

3 (off)	透過	TCP (指定なし)	* (*)	無効	編集 削除
	IN		* (*)	検索を終了 無効	

③フィルター方法 フィルタリングの方法は、次の2とおりから選択します。
(IPフィルター新規作成時の初期値:透過)
◎遮断 : フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
◎透過 : フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。

④フィルター方向 フィルターの対象となるパケットの通信方向を設定します。
(IPフィルター新規作成時の初期値:IN)
◎IN : 受信するパケットに対してフィルタリング処理をします。
◎OUT : 送信するパケットに対してフィルタリング処理をします。

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■ IPフィルター設定(つづき)

- ⑤ **プロトコル** フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選択する項目です。 (IPフィルター新規作成時の初期値: すべて)
- ◎すべて : すべてのプロトコルに一致します。
 - ◎TCP : TCPだけに一致します。
 - ◎UDP : UDPだけに一致します。
 - ◎TCP/UDP : TCPとUDPに一致します。
 - ◎ICMP : ICMPだけに一致します。
 - ◎IGMP : IGMPだけに一致します。
 - ◎指定 : 右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル番号は、「0～255」までの半角数字を10進数で入力します。

- ⑥ **TCPフラグ** [プロトコル] ⑤欄で「TCP」を選択したとき、フィルタリングの対象となるTCPの通信フラグを選択する項目です。
(IPフィルター新規作成時の初期値: 指定なし)
- 本製品で指定できるTCPフラグは、FIN、SYN、RST、PSH、ACK、URGです。
※選択したTCPフラグは、[現在の登録] 項目の [プロトコル(TCPフラグ)] 欄で、下記の画面のように表示(例: RST)します。

3	透過	TCP (RST)	* (*)	無効	編集
	IN		* (*)	検索を終了 無効	

※「指定なし」を選択した場合は、TCPのフラグオプションをフィルターの条件にしません。

- ⑦ **送信元IPアドレス** 送信元ホストのIPアドレス、サブネットマスク(ビット数)を設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリング処理します。
何も設定しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
マスク(ビット数)の選択できる範囲は、「1」～「32」です。

- ⑧ **送信元ポート番号** フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。 (IPフィルター新規作成時の初期値: すべて)
- 指定には、2とおりの方法があります。**

◎数字で指定するとき

1. 「指定」を選択します。
2. [指定時: (始点)～(終点)] 欄のテキストボックスに番号を入力します。
特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。

◎ニーモニックで指定するとき

- 「すべて」、「指定」以外の項目を選択します。
本製品で指定できるニーモニックは、「DNS」、「Finger」、「FTP」、「Gopher」、「NEWS」、「POP3」、「SMTP」、「Telnet」、「Web」、「Whois」です。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■IPフィルター設定(つづき)

IPフィルター設定	
番号	①
エントリーの動作	② ☒ 無効 ☐ 有効
フィルター方法	③ ☐ 遮断 ☒ 透過
フィルター方向	④ ☒ IN ☐ OUT
プロトコル	⑤ すべて 指定時:
TCPフラグ	⑥ 指定なし
送信元IPアドレス	⑦ マスク 32
送信元ポート番号	⑧ すべて 指定時: ~
宛先IPアドレス	⑨ マスク 32
宛先ポート番号	⑩ すべて 指定時: ~
ステートフルインスペクション(SPI)機能	⑪ ☒ 無効 ☐ 有効
フィルター検索合致時の動作	⑫ ☒ 検索を終了 ☐ 検索を継続
SYSLOGに出力	⑬ ☒ 無効 ☐ 有効

⑨ 宛先IPアドレス 宛先ホストのIPアドレス、サブネットマスク(ビット数)を設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリング処理します。
何も設定しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
マスク(ビット数)の選択できる範囲は、「1」～「32」です。

⑩ 宛先ポート番号 フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
(IPフィルター新規作成時の初期値:すべて)
指定には、2とおりの方法があります。

◎数字で指定するとき

1. 「指定」を選択します。
2. 「指定時: (始点) ~ (終点)」欄のテキストボックスに番号を入力します。
特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。

◎二一モニックで指定するとき

「すべて」、「指定」以外の項目を選択します。
本製品で指定できる二一モニックは、「DNS」、「Finger」、「FTP」、「Gopher」、「NEWS」、「POP3」、「SMTP」、「Telnet」、「Web」、「Whois」です。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

⑪ ステートフルインスペクション(SPI)機能

.....

IPフィルター登録時、このオプションを「有効」に設定すると、このフィルターに一致した通信に対応するWAN側から受信したパケットだけを、自動的に透過する動的なIPフィルターとして設定できます。

(IPフィルター新規作成時の初期値:無効)

※ [フィルター方法] (③) 欄を「遮断」に設定したときは、選択できません。

※ 出荷時、または全設定を初期化したときから登録されている2番のIPフィルターには、SPI機能が「有効」に設定されています。(P54)

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■ IPフィルター設定(つづき)

⑫ フィルター検索合致時の動作

.....

IPフィルター登録時、このオプションを「検索を継続」に設定すると、登録したIPフィルターと一致しても検索を継続します。

その結果、ほかに一致するIPフィルターがない場合は、先に一致したIPフィルターでフィルタリング処理をします。

ほかに一致するIPフィルターがある場合は、検索終了後、最後に一致したIPフィルターでフィルタリング処理をします。

検索を継続した結果、複数の条件に一致するIPフィルターがある場合は、[番号] ①欄で選択した番号が大きいほうのIPフィルターでの処理を優先します。
(IPフィルター新規作成時の初期値: 検索を終了)

⑬ SYSLOGに出力

IPフィルター登録時、このオプションを「有効」に設定すると、フィルタリング処理をしたとき、SYSLOGを出力します。

(IPフィルター新規作成時の初期値: 無効)

※SYSLOGが出力されると、「管理」メニューの「SYSLOG情報」画面に表示されます。(第9章)

※大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。

動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■現在の登録

[IPフィルター設定]項目(☞P50～P53)から登録した現在の各エントリーの内容を表示します。

現在の登録					
番号	フィルター方法	プロトコル (TCPフラグ)	送信元IPアドレス (送信元ポート番号)	SPI機能 フィルター合致時	
	フィルター方向		宛先IPアドレス (宛先ポート番号)	SYSLOG に出力	
1	遮断	すべて	* (*)	無効	①編集 ②削除
	IN		* (*)	検索を 継続	
	OUT		* (*)	無効	
64	遮断	UDP	* (137-139)	有効	編集 削除
	IN		* (137-139)	無効	
	OUT		* (137-139)	検索を 継続	

※画面の内容は、登録例です。

【出荷時、または全設定を初期化したときから登録されているIPフィルターについて】

- ◎1番 : 受信するパケットをすべて遮断する
- ◎2番 : 送信するパケット、およびそれに対する応答パケットをすべて通過する
※本製品から送信したパケットに対する応答パケットは、ステートフルインスペクション(SPI)機能が有効に設定されていますので、1番のIPフィルターでは遮断されません。
- ◎58番 : FTPを通過させる
- ◎59～64番 : Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性、および、ファイル共有機能による外部への情報漏えいを防止する

※「*」は、各欄で設定できる「すべて」を対象としています。

- ①<編集> ボタンの左側に表示されたIPフィルターを編集するボタンです。
<編集>をクリックすると、表示された内容を[IPフィルター設定]項目の各欄に表示します。
- ②<削除> ボタンの左側に表示されたIPフィルターを削除するボタンです。

10. 「簡易DNS設定」画面

「ルーター機能設定」－「簡易DNS設定」

本製品の代理DNSサーバー機能についての設定画面です。

■DNSサーバーの代理応答

本製品の代理DNSサーバー機能について設定します。

DNSサーバーの代理応答	
DNS代理応答機能	☐ 無効 ☒ 有効

DNS代理応答機能 …………… 本製品のDNS代理応答機能を設定します。 (出荷時の設定: 有効)
 DNS代理応答機能とは、端末からのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバーへ転送する機能です。
 「有効」に設定すると、本製品のアドレスをネットワーク上の端末にDNSサーバーとして設定している場合、本製品が接続する先のDNSサーバーのアドレスが変更になったときでも、端末側の設定を変更する必要がありません。

■簡易DNSサーバー設定

本製品を簡易DNSサーバーとして使用するとき設定します。

簡易DNSサーバー設定		
IPアドレス	ホスト名	
		追加

端末のホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを入力して、〈追加〉をクリックします。
 登録すると、ドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応答します。
 ※最大32個の組み合わせまで登録できます。
 ※本製品のDNS代理応答機能を使用する場合に有効です。
 ※ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバーを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。
 ※ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答します。

■現在の登録

[簡易DNSサーバー設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録		
IPアドレス	ホスト名	
192.168.1.50	192.168.1.50	削除

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

11. 「不正アクセス設定」画面

「ルーター機能設定」-「不正アクセス設定」

本製品のICMPステルスモード機能についての設定画面です。

■ ICMPステルス

本製品のICMPステルスモード機能を設定します。

ICMPステルス	
ICMPステルス機能①	☐ 無効 ☒ 有効
SYSLOGに出力 ②	☒ 無効 ☐ 有効

- ① ICMPステルス機能…………… 本製品のICMPステルスモード機能を設定します。 （出荷時の設定：有効）
「有効」に設定すると、WAN側ポートがICMP Echo要求(Ping)に応答しなくなります。
- ② SYSLOGに出力 …………… 「有効」に設定すると、WAN側ポートがICMP Echo要求(Ping)を受信したとき、SYSLOGを出力します。 （出荷時の設定：無効）
また、WAN側からICMP Echo要求(Ping)を受信した場合、[ICMPステルス機能] (①)欄の設定に関係なく、SYSLOGを出力します。
そのときの通知レベルは、NOTICEです。
※SYSLOGが出力されると、「管理」メニューの「SYSLOG情報」画面に表示されます。(49章)
※大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。
動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。

12. 「QoS設定」画面

「ルーター機能設定」→「QoS設定」

パケットを設定されたルールにしたがって優先して送信するための設定画面です。

■ QoS設定

IP電話機による通話中、および[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続された電話機の通話中(オフフックの状態を含む)のとき、WANとLAN間のデータ通信を設定した帯域で制限するための設定をします。

QoS設定			
QoS機能 ①		☐ 無効 ☒ 有効	
送信帯域制限 ②	WAN	10.0	Mbps
	LAN	10.0	Mbps

① **QoS機能** パケット処理の優先制御機能について設定します。 (出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、[QoSルール設定]項目(☞P58)から登録したQoSルールが有効になり、パケットを優先して送信し、それ以外の送信帯域を制限できます。
※「SIP拡張設定」メニュー→「拡張設定」画面→[VoIP設定]項目(☞P140)で、「TOS」、または「Diffserv」を設定すると、VoIPのパケットのTOSを設定します。

② **送信帯域制限** 優先処理されないデータを送信できる帯域をインターフェースごとに、0.1Mbps単位で設定します。 (出荷時の設定:10.0)
設定された帯域を超えるパケットは抑止されますが、優先設定されたパケットは、設定された帯域に関係なく送信されます。
設定できる範囲は、「0.0～100.0」(Mbps)です。
※0.0を設定しても、通信は完全に遮断できません。

【送信帯域制限値の目安について】

本製品は、最大12通話(内線:4通話と外線:8通話)を使用中でも、20Mbpsの送信帯域制限値を確保できます。

※「ルーター機能設定」メニューにある以下の機能と併用する場合、通話品質確保のため、送信帯域制限値は、10.0Mbps(出荷時の設定)の状態でお使いください。

◎「[NAT設定]画面の[DMZホスト設定]項目(☞P43)をお使いの場合

◎「[IPフィルター設定]画面の[現在の登録]項目に、合計30件以上のIPフィルターを登録(☞P54)してお使いの場合

※本製品には、各種ログ機能が搭載されていますが、大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。

動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。

3 「ルーター機能設定」メニュー

12. 「QoS設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」－「QoS設定」

■QoSルール設定

優先するパケットの条件を、TOS値で指定します。

QoSルール設定	
番号 ①	追加
TOS値 ②	16進数で入力(01～FF)

①番号

QoSルールを登録するために、「1～8」の番号を入力します。

最大8件まで登録できます。

登録すると、本製品がパケットを送信するごとに、[現在の登録]項目に表示されたルールと比較します。

※番号が指定されていないときは、登録できません。

〈追加〉

新規作成、または編集した内容をQoSルールとして登録するとき、クリックします。

※[現在の登録]項目で登録内容をご確認ください。

※QoSのルールは、1つ以上指定してください。

②TOS値

対象となるTOS値を入力します。

設定できる範囲は、16進数(半角英数字)「01～FF」です。

■現在の登録

[QoSルール設定]項目から登録した内容を表示します。

現在の登録			
番号	TOS値	①	②
1	B8	編集	削除
2	80	編集	削除

※[QoS設定]項目の[QoS機能]欄(☞P57)を「有効」に設定しているとき有効な機能です。

出荷時の状態では、VoIP関連のパケットを優先できるように、番号「1」にTOS値「B8」、「2」にTOS値「80」が登録されています。

①〈編集〉

ボタンの左側に表示されたQoSルールを編集するボタンです。

〈編集〉をクリックすると、表示された内容を[QoSルール設定]項目の各欄に表示します。

②〈削除〉

ボタンの左側に表示されたQoSルール設定を削除するボタンです。

この章では、
管理者用の「電話回線設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「アナログ電話回線1/2」画面	60
■ PSTN設定(1)/(2)	60
■ モデムダイヤルイン設定	63
2.「ISDN共通設定」画面	64
■ ISDN共通設定	64
3.「ISDN回線1/2/3」画面	65
■ ISDN設定(1)/(2)/(3)	65
■ i・ナンバー/ダイヤルイン設定	67
4.「代表取扱サービス」画面	69
■ 代表取扱サービス設定	69
■ 使用する回線の設定	70
■ 契約回線設定	71
■ ダイヤルイン設定	71
5.「IP回線」画面	72
■ SIPサーバー接続共通設定	72
■ SIPサーバー設定 (ひかり電話(網直収))	75
■ SIPサーバー設定 (ひかり電話(GW配下))	76
■ SIPサーバー設定 (サーバー接続)	77
■ SIPサーバー設定一覧(契約者番号) (ひかり電話(網直収))	78
■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) (ひかり電話(網直収))	79
■ SIPサーバー設定一覧 (ひかり電話(GW配下))	80
■ SIPサーバー設定一覧 (サーバー接続)	82
6.「回線グループ設定」画面	84
■ 回線スライド設定	84
■ 回線グループ設定	85
■ 現在の登録	85

【表示される設定項目について】

「IP回線」画面で表示される[SIPサーバー接続共通設定]項目の設定内容に応じて、表示される設定項目が一部変更になります。

(ひかり電話(網直収)) は、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定項目です。

(ひかり電話(GW配下)) は、「ひかり電話(GW配下)」を選択したときに表示される設定項目です。

(サーバー接続) は、「サーバー接続」を選択したときに表示される設定項目です。

4 「電話回線設定」メニュー

1.「アナログ電話回線1/2」画面

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

ご使用のアナログ電話回線(LINE1/LINE2)についての設定画面です。

■PSTN設定(1)/(2)

ご使用のアナログ電話回線(LINE1/LINE2)についての設定です。

PSTN設定(1)		
アナログ回線種別	①	自動 ▼
回線種別判別結果	②	未確認
受話音量	③	0 ▼ dB
送話音量	④	0 ▼ dB
エコーキャンセラー	⑤	有効(起動時最適化) ▼
最適化状況	⑥	未最適化
最適化を行う	⑦	実行 更新
エコーサプレッション	⑧	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッションレベル	⑨	-30 ▼ dB
CNG	⑩	☐ 無効 ☒ 有効
CNGレベル	⑪	-52 ▼ dB
ナンバーディスプレイ	⑫	☐ 無効 ☒ 自動
契約回線番号	⑬	

※ [LINE1] ポートと [LINE2] ポートは、個別に設定できます。

※「アナログ電話回線1」画面を使用して説明しています。

- ① **アナログ回線種別** ………… 本製品の [LINE1] ポート/[LINE2] ポートに接続するアナログ電話回線の種類を設定します。
(出荷時の設定: 自動)
※設定した回線種別が実際の回線と異なると、アナログ電話回線から発信できませんのでご注意ください。
- ◎ **自動**
接続するアナログ電話回線のダイヤル方式を自動判別させるとき
- ◎ **PB**
接続するアナログ電話回線のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
- ◎ **DP(20pps)**
接続するアナログ電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
- ◎ **DP(10pps)**
接続するアナログ電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき
- ② **回線種別判別結果** ………… 回線種別の自動判別結果を、「未確認」/「PB回線」/「DP回線」で表示します。
※ [アナログ回線種別] ①欄で「自動」以外を選択すると、[回線種別判別結果] 欄は表示されません。
- ③ **受話音量** ……………… アナログ電話回線使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を設定します。
(出荷時の設定: 0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量) (dB) です。
- ④ **送話音量** ……………… アナログ電話回線使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を設定します。
(出荷時の設定: 0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量) (dB) です。

1. 「アナログ電話回線1/2」画面

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

■PSTN設定(1)/(2)つづき

- ⑤ **エコーキャンセラー** …… ご使用のアナログ回線に合わせて、本製品のエコーキャンセラーを最適化します。
(出荷時の設定:有効(起動時最適化))
※最適化には、約30秒かかります。
※[アナログ回線種別](①)欄で「自動」に設定しているときは、回線種別の自動判別と最適化が同時に動作します。
- ◎**有効(起動時最適化)**
本製品の電源投入時、自動的に最適化されます。
通常は、「する(起動時最適化)」を選択してください。
※本製品の電源を入れてから、[LINE]ポートに接続した場合は、回線を認識したあと、最適化を開始します。
- ◎**有効(最適化手動)**
[最適化を行う](⑦)欄の〈実行〉をクリックするまで最適化されません。
※回線種別を「自動」に設定しているときは、自動的に最適化されます。
※自動的に最適化しない場合は、回線種別をお使いの回線に応じて、「自動」以外に変更してください。
- ◎**無効**
本製品のエコーキャンセラーを無効にします。
※回線種別を「自動」に設定しているときには、最適化の動作をしますが、本製品のエコーキャンセラーは無効となります。
- ⑥ **最適化状況** …………… 回線への最適化状況を、「未最適化」/「最適化中」/「最適化終了」/「最適化失敗」で表示します。
- ⑦ **最適化を行う** ……………
- 〈実行〉
手動で最適化するとき、クリックします。
- 〈更新〉
現在の最適化状況を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[最適化状況](⑥)欄に「最適化失敗」と表示された場合は、回線の接続などをご確認ください。
- ⑧ **エコーサプレッション** …… 本製品のエコーサプレッション機能について設定します。
(出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、電話回線への送話音の大きさを検知し、受話音量を低減することでエコーを抑止します。
- ⑨ **エコーサプレッション
レベル** …………… エコーサプレッション機能使用時のエコー抑止レベルを設定します。
(出荷時の設定:-30)
設定できる範囲は、「-65」(最小)~「0」(最大)(dB)です。
電話回線でのダブルトーク時、途切れ感がある場合にレベルを下げます。
※レベルを下げすぎると、エコー量が増加しますのでご注意ください。

4 「電話回線設定」メニュー

1. 「アナログ電話回線1/2」画面

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

■PSTN設定(1)/(2)つづき

PSTN設定(1)		
アナログ回線種別	①	自動
回線種別判別結果	②	未確認
受話音量	③	0 dB
送話音量	④	0 dB
エコーキャンセラー	⑤	有効(起動時最適化)
最適化状況	⑥	未最適化
最適化を行う	⑦	実行 更新
エコーサプレッション	⑧	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッションレベル	⑨	-30 dB
CNG	⑩	☐ 無効 ☒ 有効
CNGレベル	⑪	-52 dB
ナンバーディスプレイ	⑫	☐ 無効 ☒ 自動
契約回線番号	⑬	

※ [LINE1] ポートと [LINE2] ポートは、個別に設定できます。

※ 「アナログ電話回線1」画面を使用して説明しています。

- ⑩ **CNG** 本製品のCNG(コンフォートノイズ生成)機能について設定します。
(出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、回線側から、こちらの受話器に聞こえる受話音に少しノイズ(サー)を付加して無通話時の違和感を軽減します。
- ⑪ **CNGレベル** CNG機能使用時、回線側から、こちらの受話器に聞こえるノイズ(サー)の音量を設定します。
(出荷時の設定: -52)
設定できる範囲は、「-65」(最小音量)～「-30」(最大音量)(dB)です。
- ⑫ **ナンバーディスプレイ** ... 本製品の[LINE] ポートに接続する電話回線で機能するナンバーディスプレイ機能について設定します。
(出荷時の設定: 自動)
※ ナンバーディスプレイサービスを使用する場合、電話機がナンバーディスプレイ機能に対応していることをご確認ください。
- ⑬ **契約回線番号** アナログ回線でご契約の電話番号を、市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。

1. 「アナログ電話回線1/2」画面(つづき)

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

■ モデムダイヤルイン設定

「モデムダイヤルインサービス」でご契約の電話番号を追加登録する設定です。

モデムダイヤルイン設定	
モデムダイヤルイン ①	☒ 無効 ☐ 有効
モデムダイヤルイン番号 ②	1
	2
	3
	4
	5
	6
	7
	8
	9
	10
	11
	12
	13
	14
	15
	16
	17
	18
	19
	20
	21
	22
	23
	24
	25
	26
	27
	28
	29
	30
	31
	32

※ [LINE1] ポートと [LINE2] ポートは、個別に設定できます。

※ 「アナログ電話回線1」画面を使用して説明しています。

- ① **モデムダイヤルイン** …… 本製品の [LINE1] ポート/[LINE2] ポートに接続する電話回線で機能する、モデムダイヤルイン機能の利用を設定します。 (出荷時の設定: 無効)
※ モデムダイヤルイン機能を使用する場合、電話回線がモデムダイヤルインサービスに対応していることをご確認ください。
- ② **モデムダイヤルイン番号** ご契約の「モデムダイヤルインサービス」で取得した電話番号を、市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
最大32件まで登録できます。

2. 「ISDN共通設定」画面

「電話回線設定」－「ISDN共通設定」

ご使用のISDN回線(ISDN1/ISDN2/ISDN3)共通の機能についての設定画面です。

■ ISDN共通設定

ご使用のISDN回線(ISDN1/ISDN2/ISDN3)共通の機能についての設定です。

ISDN共通設定	
ISDNマスタークロック	自動 ▼

ISDNマスタークロック ……

ISDN回線1～ISDN回線3のポートに接続された回線のクロック信号で同期を取ります。
(出荷時の設定:自動)

◎自動

ISDN回線1～ISDN回線3のポートの中で、小さい番号のポートを優先して同期します。

たとえば、ISDN回線1～ISDN回線3のすべてが接続されている場合は、ISDN回線1のポートで同期します。

ISDN回線2とISDN回線3が接続されている場合は、ISDN回線2のポートで同期します。

◎ISDN回線1～ISDN回線3

指定したISDN回線のクロック信号に同期します。

※マスタークロックは、ISDN回線から供給されており、接続されるISDN機器(本製品など)と同期を取るための基準となる信号です。

3. 「ISDN回線1/2/3」画面

「電話回線設定」-「ISDN回線1/2/3」

ご使用のISDN回線、およびINSダイヤルインサービスについての設定画面です。

■ ISDN設定(1)/(2)/(3)

ご使用のISDN回線(ISDN1/ISDN2/ISDN3)についての設定です。

ISDN設定(1)		
受話音量	①	0 dB
送話音量	②	0 dB
エコーキャンセラー	③	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッション	④	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッションレベル	⑤	-30 dB
CNG	⑥	☐ 無効 ☒ 有効
CNGレベル	⑦	-52 dB
契約回線番号	⑧	03
発番号通知	⑨	☐ 通知しない ☒ 通知する

※ISDN1/ISDN2/ISDN3は、個別に設定できます。

※「ISDN回線(1)」画面を使用して説明しています。

- ① **受話音量** ISDN回線使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を設定します。
(出荷時の設定: 0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ② **送話音量** ISDN回線使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を設定します。
(出荷時の設定: 0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ **エコーキャンセラー** ご使用のISDN回線について、エコーキャンセラー機能を設定します。
(出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、通話するときに起こるエコー(反響)を低減します。
- ④ **エコーサプレッション** ... 本製品のエコーサプレッション機能について設定します。
(出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、電話回線への送話音の大きさを検知し、受話音量を低減することでエコーを抑止します。
- ⑤ **エコーサプレッション
レベル** エコーサプレッション機能使用時のエコー抑止レベルを設定します。
(出荷時の設定: -30)
設定できる範囲は、「-65」(最小)～「0」(最大)(dB)です。
電話回線でのダブルトーク時、途切れ感がある場合にレベルを下げます。
※レベルを下げすぎると、エコー量が増加しますのでご注意ください。
- ⑥ **CNG** 本製品のCNG(コンフォートノイズ生成)機能について設定します。
(出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、回線側から、こちらの受話器に聞こえる受話音に少しノイズ(サー)を付加して無通話時の違和感を軽減します。

4 「電話回線設定」メニュー

3. 「ISDN回線1/2/3」画面

「電話回線設定」－「ISDN回線1/2/3」

■ ISDN設定(1)/(2)/(3)つづき

ISDN設定(1)		
受話音量	①	0 dB
送話音量	②	0 dB
エコーキャンセラー	③	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッション	④	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッションレベル	⑤	-30 dB
CNG	⑥	☐ 無効 ☒ 有効
CNGレベル	⑦	-52 dB
契約回線番号	⑧	03
発番号通知	⑨	☐ 通知しない ☒ 通知する

※ISDN1/ISDN2/ISDN3は、個別に設定できます。

※「ISDN回線(1)」画面を使用して説明しています。

- ⑦ **CNGレベル** CNG機能使用時、回線側から、こちらの受話器に聞こえるノイズ(サー)の音量を設定します。
(出荷時の設定: -52)
設定できる範囲は、「-65」(最小音量)～「-30」(最大音量)(dB)です。
- ⑧ **契約回線番号** ISDN回線でご契約の電話番号を、市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
- ⑨ **発番号通知** 契約回線番号を使用して電話をかけたとき、電話番号を相手側に通知する機能について設定します。
(出荷時の設定: 通知する)
「通知する」に設定すると、「契約回線番号」(⑧)欄(ISDN回線の契約電話番号)に設定した電話番号を相手側へ自動的に通知します。

3. 「ISDN回線1/2/3」画面(つづき)

「電話回線設定」-「ISDN回線1/2/3」

■i・ナンバー/ダイヤルイン設定

i・ナンバー、またはINSダイヤルインサービスでご契約の電話番号を追加登録する設定です。

※代表取扱サービス、ダイヤルインとの併用はできません。

使用するサービス:無効

i・ナンバー/ダイヤルイン設定

使用するサービス ① ☒ 無効 ☐ i・ナンバー ☐ ダイヤルイン

使用するサービス:i・ナンバー

i・ナンバー/ダイヤルイン設定

使用するサービス ① ☐ 無効 ☒ i・ナンバー ☐ ダイヤルイン

i・ナンバー ② 番号 i・ナンバー番号 発番号通知

2 通知する ▼

3 通知する ▼

使用するサービス:ダイヤルイン

i・ナンバー/ダイヤルイン設定

使用するサービス ① ☐ 無効 ☐ i・ナンバー ☒ ダイヤルイン

ダイヤルイン ③ 番号 ダイヤルイン番号 発番号通知

1 通知する ▼

2 通知する ▼

31 通知する ▼

32 通知する ▼

※ISDN1/ISDN2/ISDN3は、個別に設定できます。

※「ISDN回線(1)」画面を使用して説明しています。

①使用するサービス …………… ご契約のサービスを使用するとき設定します。 (出荷時の設定:無効)

◎無効

i・ナンバー、またはINSダイヤルインサービスを使用しないとき

◎i・ナンバー

i・ナンバーでご契約の電話番号を使用するとき

◎ダイヤルイン

INSダイヤルインサービスでご契約の電話番号を使用するとき

②i・ナンバー …………… i・ナンバーの契約で指定された電話番号を[i・ナンバー番号]欄のテキストボックスに市外局番から半角で入力します。

入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。

追加番号の1つ目を[番号]欄2の行にある[i・ナンバー番号]欄、追加番号の2つ目を[番号]欄3の行にある[i・ナンバー番号]欄に設定します。

※[発番号通知]欄では、[i・ナンバー番号]欄に設定した電話番号を相手側に通知する機能について、「通知する」か「通知しない」を選択します。

(出荷時の設定:通知する)

「通知する」に設定すると、[i・ナンバー番号]欄に設定した電話番号を自動的に相手側に通知します。

4 「電話回線設定」メニュー

3. 「ISDN回線1/2/3」画面(つづき)

「電話回線設定」-「ISDN回線1/2/3」

■i-ナンバー/ダイヤルイン設定(つづき)

使用するサービス:無効

i-ナンバー/ダイヤルイン設定

使用するサービス ① ☒ 無効 ☐ i-ナンバー ☐ ダイヤルイン

使用するサービス:i-ナンバー

i-ナンバー/ダイヤルイン設定

使用するサービス ① ☐ 無効 ☒ i-ナンバー ☐ ダイヤルイン

i-ナンバー ② 番号 i-ナンバー番号 発番号通知

2 通知する ▼

3 通知する ▼

使用するサービス:ダイヤルイン

i-ナンバー/ダイヤルイン設定

使用するサービス ① ☐ 無効 ☐ i-ナンバー ☒ ダイヤルイン

ダイヤルイン ③ 番号 ダイヤルイン番号 発番号通知

1 通知する ▼

2 通知する ▼

31 通知する ▼

32 通知する ▼

※ISDN1/ISDN2/ISDN3は、個別に設定できます。

※「ISDN回線(1)」画面を使用して説明しています。

③ダイヤルイン ……………

INSダイヤルインサービスの契約で指定された電話番号を[ダイヤルイン番号1]欄～[ダイヤルイン番号32]欄に半角で入力します。

入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。

※[発番号通知]欄では、[ダイヤルイン番号]欄に設定した電話番号を相手側に通知する機能について、「通知する」か「通知しない」を選択します。

(出荷時の設定:通知する)

「通知する」に設定すると、[ダイヤルイン番号]欄に設定した電話番号を自動的に相手側に通知します。

4. 「代表取扱サービス」画面

「電話回線設定」- 「代表取扱サービス」

■ 代表取扱サービス設定

代表取扱サービスとINSダイヤルインサービスとの併用について設定します。

代表取扱サービスとは、回線接続業者への申し込みが必要なサービスで、同一拠点に設置される複数の契約回線番号でグループ(代表群)を形成し、あらかじめ設定した代表(親)番号に着信通話があった場合、代表群から話中でない回線を自動的に選択して着信させるサービスについての設定です。

※代表取扱サービスが使用できる回線は、ISDN回線だけです。

※代表取扱サービスとINSダイヤルインサービスは、併用できます。

代表取扱サービス設定	
代表取扱サービス	☒ 無効 ☐ 有効

代表取扱サービス……………

代表取扱サービスの使用について設定します。(出荷時の設定: 無効)
「有効」に設定すると、[使用する回線の設定]項目(☎P70)、[契約回線設定]項目(☎P71)、[ダイヤルイン設定]項目(☎P71)に設定された内容が有効になります。

■使用する回線の設定

代表取扱サービスで使用するISDN回線を指定するための設定です。

使用する回線の設定	
ISDN回線	☐ ISDN回線1
	☐ ISDN回線2
	☐ ISDN回線3

ISDN回線

[代表取扱サービス設定]項目で[代表取扱サービス]欄を「有効」に設定したとき、「ISDN回線1」～「ISDN回線3」のうち、どの回線を代表取扱サービスで使用するかを設定します。

代表取扱サービスで使用する回線番号のチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✓]を入れます。

(出荷時の設定: ☐ ISDN回線1

☐ ISDN回線2

☐ ISDN回線3)

※「ISDN回線1」～「ISDN回線3」からどの組み合わせでも代表取扱サービスに指定できます。

例: 2回線代表とする場合

「☒ ISDN回線1」、「☒ ISDN回線2」、「☐ ISDN回線3」

「☐ ISDN回線1」、「☒ ISDN回線2」、「☒ ISDN回線3」

「☒ ISDN回線1」、「☐ ISDN回線2」、「☒ ISDN回線3」

例: 3回線代表とする場合

「☒ ISDN回線1」、「☒ ISDN回線2」、「☒ ISDN回線3」

※代表取扱サービスで使用するISDN回線については、「ISDN回線1/2/3」画面(☎P65)での電話番号や番号通知の設定はできません。

4. 「代表取扱サービス」画面(つづき)

「電話回線設定」-「代表取扱サービス」

■ 契約回線設定

代表取扱サービスでご契約の代表(親)番号の設定です。

契約回線設定	
契約回線番号①	
発番号通知 ②	☐ 通知しない ☒ 通知する

- ① 契約回線番号 代表取扱サービスで代表(親)となる電話番号を、市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
- ② 発番号通知 代表取扱サービスで代表(親)となる電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定: 通知する)
- ◎ 通知しない
発信先に電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎ 通知する
[契約回線番号] (①) 欄で設定された電話番号を発信先に通知します。

■ ダイヤルイン設定

代表取扱サービスと併用するINSダイヤルインサービスの契約で指定された電話番号についての設定です。

ダイヤルイン設定			
ダイヤルイン	番号	ダイヤルイン番号	発番号通知
	1		通知する ▼
	2		通知する ▼
	3		通知する ▼
	4		通知する ▼
	5		通知する ▼
	6		通知する ▼
	7		通知する ▼
	31		通知する ▼
	32		通知する ▼

- ダイヤルイン [使用する回線の設定] 項目の[ISDN回線] 欄(☎P70)で指定した回線が、共通で使用するダイヤルイン番号(契約回線番号を含む)を[ダイヤルイン番号1] 欄~[ダイヤルイン番号32] 欄に半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
※[発番号通知] 欄では、[ダイヤルイン番号] 欄に設定した電話番号を相手側に通知する機能について、「通知する」か「通知しない」かを選択します。
(出荷時の設定: 有効)
「通知する」に設定すると、[ダイヤルイン番号] 欄に設定した電話番号を自動的に相手側に通知します。

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」－「IP回線」

本製品が接続するIP回線についての設定画面です。

■SIPサーバー接続共通設定

本製品が接続するSIPサーバーについての設定です。

SIPサーバー接続共通設定	
接続先の選択	① ひかり電話(GW配下) ▼
SIP接続簡易設定	② 半自動 ▼
自動設定に使用するサーバー番号	③ 1 ▼
SIP設定取得	④ 開始

※説明には、「ひかり電話(GW配下)」「(半自動)」で接続するときの設定画面を使用しています。

① 接続先の選択 ……………

IP電話への接続するために、ご契約のIP電話接続業者が指定するSIPサーバーを選択します。
(出荷時の設定: ひかり電話(網直収))

接続先を変更すると、[SIPサーバー設定] 項目(☞P75～P77)と、「ルーター機能設定」メニューにある「QoS設定」画面の「QoSルール設定」項目(☞P58)で設定した内容が消去されます。

◎ひかり電話(網直収)

NTT東日本、またはNTT西日本のフレッツ光ネクスト(インターネット接続サービス)で提供するひかり電話サービスで、本製品が直接収容されます。

※本製品が対応するひかり電話サービスは、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタイプ、ひかり電話オフィスエースの3種類です。

※ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイは必要ありません。

※「ルーター機能設定」メニュー→「WAN側動作モード設定」画面→「回線種別設定」項目の「回線種別」欄で「DHCPクライアント」、または「固定IP」が設定されている場合は、「使用しない」に設定されます。

※「ルーター機能設定」メニューに「VoIP用WAN側設定」画面が表示されます。

◎ひかり電話(GW配下)

NTT東日本、またはNTT西日本のフレッツ光ネクスト(インターネット接続サービス)で提供するひかり電話サービスで、本製品をNTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続して、ひかり電話サービスを使用するとき設定します。

◎サーバー接続

簡易中継サーバー(親機)の子機として、簡易中継サーバーと接続するとき設定します。

※2012年7月現在、VE-AG1(アナログ回線)、VE-IG1(ISDN回線)を本製品と接続する場合にも、この設定を使用します。

◎使用しない

相手のSIP URI(相手先のIPアドレス)を登録して、Peer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)で使用する時設定します。

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」－「IP回線」

■ SIPサーバー接続共通設定(つづき)

② SIP接続簡易設定……………

ひかり電話(網直収)

ひかり電話(GW配下)

本製品の起動時やDHCP更新時、[SIPサーバー設定]項目(☞P75、P76)を自動的に設定する機能です。(出荷時の設定:有効)

[接続先の選択](①)欄で、「ひかり電話(網直収)」を選択時は「無効」、「有効」から選択、「ひかり電話(GW配下)」を選択時は「無効」、「半自動」、「自動」から選択できます。

◎無効

自動設定しません。

◎有効

自動設定します。

◎半自動

[SIP設定取得](④)欄の〈開始〉をクリックすると、[自動設定に使用するサーバー番号](③)欄(☞P74)で選択した番号の[SIPサーバー設定]項目(☞P75、P76)に登録するIP電話番号の設定情報を、上位ゲートウェイ機器から取得します。

DHCPで取得した「SIPサーバーアドレス」と「SIPサービスドメイン」を[SIPサーバー設定]項目に設定します。

◎自動

本製品の起動時やDHCP更新時、DHCPで上位機器から配られたIP電話番号の設定情報を、上位ゲートウェイ機器から取得し、[SIPサーバー設定]項目(☞P75、P76)に設定します。

[SIP設定取得](④)欄の〈開始〉をクリックすると、[自動設定に使用するサーバー番号](③)欄(☞P74)で選択した番号の[SIPサーバー設定]項目(☞P75、P76)に登録するIP電話番号の設定情報を、上位ゲートウェイ機器から取得します。

DHCPで取得した「SIPサーバーアドレス」と「SIPサービスドメイン」を[SIPサーバー設定]項目に設定します。

【ひかり電話におけるSIP設定自動取得についてのご注意】

ひかり電話(網直収) は、ひかり電話網からDHCPで、契約番号(SIPアカウント)を自動取得します。

追加番号契約がある場合は、追加番号を4つまで自動取得します。

なお、追加番号が5つ以上の場合、すべての追加番号を手動で追加する必要があります。

ひかり電話(GW配下) は、上位のゲートウェイからDHCPで、上位のゲートウェイに設定した子機アカウント1つを自動取得します。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」－「IP回線」

■SIPサーバー接続共通設定(つづき)

SIPサーバー接続共通設定	
接続先の選択	① ひかり電話(GW配下) ▼
SIP接続簡易設定	② 半自動 ▼
自動設定に使用するサーバー番号	③ 1 ▼
SIP設定取得	④ 開始

※説明には、「ひかり電話(GW配下)」「(半自動)」で接続するときの設定画面を使用しています。

③ 自動設定に使用する

サーバー番号

電話番号に対するSIPサーバーの設定が、[SIPサーバー設定]項目(☞P75、P76)に自動設定される番号を選択します。(出荷時の設定:1)

設定できる範囲は、「1」～「32」です。

※「ひかり電話(網直収)」を選択時は、[SIP接続簡易設定](②)欄で「有効」を選択したとき表示されます。

※[接続先の選択](①)欄で「ひかり電話(GW配下)」を選択時は、[SIP接続簡易設定](②)欄で「半自動」、または「自動」を選択したとき表示されます。

④ SIP設定取得

[SIPサーバー設定]項目の設定内容を取得するとき、〈開始〉をクリックします。

※[SIP接続簡易設定](②)欄で「半自動」、または「自動」を選択したとき表示されます。

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定 (ひかり電話(網直収))

NTT東日本、またはNTT西日本が提供する「ひかり電話」サービスに接続するための設定です。

※ホームゲートウェイやオフィスゲートウェイは必要なく、NTTの交換機(SIPサーバー)に直接接続されます。

※[SIPサーバー接続共通設定]項目の[SIP接続簡易設定]欄(☞P73)で「有効」を設定したときは、[SIPサーバー設定]項目が自動設定されます。

SIPサーバー設定		
番号	①	1 ▼
IP電話番号	②	
番号種別	③	☒ 契約者番号 ☐ 追加番号
SIPサーバーアドレス	④	
SIPサービスドメイン	⑤	
ユーザーID	⑥	
パスワード	⑦	
登録時間	⑧	3600 秒

①番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「32」の番号を選択します。
最大32件まで登録できます。

②IP電話番号 ご契約の回線業者から付与された契約回線番号、または追加で使用する電話番号を半角で入力します。

③番号種別 [IP電話番号](②)欄で入力した電話番号が契約回線番号か追加番号かを指定します。
「追加番号」をクリックしたときは、下記の画面を表示します。
追加番号を使用する回線の契約者番号を[契約者番号]欄で選択します。

番号	2 ▼
IP電話番号	
番号種別	☐ 契約者番号 ☒ 追加番号
契約者番号	03 ▼

④SIPサーバーアドレス ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑤SIPサービスドメイン ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑥ユーザーID SIPサーバーへの接続認証に使用するIDです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。

⑦パスワード SIPサーバーへの接続認証に使用するパスワードです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて* (アスタリスク)、または● (黒丸)で表示します。

⑧登録時間 本製品の接続情報をSIPサーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60～28800」(秒)です。 (出荷時の設定:3600)

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」－「IP回線」

■SIPサーバー設定 (ひかり電話(GW配下))

NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続するための設定です。

ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの内線設定に合わせた内容を設定します。

※[SIPサーバー接続共通設定]項目の[SIP接続簡易設定]欄(☞P73)で、[SIPサーバー設定]項目の設定を「半自動」/「自動」から選択することもできます。

SIPサーバー設定		
番号	①	1 ▾
IP電話番号	②	
SIPサーバーアドレス	③	
SIPサービスドメイン	④	
ユーザーID	⑤	
パスワード	⑥	
登録時間	⑦	3600 秒

- ①番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「32」の番号を選択します。
最大32件まで登録できます。
- ②IP電話番号 上位のゲートウェイに設定されたIP端末の内線番号を半角で入力します。
- ③SIPサーバーアドレス 接続するホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ④SIPサービスドメイン 上位のゲートウェイに設定されたSIPサーバーのドメイン名、または接続するゲートウェイのIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑤ユーザーID SIPサーバーへの接続認証に使用するIDです。
上位のゲートウェイに設定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ⑥パスワード SIPサーバーへの接続認証に使用するパスワードです。
上位のゲートウェイに設定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて* (アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑦登録時間 本製品の接続情報をSIPサーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60～28800」(秒)です。 (出荷時の設定:3600)

【IP電話番号について】

NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイとの接続では、本製品に設定する「IP電話番号」はホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに設定されている1桁～2桁の内線番号となります。

この内線番号と実際に使用する発着信外線電話番号との関連付けは、ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイ側で設定します。

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定 (サーバー接続)

簡易中継サーバー(親機)の子機として、簡易中継サーバーと接続するとき設定します。

SIPサーバー設定		
番号	①	1 ▼
IP電話番号	②	
SIPサーバーアドレス	③	
SIPサービスドメイン	④	
ユーザーID	⑤	
パスワード	⑥	
登録時間	⑦	600 秒
再登録周期:	⑧	通常時: 50 % 異常時: 50 %

- ①番号 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「32」の番号を選択します。
最大32件まで登録できます。
- ②IP電話番号 簡易中継サーバーの子機として使用するIP電話番号を半角で入力します。
入力は、任意の半角数字7桁までです。
※簡易中継サーバー(親機)側に登録されているときだけ、IP電話を使用できます。
- ③SIPサーバーアドレス1 ... 簡易中継サーバー(親機)側のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ④SIPサービスドメイン..... 簡易中継サーバー(親機)側に設定されている[内線ドメイン]を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑤ユーザーID [IP電話番号](②)欄で設定した同じ番号を半角で入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑥パスワード 簡易中継サーバー(親機)側への接続認証に使用するパスワードです。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて* (アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑦登録時間 本製品の接続情報を簡易中継サーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60～28800」(秒)です。 (出荷時の設定:600)
- ⑧再登録周期..... 本製品の接続情報を簡易中継サーバー(親機)側に再登録する周期を設定します。
(出荷時の設定:通常時:50、異常時:50)
周期は、通常(接続成功)時と異常(接続失敗)時について、設定した[登録時間](⑦)欄に対する比で指定します。
設定できる範囲は、「10～90」(%)です。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■SIPサーバー設定一覧(契約者番号) (ひかり電話(網直収))

[SIPサーバー設定]項目(☎P75)で登録した契約者(IP電話)番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発信番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧(契約者番号)				⑤	⑥
①	②	③	④	接続状況の更新	再接続
番号	IP電話番号	接続状況	発信番号通知	⑦	⑧
1	03	接続中…	通知する ▼	編集	削除

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ③ **接続状況** …………… SIPサーバーとの接続状態を、「接続中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発信番号通知** …………… IP電話使用時、契約者(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先に契約者(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された契約者(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** ……… 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況](③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ⑥ **〈再接続〉** …………… 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦ **〈編集〉** …………… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- ⑧ **〈削除〉** …………… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目の下にある〈全削除〉をクリックします。

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) (ひかり電話(網直収))

[SIPサーバー設定]項目(☎P75)で登録した追加(IP電話)番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧(追加番号)					
番号①	IP電話番号②	契約者番号③	発番号通知④	⑤	⑥
2	03	03	通知する	編集	削除
			登録	取消	全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した追加(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、追加(IP電話)番号を変更できません。
- ③ **契約者番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ④ **発番号通知** IP電話使用時、追加(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定:通知する)
- ◎通知しない
発信先に追加(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された追加(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈編集〉** ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目では、[番号]、[IP電話番号]、
[契約者番号]以外は確認できません。
- ⑥ **〈削除〉** ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。
- ⑦ **〈登録〉** [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑧ **〈取消〉** [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に
戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑨ **〈全削除〉** 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目と[SIPサーバー設定一覧(契
約者番号)]項目(☎P78)の内容がすべて削除されます。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■SIPサーバー設定一覧 (ひかり電話(GW配下))

[SIPサーバー設定]項目(☎P76)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発信番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧				⑤	⑥
① 番号	② IP電話番号	③ 接続状況	④ 発信番号通知	接続状況の更新	再接続
1	3	接続中…	通知する ▾	⑦ 編集	⑧ 削除
				⑨ 登録	⑩ 取消
					⑪ 全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録したIP電話番号を表示します。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。
- ③ **接続状況** …………… SIPサーバーとの接続状態を、「接続中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発信番号通知** …………… IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先にIP電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定されたIP電話番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** …………… 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況](③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」－「IP回線」

■ SIPサーバー設定一覧(つづき) ひかり電話(GW配下)

SIPサーバー設定一覧				⑤	⑥
① 番号	② IP電話番号	③ 接続状況	④ 発番号通知	接続状況の更新	再接続
1	3	接続中…	通知する ▼	⑦ 編集	⑧ 削除
				⑨ 登録	⑩ 取消
				⑪ 全削除	

※画面の内容は、登録例です。

- ⑥<再接続> …………… 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦<編集> …………… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- ⑧<削除> …………… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。
- ⑨<登録> …………… [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑩<取消> …………… [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑪<全削除> …………… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧]項目の内容がすべて削除されます。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■SIPサーバー設定一覧 (サーバー接続)

[SIPサーバー設定]項目(P77)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧					
① 番号	② IP電話番号	③ 接続状況	④ 発番号通知	⑤ 接続状況の更新	⑥ 再接続
1		接続中…	通知する ▼	編集	削除
			登録	取消	全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録したIP電話番号を表示します。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。
- ③ **接続状況** …………… SIPサーバーとの接続状態を、「接続中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発番号通知** …………… IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先にIP電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定されたIP電話番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** …………… 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況](③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」－「IP回線」

■ SIPサーバー設定一覧(つづき) (サーバー接続)

SIPサーバー設定一覧					
				⑤ 接続状況の更新	⑥ 再接続
① 番号	② IP電話番号	③ 接続状況	④ 発番号通知	⑦	⑧
1		接続中…	通知する ▼	編集	削除
				⑨ 登録	⑩ 取消
				⑪ 全削除	

※画面の内容は、登録例です。

- ⑥<再接続> …………… 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦<編集> …………… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定] 項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧] 項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- ⑧<削除> …………… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。
- ⑨<登録> …………… [SIPサーバー設定一覧] 項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑩<取消> …………… [SIPサーバー設定一覧] 項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑪<全削除> …………… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧] 項目の内容がすべて削除されます。

4 「電話回線設定」メニュー

6. 「回線グループ設定」画面

「電話回線設定」-「回線グループ設定」

グループに登録した複数の回線で、スライド発信するための設定画面です。

■ 回線スライド設定

スライド動作を許可するSIPサーバーからのレスポンスコードを設定します。

※「IP回線」画面で設定する接続先(☎P72)により、初期値が異なります。

特に問題がある場合を除いては、初期値でお使いください。

回線スライド設定					
SIPレスポンス番号	500	503			

スライド動作を許可するSIPのレスポンスコードを設定します。

※上図は、「IP回線」画面で、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定内容です。

SIPレスポンス番号…………… スライド発信を許可するSIPサーバーからのレスポンスコードを登録します。
最大10件まで登録できます。

6. 「回線グループ設定」画面(つづき)

「電話回線設定」-「回線グループ設定」

■ 回線グループ設定

スライド発信する複数の回線(電話番号)を回線グループに登録します。

※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

回線グループ設定			
回線グループ番号 ①	1	追加	
回線種別 ②	IP回線		
電話回線の登録 ③	01	03 (IP)	06
	02	03 (IP)	07
	03	03 (IP)	08
	04		09
	05		10

※画面の内容は、登録例です。

- ① **回線グループ番号** 各回線グループに登録する番号を設定します。
最大50件まで登録できます。
〈追加〉
[回線グループ設定]項目(①～③)で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。
- ② **回線種別** 回線グループに登録する回線種別を、「IP回線」、「ISDN回線」、「アナログ回線」から選択します。
- ③ **電話回線の登録** スライド発信する回線(電話番号)に登録します。
「01」のテキストボックスに登録された回線(電話番号)から順番に発信します。
使用中の場合は、次の番号に登録された回線(電話番号)にスライドし、発信します。

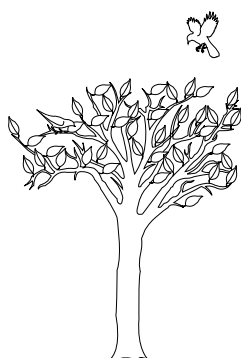
■ 現在の登録

[回線グループ設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録					
番号	回線番号			①	②
1	03 (IP)	03 (IP)	03 (IP)	編集	削除

※画面の内容は、登録例です。

- ① **〈編集〉** 登録した内容を編集するときは、該当する欄の〈編集〉をクリックします。
※登録されている内容は、[回線グループ設定]項目に表示します。
- ② **〈削除〉** 登録した内容を削除するときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。



この章では、
管理者用の「Peer to Peer設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「Peer to Peer設定」画面	88
■ Peer to Peer共通設定	88
■ Peer to Peer設定	88
■ Peer to Peer設定一覧	89
2.「VoIP電話帳設定」画面	90
■ VoIP電話帳の保存と書き込み	90
■ VoIP電話帳への登録	91
■ VoIP電話帳登録一覧	92

5 「Peer to Peer設定」メニュー

1. 「Peer to Peer設定」画面

「Peer to Peer設定」—「Peer to Peer設定」

Peer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)で通話するときの設定画面です。

■Peer to Peer共通設定

WAN側回線からのPeer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)着信を禁止、または許可します。

Peer to Peer共通設定	
WAN側からの着信	拒否 ▼

WAN側からの着信 ……………

WAN側回線からのPeer to Peer着信について設定します。

(出荷時の設定: 拒否)

「許可」に設定すると、WAN側回線からのPeer to Peer着信を許可します。

■Peer to Peer設定

Peer to Peer (SIPサーバーを介さない1対1での通話)で通話するとき、自分のSIP URIを設定します。

Peer to Peer設定	
番号 ①	1 ▼
SIP URI ②	sip: VR7000@telephone.icom.co.jp SIP URIの@以前にはa～z、A～Zの文字を1文字以上含むように設定してください。

※画面の内容は、設定例です。

①番号 ……………

自分の[SIP URI]を登録するために、「1」～「64」の番号を選択します。
最大64件まで登録できます。

②SIP URI ……………

自分のSIP URIを半角英数字(63文字以内)で入力します。

次のどちらかの書式で入力できます。

◎sip: [SIPユーザー名]@[本製品のIPアドレス]

◎sip: [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]

【SIPユーザー名】部分の入力について

任意の英数字を入力します。

※[SIPユーザー名]部分は、数字だけの入力としないで、必ず英字1文字以上を含むように入力(例: VR7000)してください。

【ホスト名.ドメイン名】部分について

◎通話相手のVoIP電話帳に、本製品のIPアドレスで登録されている場合は、本製品のLAN側IPアドレスを入力します。

◎通話相手のVoIP電話帳に、本製品のホスト名がダイナミックDNSや固定IPアドレスで登録されている場合は、通話相手から指定されたホスト名(例: telephone). ドメイン名(例: icom.co.jp)を半角英数字で入力します。

【Peer to Peer通話とは】

IP電話サービスなどを含む上位SIPサーバーを介せずに、複数の収容内線子機間(VR-7000同士)で通話できます。

たとえば、VR-7000複数稼働でのIP-VPN経由で接続された事業所間の通話や、1つのLAN内に複数設置された異なる部署間での通話ができます。

WAN側経路を使用した通話もできますが、この場合は、WAN側回線からのPeer to Peerの着信を許可に設定し、VoIP電話帳に相手のSIP URIを登録する必要があります。

Peer to Peer通話では、経路となる回線全体の通信品質(帯域や遅延)が通話品質に影響しますので、安定した回線での利用をおすすめします。

1. 「Peer to Peer設定」画面(つづき)

「Peer to Peer設定」―「Peer to Peer設定」

■ Peer to Peer設定一覧

[Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]の表示、および編集する[SIP URI]を選択します。

Peer to Peer設定一覧				
番号①	SIP URI ②	③	④	
1	sip:VR7000@telephone.icom.co.jp	編集	削除	⑤
				全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①番号 [Peer to Peer設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ②SIP URI [Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]を表示します。
※この欄では[SIP URI]の変更はできません。
- ③〈編集〉 ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[Peer to Peer設定]項目で、その内容を確認できます。
- ④〈削除〉 ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ⑤〈全削除〉 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※ [Peer to Peer設定一覧] 項目の内容がすべて削除されます。

2. 「VoIP電話帳設定」画面

「Peer to Peer設定」－「VoIP電話帳設定」

Peer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)の発信などで使用するVoIP電話帳の登録画面です。

■VoIP電話帳の保存と書き込み

登録したVoIP電話帳をファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。

VoIP電話帳の保存と書き込み	
保存したファイルを書き込む ①	参照... 書き込み CSV形式のファイルが書き込みできます。 ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。
ファイルに保存する ②	保存 voiptbl.csvで保存されます。

①保存したファイルを

書き込む

[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」(拡張子:csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

「電話帳登録ファイル」の保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。

表示された画面から目的の電話帳登録ファイル(例:voiptbl.csv)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。

選択した電話帳登録ファイルの参照先が表示されたことを確認できたら、〈書き込み〉をクリックすると、[VoIP電話帳登録一覧]項目にその内容が表示されます。

書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※電話帳登録ファイルを書き込んだあと、「管理」メニューの「設定のバックアップ/リストア」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、VoIP電話帳の内容も、その設定ファイルに保存されているVoIP電話帳の内容に上書きされますのでご注意ください。

②ファイルに保存する

[VoIP電話帳登録一覧]項目の内容を電話帳登録ファイル(例:voiptbl.csv)として、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、電話帳登録ファイルを保存できます。

※保存した電話帳登録ファイルは、表計算やデータベースアプリケーションで編集できます。

また、保存した電話帳登録ファイルは、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。

2. 「VoIP電話帳設定」画面(つづき)

「Peer to Peer設定」－「VoIP電話帳設定」

■VoIP電話帳への登録

Peer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)でIP電話する相手の電話番号を登録します。

VoIP電話帳への登録	
番号 ①	1 ▼
名前 ②	telephone
電話番号 ③	7000
SIP URI ④	sip: icom7000@telephone.voip.net

※画面の内容は、登録例です。

- ①番号 相手先電話番号を登録するために、「1」～「1000」の番号を選択します。
最大1000件まで登録できます。
- ②名前 相手の名前を任意の半角31文字(全角15)以内で入力します。
- ③電話番号 電話機からダイヤルする電話番号を半角で入力します。
※「110」、「118」、「119」ではじまる番号は、登録できません。
※相手とPeer to Peerで通話するときは、任意の数字(半角31桁以内)と
記号(#、*)で入力します。
- ④SIP URI SIPサーバーを中継しないでPeer to Peerで発信する場合、相手の[SIP
URI]を半角英数字(63文字以内)で入力します。
[電話番号](③)欄に設定した電話番号を電話機からダイヤルをすると、
[SIP URI]欄に入力した宛先に電話をかけます。
通話相手のSIP URIの書式に合わせて、下記のどちらかで入力できます。
◎sip:[SIPユーザー名]@[相手先のIPアドレス]
◎sip:[SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]

5 「Peer to Peer設定」メニュー

2. 「VoIP電話帳設定」画面(つづき)

「Peer to Peer設定」－「VoIP電話帳設定」

■VoIP電話帳登録一覧

[VoIP電話帳への登録]項目で登録した内容を表示します。

VoIP電話帳登録一覧				
番号	名前	電話番号	SIP URI	
1	telephone	7000	icom7000@telephone.net	①編集 ②削除 ③全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集> ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[VoIP電話帳への登録]項目で、その内容を確認できます。
- ②<削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ③<全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[VoIP電話帳登録一覧]項目の内容がすべて削除されます。

この章では、
管理者用の「簡単設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 「簡単設定」画面	94
■ 簡単設定ウィザード	94
■ 内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)	94
■ 内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)	96
■ 内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)	97
■ 内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)	98
■ 内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)	99

6 「簡単設定」メニュー

1.「簡単設定」画面

「簡単設定」―「簡単設定」

本製品に登録する内線子機の内線番号、内線代表名(グループ名称)、鳴り分け判別、内線子機の機種をウィザードにしたがって設定します。

■簡単設定ウィザード

- 本製品で使用する内線子機の登録を開始するときに、〈設定開始〉をクリックします。
- ※一度設定した内線代表番号や所属を変更するときも、このウィザードを使用します。
- ※登録できる内線子機は、[TEL 1] ポート/[TEL 2] ポートに接続するアナログ電話機2台を含め、最大26台です。

簡単設定ウィザード

設定開始

■内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)

登録する内線子機の内線番号、内線代表番号を設定して、〈次へ>>〉をクリックします。

内線・内線代表の追加/削除

内線代表着信設定

着信設定

内線機種選択

発信設定

内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)

① キャンセル

② 次へ>>

③ 7ユーザー

内線代表名 ④	内線代表番号 ⑤	内線追加 ⑥	内線 ⑦
内線代表に属さない内線		追加 削除	501
営業部 削除	200	追加 削除	201, 202, 203
購買部 削除	300	追加 削除	301, 302
資材部 削除	400	追加 削除	401
内線代表の追加 ⑧			
	追加		

① キャンセル

② 次へ>>

※画面の内容は、設定した内線代表名(営業部/購買部/資材部)に所属しない内線番号(501)と内線代表名に所属する内線代表番号(200/300/400)の登録例です。

- ①〈キャンセル〉 ……………

簡単設定ウィザードで、変更した設定内容を取り消すときに、クリックするボタンです。
※クリックすると、「簡単設定」メニューをクリックしたとき表示される[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ②〈次へ>>〉 ……………

[内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)] 項目で変更した内容を確認するボタンです。
クリックすると、次の[内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)] 項目になります。

【内線代表とは】

1台以上の内線子機を1つのグループにまとめて、識別用の内線代表名とその内線代表番号を設定することにより、そのグループ内の内線子機への着信を、そのグループ内で空いている内線子機に指定できます。
たとえば、内線代表番号(例:200)をダイヤルしたとき、そのグループに所属する内線番号(例:201、202、203)の中で、空いている内線子機に一斉着信します。
また、外線から内線代表番号に着信するように設定した場合も、そのグループに所属する内線番号(例:201、202、203)の中で、空いている内線子機に一斉着信します。

1. 「簡単設定」画面 「簡単設定」-「簡単設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)つづき

内線・内線代表の追加/削除

内線代表着信設定

着信設定

内線機種選択

発信設定

① キャンセル

② 次へ>>

③ ユーザー

内線代表名 ④	内線代表番号 ⑤	内線追加 ⑥	内線 ⑦
内線代表に属さない内線		追加 削除	501
営業部 削除	200	追加 削除	201, 202, 203
購買部 削除	300	追加 削除	301, 302
資材部 削除	400	追加 削除	401
内線代表の追加 ⑧			
		追加	

① キャンセル

② 次へ>>

※画面の内容は、設定した内線代表名(営業部/購買部/資材部)に所属しない内線番号(501)と内線代表名に所属する内線代表番号(200/300/400)の登録例です。

- ③登録端末数

本製品の内線子機として登録した内線子機数を「7ユーザー」(表示例)で表示します。
- ④内線代表名

[内線代表の追加] (⑧) 欄で追加した内線代表名(グループ名称)を表示します。

〈削除〉をクリックすると、設定した内線代表名を削除します。

※登録例の内線番号(例: 501)は、内線代表に属さない内線として登録されていますので、この項目では変更できません。
- ⑤内線代表番号

[内線代表の追加] (⑧) 欄で追加した内線代表名(グループ名称)に対する内部識別用の内線番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。

※この欄で設定した内線代表番号をダイヤルすると、次に設定する[内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)] 項目の内容にしたがって着信します。

※外線から内線代表番号に着信させるときは、[内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)] 項目の[着信内線番号]欄で、ここで設定した内線代表番号を選択できます。
- ⑥内線追加

内線代表名(グループ名称)に所属しない内線番号、または所属する内線番号を入力して、〈追加〉をクリックします。

入力は、半角数字2桁～7桁までです。

※削除するときは、該当する内線代表名の[内線追加] 欄のテキストボックスに内線番号を入力して、〈削除〉をクリックします。

※「ユーザー設定」画面にログインするためのパスワードが不明な場合は、該当する内線子機の登録内容をいったん削除して、再登録してください。
- ⑦内線

登録した内線番号を内線代表名(グループ名称)ごとに表示します。
- ⑧内線代表の追加

[内線代表番号] (⑤) 欄で追加する内線代表番号に対する内線代表名(グループ名称)を任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。

※〈追加〉をクリックすると、入力した内線代表名が[内線代表名] (④) 欄に表示されます。

1. 「簡単設定」画面(つづき)

「簡単設定」―「簡単設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)

内線代表名(グループ名称)の内線子機に着信させる内線番号の順番を設定して、〈次へ>>〉をクリックします。

※③～⑤の設定が表示されるのは、内線代表名(例:営業部)を設定したときだけです。

内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)

① キャンセル ② 次へ>>

④ ③ 営業部(200)

1次着信: ☒ 201 ☐ 202 ☐ 203

2次着信: ☐ 201 ☒ 202 ☒ 203 ⑤ 15秒後

なし

購買部(300)

1次着信: ☒ 301 ☒ 302

なし

資材部(400)

1次着信: ☒ 401

なし

① キャンセル ② 次へ>>

罫線で囲まれた内線代表の内容が、営業部(200)の動作設定と鳴動時間です。

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈キャンセル〉…………… 簡単設定ウィザードの操作を取り消すときにクリックするボタンです。
※クリックすると、「簡単設定ウィザード」項目に戻ります。
- ②〈次へ>>〉…………… [内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)]項目で変更した内容を確定するボタンです。
クリックすると、次の[内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)]項目になります。
- ③内線代表名(内線代表番号)…………… 設定する内線代表名(例:営業部)と内線代表番号(例:200)を表示します。
- ④動作設定…………… 内線代表番号(例:200)をダイヤルしたとき、着信(鳴動)させる内線子機の内線番号を選択します。
[鳴動時間]欄(⑤)を設定すると、3次着信まで動作を設定できます。
- ⑤鳴動時間…………… 次の着信動作に切り替わるまでの鳴動時間を設定します。
設定できる範囲は、「なし」、「10秒後」～「60秒後」です。(出荷時の設定:なし)
※「なし」を設定すると、次の着信動作に切り替わりません。

【内線代表番号に着信したときの動作について】

- ◎内線着信の場合 内線で上記の営業部(200)に電話をかけると、1次着信の内線子機(201)に着信(鳴動)します。
内線子機(201)が通話中、または[鳴動時間]欄(⑤)に設定された時間が経過すると、2次着信の内線子機(202、203)に着信(鳴動)します。
※設定した内線子機がすべて通話中のときは、通話は切断されます。
- ◎外線着信の場合 [内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)]項目(☞P97)で営業部(200)を着信先に設定した場合、設定した外線電話番号(回線)に電話がかかってくると、1次着信の内線子機(201)に着信(鳴動)します。
[鳴動時間]欄(⑤)に設定された時間が経過すると、2次着信の内線子機(202、203)に着信(鳴動)します。
※1次着信の内線子機(201)がVP-701(多機能電話機)の場合、フレキシブルボタンに割り当てられた〈外線キー〉が空いているとき(消灯時)は、通話中でも、すぐに2次着信へ移行しません。
[鳴動時間]欄(⑤)に設定された時間、フレキシブルボタンに割り当てられた〈外線キー〉の高速点滅(赤色)と小さな鳴動音で着信をお知らせします。(外線マルチライン対応)

1. 「簡単設定」画面(つづき)

「簡単設定」-「簡単設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)

外線から着信したときの動作を設定して、〈次へ>>〉をクリックします。

外線電話番号 ③	回線 ④	着信内線番号 ⑤	鳴り分け判別 ⑥
03	IP回線	200	外線音A
03	ISDN回線	401	外線音B
03	アナログ回線	201	通知番号で判別
VR7000	Peer to Peer	501	内線音A

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈キャンセル〉 …………… 簡単設定ウィザードの操作を取り消すときにクリックするボタンです。
※クリックすると、[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ②〈次へ>>〉 …………… [内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)]項目で変更した内容を確定するボタンです。
クリックすると、次の[内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)]項目になります。
- ③外線電話番号 …………… 「アナログ電話回線1/2」画面、「ISDN回線1/2/3」画面、「IP回線」画面で登録した、「契約回線番号」や「ダイヤルイン番号」、「IP電話番号」を表示します。
※「Peer to Peer設定」画面の[Peer to Peer]項目でSIP URIが設定されている場合は、SIPユーザー名を表示します。
- ④回線 …………… 「アナログ電話回線1/2」画面、「ISDN回線1/2/3」画面、「IP回線」画面、「Peer to Peer設定」画面で登録した、回線の種類を表示します。
- ⑤着信内線番号 …………… 登録した外線電話番号(回線)に電話がかかってきたとき、着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。
(出荷時の設定:なし)
着信内線番号には内線代表番号、または内線番号を設定できます。
- ⑥鳴り分け判別 …………… 登録した外線電話番号ごとに、VP-701に着信したときの呼び出し音を設定します。(出荷時の設定:外線音A(アナログ回線/ISDN回線/IP回線時)
内線音A(Peer to Peer時)
※VP-701以外の内線子機では無効な設定です。
※VP-701を本製品に接続している場合は、下記から選択できます。
◎外線音A～外線音C:外線着信時に使用される呼び出し音です。
◎内線音A～内線音C:内線着信時に使用される呼び出し音です。
◎通知番号で判別 :「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合は、着信時の呼び出し音に「外線音A」を使用し、それ以外の場合は、「内線音A」を使用します。

6 「簡単設定」メニュー

1. 「簡単設定」画面(つづき)

「簡単設定」－「簡単設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)

登録する内線子機の機種を設定して、〈次へ>>〉をクリックします。

内線番号③	機種④	留守電ボックス⑤	内線代表番号⑥
501	VP-701	ボックス1	内線代表なし
201	VP-701	ボックス2	200
202	VP-701	ボックス3	200
203	標準SIPフォン(WLAN)	ボックス1	200
301	標準SIPフォン	ボックス1	300
302	TEL1	ボックス1	300
401	TEL2	ボックス1	400

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈キャンセル〉…………… 簡単設定ウィザードの操作を取り消すときにクリックするボタンです。
※クリックすると、[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ②〈次へ>>〉…………… [内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)]項目で変更した内容を確認するボタンです。
クリックすると、次の[内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)]項目になります。
- ③内線番号…………… 設定する内線番号を表示します。
- ④機種…………… 登録する内線子機の機種を「自動」、「VP-701」、「標準SIPフォン」、「標準SIPフォン(WLAN)」、「TEL1」、「TEL2」から選択します。
(出荷時の設定:自動)
◎VP-701を登録するときは、「自動」、または「VP-701」を選択します。
◎無線IP携帯を登録するときは、「標準SIPフォン(WLAN)」を選択します。
※「TEL1」と「TEL2」は、本製品に接続するアナログ電話機のことです。
- ⑤留守電ボックス…………… 登録する内線子機が使用する留守電ボックスを、「使用しない」、「ボックス1」、「ボックス2」、「ボックス3」から選択します。(出荷時の設定:ボックス1)
※[機種](④)欄で、「自動」、「VP-701」を設定したときだけ、選択できます。
- ⑥内線代表番号…………… 所属する内線代表名(グループ名称)の内線代表番号を表示します。

1. 「簡単設定」画面(つづき)

「簡単設定」―「簡単設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)

登録された内線子機が、プリセット発信(外線経路を捕捉しないで発信した場合の自動捕捉動作)時に使用する外線を選択して、〈完了〉をクリックします。

- ✓内線・内線代表追加/削除
- ✓内線代表着信設定
- ✓着信設定
- ✓内線機種選択
- ✚発信設定

内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)

① キャンセル
② 完了

③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
内線番号	優先度	IP回線	ISDN回線	アナログ回線	Peer to Peer
501	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
201	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
202	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
203	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
301	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	VR7000
302	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	VR7000
401	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	捕捉しない

① キャンセル
② 完了

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈キャンセル〉 …………… 簡単設定ウィザードの操作を取り消すときにクリックするボタンです。
※クリックすると、[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ②〈完了〉 …………… [内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)]項目で変更した内容を確定するボタンです。
※クリックすると、変更した内容が確定され、[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ③内線番号 …………… 設定する内線番号を表示します。
- ④優先度 …………… 登録された内線子機が、プリセット発信を使用して外線発信した回線が使用中の場合、次にどの回線で捕捉スライドして発信するかどうか設定します。
(出荷時の設定: IP回線⇒ISDN回線)

◎IP回線⇒ISDN回線

IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信する。

◎IP回線⇒アナログ回線

IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信する。

◎ISDN回線⇒IP回線

ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信する。

◎ISDN回線⇒アナログ回線

ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信する。

◎アナログ回線⇒IP回線

アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信する。

◎アナログ回線⇒ISDN回線

アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信する。

◎IP回線

IP回線が使用中の場合、発信しない。

◎ISDN回線

ISDN回線が使用中の場合、発信しない。

◎アナログ回線

アナログ回線が使用中の場合、発信しない。

6 「簡単設定」メニュー

1. 「簡単設定」画面

「簡単設定」-「簡単設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)(つづき)

✓内線・内線代表追加/削除
✓内線代表着信設定
✓着信設定
✓内線機種選択
☑発信設定

内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)

① キャンセル ② 完了

③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
内線番号	優先度	IP回線	ISDN回線	アナログ回線	Peer to Peer
501	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
201	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
202	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
203	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
301	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	VR7000
302	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	VR7000
401	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	捕捉しない

① キャンセル ② 完了

※画面の内容は、登録例です。

- ⑤ **IP回線** プリセット発信時に使用するIP回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない)
- ⑥ **ISDN回線** プリセット発信時に使用するISDN回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない)
- ⑦ **アナログ回線** プリセット発信時に使用するアナログ電話回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない)
※相手への発信者番号通知は、アナログ電話回線の仕様により、ダイヤルイン追加番号を選択しても契約回線番号が通知されます。
- ⑧ **Peer to Peer** [VoIP電話帳登録一覧]項目(☞P92)に登録された電話番号の相手にPeer to Peer発信したとき、使用するSIPユーザー名を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない)

【回線グループ機能について】

上記の⑤～⑦で、回線グループを選択すると、その回線グループに登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面(☞P85)で確認できます。

※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

この章では、
管理者用の「PBX設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「PBX情報」画面	102
■ 内線代表一覧	102
■ 内線一覧	103
2.「基本設定」画面	104
■ 基本設定	104
3.「特番設定」画面	106
■ 特番設定	106
■ 外線発信特番設定	109
4.「内線個別設定」画面	110
■ 内線設定(新規登録)	110
■ 内線設定(編集(内線番号))	112
■ 内線設定一覧	114
■ TEL1設定/TEL2設定	115
5.「内線代表設定」画面	117
■ 内線代表設定(新規登録)	117
■ 内線代表設定(編集(内線代表名:内線代表番号))	118
■ 内線代表設定一覧	119
6.「着信設定」画面	120
■ 着信設定	120
7.「電話機設定」画面	121
■ 電話機のメンテナンス	121
■ 電話機設定(共通設定)	122
■ 電話機設定(設定グループ)	123
■ 呼出音設定	131
8.「電話帳設定」画面	132
■ 設定グループの選択	132
■ 電話帳の保存と書き込み	133
■ 電話帳への登録	134
■ 電話帳登録一覧	136

1. 「PBX情報」画面

「PBX設定」―「PBX情報」

「PBX設定」メニュー、または「簡単設定」メニュー(※6章)から登録された内線子機の設定内容を表示します。

■内線代表一覧

登録された内線子機に対する各内線代表番号と、設定グループの設定内容を表示します。

内線代表一覧		
内線代表に属さない内線 ①		
	501	
200 ②	内線一覧 ③	201 202 203
	1次着信	201
	2次着信	202 203
	3次着信	なし
300	内線一覧	301 302
	1次着信	301 302
	2次着信	なし
	3次着信	なし
400	内線一覧	401
	1次着信	401
	2次着信	なし
	3次着信	なし

※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

- ①内線代表に属さない内線 内線代表に所属しない内線子機の内線番号を表示します。
- ②内線代表番号 内線代表にする内線子機の内線代表番号を表示します。
- ③内線一覧 内線代表に所属する内線子機の内線番号を表示します。
- ④内線代表着信設定 内線代表番号(②)に着信したとき、鳴動させる内線子機の内線番号を表示します。

【登録した内線代表の設定を編集するときは】

[内線代表一覧]項目に表示された内線代表(例:200、300、400)の設定内容は、「PBX情報」メニューの「内線代表設定」画面、または「簡単設定」メニュー(※6章)の「簡単設定」画面で編集できます。

【登録した内線代表に属さない設定を編集するときは】

[内線代表一覧]項目に表示された内線代表に属さない内線(例:501)の設定内容は、「PBX情報」メニューの「内線個別設定」画面、または「簡単設定」メニュー(※6章)の「簡単設定」画面で編集できます。

1. 「PBX情報」画面(つづき) 「PBX設定」-「PBX情報」

■内線一覧

登録された内線代表に所属する各内線子機の設定内容を表示します。
※[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機を、内線子機に使用する機種に設定している場合は、⑥、⑦、⑧に「--」を表示します。

内線一覧				
201 ①	内線代表番号	②	200	
	機種	③	VP-701	
	ダイヤルイン番号	④	なし	
	自動捕捉回線番号	⑤	IP回線	03
			ISDN回線	03
			アナログ回線	捕捉しない
			Peer to Peer	捕捉しない
			優先度	IP回線 ⇒ISDN回線
	留守電ボックス	⑥	ボックス1	
	WAN側からの接続	⑦	禁止	
	IPアドレス	⑧	未接続	
	内線代表番号		200	
	機種			

※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

- ①内線番号 登録された内線子機の内線番号を表示します。
- ②内線代表番号 登録された内線子機が所属している内線代表の内線代表番号を表示します。
※内線代表に所属しない内線子機の場合は、「内線代表なし」を表示します。
- ③機種 登録された内線子機の機種(自動、VP-701、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2)を表示します。
- ④ダイヤルイン番号 登録された内線子機が使用するダイヤルイン番号を表示します。
※ダイヤルイン(着信内線番号)が設定されていない場合は、「なし」を表示します。
- ⑤自動捕捉回線番号 登録された内線子機で使用する回線捕捉と優先度を表示します。
- ⑥留守電ボックス 登録された内線子機で使用するボックス番号(ボックス1～ボックス3)を表示します。
- ⑦WAN側からの接続 登録された内線子機へのWAN側回線からの登録(レジスト)状態(禁止/許可)を表示します。
- ⑧IPアドレス 登録された内線子機が使用しているIPアドレスを表示します。
※内線子機が本製品に接続していない(電源が入っていない)場合は、「未接続」を表示します。

【登録した内線子機の設定を編集するときは】

[内線一覧]項目に表示された各内線子機の設定内容は、「PBX情報」メニューの「内線個別設定」画面と「着信設定」画面、または「簡単設定」メニュー(※6章)の「簡単設定」画面で編集できます。
※内線子機が所属する内線代表については、「PBX情報」メニューの「内線代表設定」画面、または「簡単設定」メニュー(※6章)の「簡単設定」画面で編集できます。

2. 「基本設定」画面

「PBX設定」－「基本設定」

登録された内線子機で共通に使用する基本機能についての設定画面です。

■ 基本設定

登録された内線子機で共通に使用する基本設定です。

基本設定			
転送切り戻り時間	①	20 秒	鳴動時間 30 秒
パークリコール時間	②	120 秒	
保留音	③	保留音1 ▼	
保留音の音量	④	☒ 0 dB ☐ +6 dB	
留守番電話機能	⑤	☒ 無効 ☐ 有効	
TELポートの通信中転送	⑥	☒ 無効 ☐ 有効	

- ① 転送切り戻り時間 ……… 内線子機からの転送に失敗したとき、もとの通話に戻すまでの時間です。
設定時間内に転送先が応答できなかったときは、転送をもとの通話に戻します。
設定できる範囲は、「0～99」(秒)です。 (出荷時の設定: 20)
※「0」を設定した場合は、転送をもとの通話に戻りません。
- [鳴動時間] …………… 転送を切り戻したときに設定時間が経過すると、通話を切断します。
設定できる範囲は、「1～99」(秒)です (出荷時の設定: 30)
- ② パークリコール時間 …… 内線子機での通話をパーク保留したとき、保留のまま放置されると転送元の内線子機にリコール(再呼び出し)するまでの時間です。
パークリコール設定時間内に誰もパーク応答しなかったとき、通話をパーク保留した子機にリコールを開始します。 (出荷時の設定: 120)
設定できる範囲は、「0～600」(秒)です。
※「0」を設定した場合は、リコールしません。
- ③ 保留音 …………… 内線子機で通話を保留したときの保留音を設定します。
保留音は、以下の全5種類から選択できます。 (出荷時の設定: 保留音1)
◎保留音1: エリーゼのために
◎保留音2: グリーンスリーブス
◎保留音3: 峠の我が家
◎保留音4: カノン
◎保留音5: メヌエット
- ④ 保留音の音量 …………… 内線子機で通話を保留したとき、設定した保留音(③)の音量を、「0dB」(小)、「+6dB」(大)から設定します。 (出荷時の設定: 0dB)

2. 「基本設定」画面

「PBX設定」－「基本設定」

■ 基本設定(つづき)

- ⑤ 留守番電話機能 本製品の留守番電話機能を設定します。 (出荷時の設定: 無効)
「有効」に設定すると、登録された内線子機から留守番電話を操作できます。
留守番電話の応答やリモコン用の電話番号は、「ユーザー設定」画面で設定できます。(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑥ TELポートの通信中転送 フックングにより、通話保留した相手を転送する機能です。
「有効」に設定すると、保留中に第2発信ができます。 (出荷時の設定: 無効)
※「無効」に設定している場合は、フックングによる保留/解除ができます。

3. 「特番設定」画面

「PBX設定」-「特番設定」

本製品に登録した内線子機で使用する特別番号についての設定画面です。

■ 特番設定

VP-701で扱う機能を機能キーが付いていない[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続されたアナログ電話機などで操作したり、内部処理をしたりするために割り当てる特別番号について設定します。

※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。

※任意の半角数字と半角記号(#、*)を3桁以内で入力します。

※②、⑩の設定は、同じ設定グループ番号が割り当てられた内線子機に対して有効です。

特番設定				
コールピックアップ	①	*81		
グループピックアップ	②	**		
指定ピックアップ	③	*80		
パーク保留	④	保留 *90	応答 *91	
外線キー応答	⑤	*92		
音声呼出	⑥	*83		
不在転送	⑦	*94		
不応答転送	⑧	*95		
話中転送	⑨	*96		
外線着信転送の切替	⑩	*97		
昼夜切替	⑪	*98		
留守電の開始と停止	⑫	*99		
留守電の再生	⑬	*84		
システム特番	⑭	*82	*93	*85

① コールピックアップ …… この欄で設定した番号をダイヤルすると、ほかの内線子機への呼び出しに代理応答できます。
(出荷時の設定: *81)

② グループピックアップ …… この欄で設定した番号をダイヤルすると、同じ設定グループに所属するほかの内線子機への呼び出しに代理応答できます。
(出荷時の設定: **)
※この欄で設定した番号につづけてピックアップグループ番号(☎P123)をダイヤルすると、指定した設定グループへの呼び出しに代理応答できます。

③ 指定ピックアップ …… この欄で設定した番号につづけて内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の内線子機への呼び出しに代理応答できます。
(出荷時の設定: *80)

④ パーク保留 …… 登録した内線子機で、パーク保留・応答するためのパーク番号です。

[保留] …… この欄で設定した番号につづけてパーク番号(01～24)をダイヤルすると、通話をパーク保留できます。
(出荷時の設定: *90)

[応答] …… この欄で設定した番号につづけてパーク番号(01～24)をダイヤルすると、ほかの内線子機でパーク保留した呼び出しに応答できます。
(出荷時の設定: *91)

3. 「特番設定」画面

「PBX設定」－「基本設定」

■ 特番設定(つづき)

- ⑤ 外線キー応答 同じ設定グループに所属する内線子機から、この欄で設定した番号につづけて、外線着信中、または外線保留中の〈外線キー〉のキー番号(01～24)をダイヤルすると、外線着信や外線保留に応答できます。 (出荷時の設定: *92)
- ⑥ 音声呼出 この欄で設定した番号につづけて内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の内線子機を音声で呼び出します。 (出荷時の設定: *83)
※VP-701以外の内線子機には、音声呼び出しできません。
- ⑦ 不在転送 この欄で設定した番号をダイヤルすると、あらかじめ指定した内線子機ごとの転送先に着信が転送されます。 (出荷時の設定: *94)
※この欄で設定した番号につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
※不在転送機能を解除するときは、この欄で設定した番号だけをダイヤルします。
※「ユーザー設定」画面で登録した内線子機ごとの転送先を設定できます。
(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑧ 不応答転送 この欄で設定した番号をダイヤルすると、設定時間内に応答できない場合、あらかじめ指定した転送先に着信が転送されます。 (出荷時の設定: *95)
※この欄で設定した番号につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
※不応答転送機能を解除するときは、この欄で設定した番号だけをダイヤルします。
※「ユーザー設定」画面で登録した内線子機ごとの転送先と呼び出し時間(出荷時の設定: 5秒)を設定できます。(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑨ 話中転送 この欄で設定した番号をダイヤルすると、内線通話中に、ほかの内線から着信した場合、あらかじめ指定した転送先に着信が転送されます。 (出荷時の設定: *96)
※この欄で設定した番号につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
※話中転送機能を解除するときは、この欄で設定した番号だけをダイヤルします。
※「ユーザー設定」画面で登録した内線子機ごとの転送先を設定できます。
(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑩ 外線着信転送の切替 あらかじめ指定した外線着信転送の「有効」/「無効」を切り替えます。 (出荷時の設定: *97)
この欄で設定した番号につづけて、外線着信転送通知に割り当てたVP-701のフレキシブルボタン番号(01～24)をダイヤル(例: *9724)します。
※「ユーザー設定」画面で回線(電話番号)ごとの転送先を設定できます。
(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

3. 「特番設定」画面

「PBX設定」－「特番設定」

■ 特番設定(つづき)

特番設定				
コールピックアップ	①	*81		
グループピックアップ	②	**		
指定ピックアップ	③	*80		
パーク保留	④	保留	*90	応答 *91
外線キー応答	⑤	*92		
音声呼出	⑥	*83		
不在転送	⑦	*94		
不応答転送	⑧	*95		
話中転送	⑨	*96		
外線着信転送の切替	⑩	*97		
昼夜切替	⑪	*98		
留守電の開始と停止	⑫	*99		
留守電の再生	⑬	*84		
システム特番	⑭	*82	*93	*85

⑪ 昼夜切替 ……………

昼間と夜間で、外線からの着信先を切り替えます。 (出荷時の設定: *98)
この欄で設定された番号につづけて外線サービスグループ番号(01～08)
(☎P146)をダイヤルすると、指定の外線サービスグループ番号に対する着
信動作の設定を昼間から夜間、または夜間から昼間に変更できます。

※この欄で設定された番号をダイヤルすると、すべての外線サービスグルー
プに対する着信動作の設定(昼間から夜間、または夜間から昼間)を一括し
て変更できます。

※回線ごとの夜間転送先は、「夜間転送先設定」画面(☎P149)で設定できます。

※切替状況は、「ユーザー設定」画面の「昼夜切替設定」(☎弊社ホームページに
掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)、またはVP-701のフレキシブルボ
タンに割り当てた「昼夜切替通知」によるランプ点灯で確認できます。

⑫ 留守電の開始と停止 ……

この欄で設定した番号をダイヤルすると、「内線個別設定」画面、または「簡
単設定」メニュー(☎6章)の「簡単設定」画面で選択した留守電ボックス番号
(ボックス1～ボックス3)の留守番電話機能を開始、または停止できます。

(出荷時の設定: *99)

※この欄で設定した番号につづけて留守電ボックス番号(1～3)をダイヤル
すると、ダイヤルした番号の留守電ボックスだけ、留守番電話機能を開始、
または停止することもできます。

⑬ 留守電の再生 ……………

この欄で設定した番号につづけて、「0」+留守電ボックス番号(1～3)をダイ
ヤルすると、ダイヤルした番号の留守電ボックスの留守番電話操作メニュー
(メインメニュー)にログインできます。 (出荷時の設定: *84)

ログインした状態で、電話機から聞こえるメッセージにしたがって操作する
と、録音内容の再生や各種設定ができます。

※留守番電話操作メニュー(メインメニュー)の詳細については、弊社ホーム
ページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」(留守番電話操作一覧)をご
覧ください。

3. 「特番設定」画面

「PBX設定」－「特番設定」

■ 特番設定(つづき)

- ⑭ システム特番 …………… 本製品のシステム内部で使用する特番です。
(出荷時の設定: *82 *93 *85)
これらの番号をほかの特番や内線番号として使用したい場合には、重複しない番号に変更してください。
※システム特番は、登録した内線子機からダイヤルする番号ではありません。

■ 外線発信特番設定

「内線個別設定」画面(☞P111)で登録した回線捕捉と異なる回線を使用して外線へ発信するための番号です。

外線発信特番設定		
外線電話番号	回線	プレフィクス
03 123456789	IP回線	
03 123456789	IP回線	
03 123456789	IP回線	
03 123456789	ISDN回線	
03 123456789	アナログ回線	
回線グループ1	IP回線	

※表示されている外線電話番号と回線は、登録例です。

- プレフィクス…………… 回線(電話番号)ごとに、任意の半角数字と半角記号(#、*)を7桁以内で入力します。
[プレフィクス]を付けて発信すると、選択した回線に切り替えて発信できます。
※ほかの特番や内線番号などと重複しないように設定してください。

【回線グループ機能について】

上記の例で、「回線グループ1」に設定した[プレフィクス]を付けて発信すると、その回線グループ(☞P85)に登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。
※[外線発信特番設定]項目に表示されるのは、回線グループ番号と回線種別だけです。
※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面(☞P85)で確認できます。
※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

4. 「内線個別設定」画面

「PBX設定」―「内線個別設定」

内線子機の新規登録や編集、本製品の「TEL1」ポート/「TEL2」ポートについての設定画面です。

※登録できる内線子機は、「TEL1」ポート/「TEL2」ポートに接続するアナログ電話機2台を含め、最大26台です。

■内線設定(新規登録)

内線子機の内線番号を新規登録するときに使用します。

※登録されている内線代表番号は、内線子機の内線番号として登録できません。

登録されている内線代表番号は、「内線代表設定」画面(☞P119)で確認できます。

内線設定(新規登録)		
内線番号	①	
パスワード	②	
優先度	③	IP回線⇒ISDN回線 ▼
IP回線	④	捕捉しない ▼
ISDN回線	⑤	捕捉しない ▼
アナログ回線	⑥	捕捉しない ▼
Peer to Peer	⑦	捕捉しない ▼
機種	⑧	自動 ▼
留守電ボックス	⑨	ボックス1 ▼
WAN側からの接続	⑩	禁止 ▼

- ①内線番号 登録する内線子機の内線番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
- ②パスワード 登録した内線子機が、本製品に接続するときに使用するパスワードを、半角英数字31文字以内で入力します。
 ※パスワードは、長く複雑なものに設定することをおすすめします。
 ※機種(⑧)を「TEL1」、「TEL2」(アナログ電話機)に設定した場合は、パスワードを設定できません。(設定不要)
 ※ご使用になるIP電話機側のパスワードと一致しない場合は、本製品の内線子機として使用できませんのでご注意ください。(アナログ電話機を除く)
- ③優先度 登録された内線子機が、プリセット発信(外線経路を捕捉しないで発信した場合の自動捕捉動作)を使用して外線発信した回線が使用中の場合、次にどの回線で捕捉スライドして発信するかどうか設定します。
 (出荷時の設定:IP回線⇒ISDN回線)
- ◎IP回線⇒ISDN回線
 IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信する。
- ◎IP回線⇒アナログ回線
 IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信する。
- ◎ISDN回線⇒IP回線
 ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信する。
- ◎ISDN回線⇒アナログ回線
 ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信する。
 (☞次ページにつづく)

4. 「内線個別設定」画面

「PBX設定」→「内線個別設定」

■内線設定(新規登録)(つづき)

- | | |
|---------------------|--|
| ③優先度(つづき) | <p>◎アナログ回線⇒IP回線
アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信する。</p> <p>◎アナログ回線⇒ISDN回線
アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信する。</p> <p>◎IP回線
IP回線が使用中の場合、発信しない。</p> <p>◎ISDN回線
ISDN回線が使用中の場合、発信しない。</p> <p>◎アナログ回線
アナログ回線が使用中の場合、発信しない。</p> |
| ④IP回線 | プリセット発信時に使用するIP回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない) |
| ⑤ISDN回線 | プリセット発信時に使用するISDN回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない) |
| ⑥アナログ回線 | プリセット発信時に使用するアナログ電話回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない) |
| ⑦Peer to Peer | Peer to Peer発信時に使用するSIPユーザー名を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない) |
| ⑧機種 | <p>登録する内線子機の機種を、「自動」、「VP-701」、「標準SIPフォン」、「標準SIPフォン(WLAN)」、「TEL1」、「TEL2」から選択します。(出荷時の設定: 自動)</p> <p>◎VP-701を登録するときは、「自動」、または「VP-701」を選択します。</p> <p>◎無線IP携帯を登録するときは、「標準SIPフォン(WLAN)」を選択します。</p> <p>※「TEL1」と「TEL2」は、本製品に接続するアナログ電話機のことです。</p> |
| ⑨留守電ボックス | <p>登録する内線子機が使用する留守電ボックスを、「使用しない」、「ボックス1」、「ボックス2」、「ボックス3」から選択します。(出荷時の設定: ボックス1)</p> <p>※[機種](⑧)欄で、「自動」、「VP-701」を設定したときだけ、選択できます。</p> |
| ⑩WAN側からの接続 | <p>WAN側回線からの接続について設定します。(出荷時の設定: 禁止)</p> <p>「許可」に設定すると、WAN側回線からの接続を許可します。</p> <p>※「許可」に設定した場合、特に「パスワード」(②)欄に入力するパスワードは、長く複雑なものに設定することをおすすめします。</p> |

【回線グループ機能について】

上記の④～⑥で、回線グループを選択すると、その回線グループに登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面(☞P85)で確認できます。

※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

4. 「内線個別設定」画面(つづき)

「PBX設定」―「内線個別設定」

■内線設定(編集(内線番号))

登録された内線子機の設定内容を編集するときに使用します。

※編集するときは、「内線設定一覧」項目(☞P114)に表示された内線番号の〈編集〉をクリックします。

※登録された内線代表番号は、「内線代表設定」画面の「内線代表設定(編集(内線代表名:内線代表番号))」項目(☞P118)で編集できます。

内線設定(編集(201))		
内線番号	①	201
パスワード	②	2*10#22
優先度	③	IP回線⇒ISDN回線
IP回線	④	03
ISDN回線	⑤	03
アナログ回線	⑥	捕捉しない
Peer to Peer	⑦	捕捉しない
機種	⑧	VP-701
留守電ボックス	⑨	ボックス1
WAN側からの接続	⑩	禁止

※画面の内容は、内線子機の編集例です。

- ①内線番号 登録する内線子機の内線番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
- ②パスワード 登録した内線子機が、本製品に接続するときに使用するパスワードを、半角英数字31文字以内で入力します。
 ※パスワードは、長く複雑なものに設定することをおすすめします。
 ※機種(⑧)を「TEL1」、「TEL2」(アナログ電話機)に設定した場合は、パスワードを設定できません。(設定不要)
 ※ご使用になるIP電話機側のパスワードと一致しない場合は、本製品の内線子機として使用できませんのでご注意ください。(アナログ電話機を除く)
- ③優先度 登録された内線子機が、プリセット発信(外線経路を捕捉しないで発信した場合の自動捕捉動作)を使用して外線発信した回線が使用中の場合、次にどの回線で捕捉スライドして発信するかどうか設定します。
- ◎IP回線⇒ISDN回線
IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信する。
 - ◎IP回線⇒アナログ回線
IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信する。
 - ◎ISDN回線⇒IP回線
ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信する。
 - ◎ISDN回線⇒アナログ回線
ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信する。
 - ◎アナログ回線⇒IP回線
アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信する。
 - ◎アナログ回線⇒ISDN回線
アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信する。
- (☞次ページにつづく)

4. 「内線個別設定」画面

「PBX設定」→「内線個別設定」

■内線設定(編集(内線番号))(つづき)

- | | |
|---------------------|---|
| ③優先度(つづき) | ◎IP回線
IP回線が使用中の場合、発信しない。
◎ISDN回線
ISDN回線が使用中の場合、発信しない。
◎アナログ回線
アナログ回線が使用中の場合、発信しない。 |
| ④IP回線 | プリセット発信時に使用するIP回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。 |
| ⑤ISDN回線 | プリセット発信時に使用するISDN回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。 |
| ⑥アナログ回線 | プリセット発信時に使用するアナログ電話回線の電話番号、または回線グループ(☞下記参照)を選択します。 |
| ⑦Peer to Peer | Peer to Peer発信時に使用するSIPユーザー名を選択します。 |
| ⑧機種 | 登録する内線子機の機種を、「自動」、「VP-701」、「標準SIPフォン」、「標準SIPフォン(WLAN)」、「TEL1」、「TEL2」から選択します。
◎VP-701を登録するときは、「自動」、または「VP-701」を選択します。
◎無線IP携帯を登録するときは、「標準SIPフォン(WLAN)」を選択します。
※「TEL1」と「TEL2」は、本製品に接続するアナログ電話機のことです。 |
| ⑨留守電ボックス | 登録する内線子機が使用する留守電ボックスを、「使用しない」、「ボックス1」、「ボックス2」、「ボックス3」から選択します。
※[機種](⑧)欄で、「自動」、「VP-701」を設定したときだけ、選択できます。 |
| ⑩WAN側からの接続 | WAN側回線からの接続について設定します。
「許可」に設定すると、WAN側回線からの接続を許可します。
※「許可」に設定した場合、特に[パスワード](②)欄に入力するパスワードは、長く複雑なものに設定することをおすすめします。 |

【回線グループ機能について】

上記の④～⑥で、回線グループを選択すると、その回線グループに登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面(☞P85)で確認できます。

※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

4. 「内線個別設定」画面(つづき)

「PBX設定」－「内線個別設定」

■内線設定一覧

[内線設定(新規登録)]項目(☞P110)、または「簡単設定」メニュー(☞6章)の「簡単設定」画面で登録した内線子機の内線番号と機種を表示します。

※登録されている内線代表番号は、「内線代表設定」画面の[内線代表設定一覧]項目(☞P119)で確認できます。

※「ユーザー設定」画面にログインするためのパスワードが不明な場合は、該当する内線子機の登録内容をいったん削除して、再登録してください。

内線設定一覧			
内線番号	機種	①	②
201	VP-701	編集	削除
202	VP-701	編集	削除
203	VP-701	編集	削除
301	VP-701	編集	削除
302	VP-701	編集	削除
401	TEL1	編集	削除
501	TEL2	編集	削除
		③	全削除

※画面の内容は、内線番号と機種の登録例です。

- ①<編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線番号の設定内容を[内線設定(編集(内線番号))]
項目で編集できます。
- ②<削除> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線番号に対する登録を削除します。
- ③<全削除> クリックすると、内線番号として登録されたすべての番号を削除します。

4. 「内線個別設定」画面(つづき)

「PBX設定」→「内線個別設定」

■TEL1設定/TEL2設定

本製品の[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続する電話機の基本設定です。

TEL1設定		
ナンバーディスプレイ	①	☒ 無効 ☐ 有効
FAXの接続	②	☐ 無効 ☒ 有効
受話音量	③	0 ▾ dB
送話音量	④	0 ▾ dB
電話機のダイヤル方式	⑤	全方式に対応 ▾
桁間タイマー	⑥	5 秒
エコーキャンセラー	⑦	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッション	⑧	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッションレベル	⑨	-30 ▾ dB
CNG	⑩	☐ 無効 ☒ 有効
CNGLレベル	⑪	-55 ▾ dB

※[TEL1]ポートと[TEL2]ポートは、個別に設定できます。

※[TEL1設定]項目の画面を使用して説明しています。

- ① **ナンバーディスプレイ** … [TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機で使用するナンバーディスプレイ機能について設定します。 (出荷時の設定:無効)
 ※ナンバーディスプレイ機能を「有効」に設定する場合、アナログ電話機がナンバーディスプレイ機能に対応していることをご確認ください。
- ② **FAXの接続** …………… [TEL1]ポート/[TEL2]ポートにアナログ電話回線用のFAXを接続するときの設定です。 (出荷時の設定:有効)
 ※「無効」に設定すると、FAXを接続しても動作しません。
- ③ **受話音量** …………… アナログ電話機使用時、自分の受話器に聞こえる音量を設定します。 (出荷時の設定:0)
 設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ④ **送話音量** …………… アナログ電話機使用時、相手の受話器に聞こえる音量を設定します。 (出荷時の設定:0)
 設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ⑤ **電話機のダイヤル方式** … 本製品の[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機のダイヤル信号の種類を設定します。 (出荷時の設定:全方式に対応)
 ◎全方式に対応 : 電話機のダイヤル方式を自動認識させるとき
 ◎PB : 電話機のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
 ◎DP : 電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)のとき
- ⑥ **桁間タイマー** …………… ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
 設定できる範囲は、「1～99」(秒)です。 (出荷時の設定:5)
 ※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎて操作がないと発信を開始しますのでご注意ください。

4. 「内線個別設定」画面

「PBX設定」－「内線個別設定」

■ TEL1設定/TEL2設定(つづき)

TEL1設定		
ナンバーディスプレイ	①	☒ 無効 ☐ 有効
FAXの接続	②	☐ 無効 ☒ 有効
受話音量	③	0 dB
送話音量	④	0 dB
電話機のダイヤル方式	⑤	全方式に対応
桁間タイマー	⑥	5 秒
エコーキャンセラー	⑦	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッション	⑧	☐ 無効 ☒ 有効
エコーサプレッションレベル	⑨	-30 dB
CNG	⑩	☐ 無効 ☒ 有効
CNGLレベル	⑪	-55 dB

※[TEL1]ポートと[TEL2]ポートは、個別に設定できます。

※[TEL1設定]項目の画面を使用して説明しています。

- ⑦ **エコーキャンセラー** …… 本製品の[TEL1]ポート/[TEL2]ポートで使用するエコーキャンセラー機能について設定します。
(出荷時の設定:有効)
※「有効」に設定すると、通話するときに起こるエコー(反響)を低減します。
(通話する相手に返るエコー抑止に効果があります)
- ⑧ **エコーサプレッション** …… 本製品のエコーサプレッション機能について設定します。
(出荷時の設定:有効)
※「有効」に設定すると、送話音量を検知し、それに応じた受話音量を下げて、エコー量を抑止します。
- ⑨ **エコーサプレッション
レベル** …………… エコーサプレッション機能使用時のエコー抑止レベルを設定します。
(出荷時の設定: -30)
設定できる範囲は、「-65」(最小)～「0」(最大)(dB)です。
ダブルトーク時、途切れ感がある場合にレベルを下げます。
※レベルを下げすぎると、エコー量が増加しますのでご注意ください。
- ⑩ **CNG** …………… 本製品のCNG(コンフォートノイズ生成)機能について設定します。
(出荷時の設定:有効)
※「有効」に設定すると、相手の受話器に聞こえる受話音に少しノイズ(サー)を付加して無通話時の違和感を軽減します。
- ⑪ **CNGLレベル** …………… CNG機能を使用時、相手の受話器に聞こえるノイズ(サー)の音量を設定します。
(出荷時の設定: -55)
設定できる範囲は、「-65」(最小音量)～「-30」(最大音量)(dB)です。

5. 「内線代表設定」画面 「PBX設定」―「内線代表設定」

複数の内線番号を内線代表番号という1つのグループにまとめられます。
内線代表を設定するとそのグループ内で着信させる内線子機と、着信させない内線子機を選択できます。
一定時間、電話に応答できない状態がつづく、着信させる内線子機を変更できます。
着信させる内線子機の内線番号選択は、1次着信から3次着信まで設定できます。
※内線代表番号は、最大26件まで登録できます。

■内線代表設定(新規登録)

内線代表名(グループ名称)で使用する内線代表番号を新規登録するときに使用します。
※「内線代表に属さない内線」として、「簡単設定」メニュー(※6章)の「簡単設定」画面から登録した内線子機についても内線代表番号に変更できます。
※登録されている内線番号は、内線代表番号として登録できません。
登録されている内線子機の内線番号と機種は、「内線個別設定」画面(※P114)で確認できます。

内線代表設定 (新規登録)				
内線代表番号 ①				
内線代表名 ②				
<1次着信>				
内線番号 ③	☐ 201	☐ 202	☐ 203	☐ 301
	☐ 302	☐ 401	☐ 501	
<2次着信>				
起動開始時間 ④	なし ▼			
<3次着信>				
起動開始時間 ④	なし ▼			

- ①内線代表番号

.....

内線代表名(②)に対する内線代表番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
設定された内線代表番号をダイヤルすると、この項目で設定された内容にしたがって着信します。
外線から内線代表番号に着信させるときは、「着信設定」画面の[着信設定]項目にある[着信内線番号]欄(※P120)、または「簡単設定」メニュー(※6章)の「簡単設定」画面で設定できます。
- ②内線代表名

.....

登録する内線代表番号を使用する内線代表名(グループ名称)を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③内線番号

.....

内線代表番号で着信したとき鳴動させる内線子機の内線番号を選択します。
[起動開始時間](④)欄を設定すると、3次着信まで動作を設定できます。
- ④起動開始時間

.....

次の着信動作に切り替わるまでの鳴動時間を設定します。
(出荷時の設定:なし)
設定できる範囲は、「なし」、「10秒後」～「60秒後」です。

5. 「内線代表設定」画面(つづき)

「PBX設定」―「内線代表設定」

■内線代表設定(編集(内線代表名:内線代表番号))

登録された内線代表番号に対する設定内容を編集するときに使用します。

※編集するときは、「内線代表設定一覧」項目(☞P119)に表示された内線代表番号の〈編集〉をクリックします。

※登録された内線番号は、「内線個別設定」画面の[内線設定(編集(内線番号))]項目(☞P112)で編集できます。

内線代表設定 (編集(営業部:200))	
内線代表番号 ①	200
内線代表名 ②	営業部
<1次着信>	
内線番号 ③	☒ 201 ☐ 202 ☐ 203 ☐ 301 ☐ 302 ☐ 401 ☐ 501
<2次着信>	
起動開始時間 ④	15秒後 ▼
内線番号 ③	☐ 201 ☒ 202 ☒ 203 ☐ 301 ☐ 302 ☐ 401 ☐ 501
<3次着信>	
起動開始時間 ④	なし ▼

※画面の内容は、内線代表番号の編集例です。

- ①内線代表番号 …………… 内線代表名(②)に対する内線代表番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
 設定された内線代表番号をダイヤルすると、この項目で設定された内容にしたがって着信します。
 外線から内線代表番号に着信させるときは、「着信設定」画面の[着信設定]項目にある[着信内線番号]欄(☞P120)、または「簡単設定」メニュー(☞6章)の「簡単設定」画面で設定できます。
- ②内線代表名 …………… 登録する内線代表番号を使用する内線代表名(グループ名称)を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③内線番号 …………… 内線代表番号で着信したとき鳴動させる内線子機の内線番号を選択します。
 [起動開始時間](④)欄を設定すると、3次着信まで動作を設定できます。
- ④起動開始時間 …………… 次の着信動作に切り替わるまでの鳴動時間を設定します。
 設定できる範囲は、「なし」、「10秒後」～「60秒後」です。

5. 「内線代表設定」画面(つづき)

「PBX設定」―「内線代表設定」

■内線代表設定一覧

[内線代表設定(新規登録)]項目(☞P117)、または「簡単設定」メニュー(☞6章)の「簡単設定」画面で登録した内線代表番号に設定された着信動作を表示します。

内線代表設定一覧			
内線代表番号	内線代表名	内線番号	
200	営業部	<1次着信>	① 編集 ② 削除
		201	
		<2次着信> 15秒後	
		202 203	
		<3次着信> なし	
300	購買部	<1次着信>	編集 削除
		301 302	
		<2次着信> なし	
		<3次着信> なし	
400	資材部	<1次着信>	編集 削除
		401	
		<2次着信> なし	
		<3次着信> なし	
			③ 全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線代表番号の設定内容を[内線代表設定(編集(内線代表名:内線代表番号))]
項目で編集できます。
- ②<削除> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線代表番号に対する登録を削除します。
- ③<全削除> クリックすると、内線代表番号として登録されたすべての番号を削除します。

6. 「着信設定」画面

「PBX設定」－「着信設定」

外線から着信したときの着信内線番号の変更と着信キューイングについての設定画面です。

■ 着信設定

「簡単設定」メニュー(第6章)の「簡単設定」画面で登録した着信内線番号の変更、着信キューイングの設定をします。

着信設定		①	②	③
外線電話番号	回線	着信内線番号	鳴り分け判別	着信キューイング
03	IP回線	200 ▼	外線音A ▼	使用しない ▼
03	ISDN回線	301 ▼	外線音B ▼	使用しない ▼
03	アナログ回線	401 ▼	外線音A ▼	使用しない ▼
VR7000	Peer to Peer	なし ▼	外線音A ▼	使用しない ▼

※画面の内容は、登録例です。

① **着信内線番号** …………… 登録した外線電話番号(回線)に電話がかかってきたとき、着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。

(出荷時の設定:なし)

着信内線番号には内線番号、または内線代表番号を設定できます。

② **鳴り分け判別** …………… 登録した外線電話番号ごとに、VP-701に着信したときの呼び出し音を設定します。(出荷時の設定:外線音A(アナログ回線/ISDN回線/IP回線時)、内線音A(Peer to Peer時))

※VP-701以外の内線子機では無効な設定です。

※VP-701を本製品に接続している場合は、下記から選択できます。

◎**外線音A ～ 外線音C**:外線着信時に使用される呼び出し音です。

◎**内線音A ～ 内線音C**:内線着信時に使用される呼び出し音です。

◎**通知番号で判別** :「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合は、着信時の呼び出し音に「外線音A」を使用し、それ以外の場合は、「内線音A」を使用します。

③ **着信キューイング** …………… 着信中、または通話中に、新たに外線からの着信があっても話中にならないようにする機能です。(出荷時の設定:使用しない)

※「使用する」に設定すると、「着信内線番号」(①)欄で選択した内線子機に着信できない状態で、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。

7.「電話機設定」画面

「PBX設定」→「電話機設定」

登録された内線子機の内線番号に対して、設定グループの設定や機能の割り当てをします。

■電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

電話機のメンテナンス				
① 内線番号	② 機種	③ 状態	④ グループ設定	
201	VP-701	接続済み	設定グループ1	全端末再起動 再起動
202	VP-701	接続済み	設定グループ1	再起動
203	VP-701	接続済み	設定グループ1	再起動
301	VP-701	接続済み	設定グループ2	再起動
302	VP-701	接続済み	設定グループ2	再起動
401	TEL1	--	設定グループ1	再起動
501	TEL2	--	設定グループ1	再起動

※画面の内容は、登録例です。

- ① **機種** 「内線個別設定」画面(P110)、または「簡単設定」メニュー(6章)の「簡単設定」画面で登録された内線子機の機種(自動、VP-701、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2)を表示します。
- ② **状態** 本製品に登録された内線子機の接続状況を、「接続済み」/「未接続」で表示します。
 ※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」を表示します。
 ※機種を「TEL1」、「TEL2」(アナログ電話機)に設定した場合は、「--」が表示されます。
- ③ **グループ設定** 本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
 設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ20」までです。
 (出荷時の設定:設定グループ1)
 設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
 ※VP-701の外線保留をほかの内線子機で応答する場合は、設定グループを同じ設定にしてください。
- ④ **〈再起動〉** [状態] (②) 欄が「接続済み」と表示されているVP-701を再起動するとき、クリックします。
 〈全端末再起動〉をクリックすると、[状態] (②) 欄が「接続済み」と表示されているすべてのVP-701を一斉に再起動できます。

■電話機設定(共通設定)

本製品に登録した内線子機で共通に使用する設定です。

電話機設定		
設定グループの選択	① 共通設定 ▼	設定グループを変更
受話音量	② 0 ▼	dB
送話音量	③ -6 ▼	dB

※上図は、「設定グループの選択」欄で「共通設定」を選択したときの画面です。

- ① **設定グループの選択** …… 本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「グループ1」～「グループ20」から選択します。
 〈設定グループを変更〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。
- ◎ **共通設定**
 本製品に登録した内線子機で使用する共通な設定項目
- ◎ **設定グループ1～設定グループ20**
 [電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定項目
 ※切り替わった画面については、次ページ以降で説明しています。
- ② **受話音量** …………… VP-701の受話音量を設定します。 (出荷時の設定:0)
 設定できる範囲は、「-21」(最小音量)～「+21」(最大音量)(dB)です。
- ③ **送話音量** …………… VP-701の送話音量を設定します。 (出荷時の設定:-6)
 設定できる範囲は、「-21」(最小音量)～「+21」(最大音量)(dB)です。

7. 「電話機設定」画面(つづき)

「PBX設定」-「電話機設定」

■電話機設定(設定グループ)

選択した内線子機の設定グループごとに、キー操作や機能の割り当てを設定します。

電話機設定					
設定グループの選択	設定グループ1 設定グループを変更				
ピックアップグループ番号	① 01				
ダイヤル待ち時間	② 5 秒				
外線発信キー	③ 0				
外線捕捉範囲	④ 1 ~ 24				
オフフック回線捕捉	⑤ ☒ 内線 ☐ 外線				
オフフック外線応答	⑥ ☐ 無効 ☒ 有効				
着信優先順位	⑦ ☒ 内線優先 ☐ 外線優先				
外線通話中の内線着信	⑧ ☒ 拒否 ☐ 許可				
代理応答キー動作	⑨ ☐ コールピックアップ ☒ グループピックアップ				
コールピックアップ対象	⑩ 内線のみ				
グループピックアップ対象	⑪ 外線/内線				
指定ピックアップ対象	⑫ 外線/内線				
長時間保留の監視時間	⑬ 180 秒				
電話帳[共通]の利用	⑭ ☐ 無効 ☒ 有効				
⑮ ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
留守電設定通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電通知					
不在転送通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
不応答転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
話中転送通知					
昼夜切替通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
外線着信転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
音声呼出					
未使用					
ワンタッチ					

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ピックアップグループ番号

設定グループへの着信を代理応答するときに使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。

(出荷時の設定:01(設定グループ1の場合))

※グループピックアップ特番(出荷時の設定:**)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。

② ダイヤル待ち時間

ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。

設定できる範囲は、「1」～「60」(秒)です。

(出荷時の設定:5)

※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎてても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。

③ 外線発信キー

空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるための番号を「0」～「9」、「*」、「#」から選択します。

(出荷時の設定:0)

■電話機設定(設定グループ)(つづき)

電話機設定					
設定グループの選択	設定グループ1 設定グループを変更				
ピックアップグループ番号	① 01				
ダイヤル待ち時間	② 5 秒				
外線発信キー	③ 0				
外線捕捉範囲	④ 1 ~ 24				
オフフック回線捕捉	⑤ ☒ 内線 ☐ 外線				
オフフック外線応答	⑥ ☐ 無効 ☒ 有効				
着信優先順位	⑦ ☒ 内線優先 ☐ 外線優先				
外線通話中の内線着信	⑧ ☒ 拒否 ☐ 許可				
代理応答キー動作	⑨ ☐ コールピックアップ ☒ グループピックアップ				
コールピックアップ対象	⑩ 内線のみ				
グループピックアップ対象	⑪ 外線/内線				
指定ピックアップ対象	⑫ 外線/内線				
長時間保留の監視時間	⑬ 180 秒				
電話帳[共通]の利用	⑭ ☐ 無効 ☒ 有効				
⑮ ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーク	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
不在転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
応答転送通知					
話中転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
昼夜切替通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用					
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

- ④ **外線捕捉範囲** …………… 空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるため、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てる〈外線キー〉の設定範囲を、「1」～「24」から選択します。
(出荷時の設定: 1～24)
- ⑤ **オフフック回線捕捉** …… 受話器を上げて、ダイヤルしたとき、発信先(内線/外線)を設定します。
(出荷時の設定: 内線)
◎**内線**: 受話器を上げたときに内線発信音(ツーツー)が聞こえ、ダイヤルした内線番号の内線子機を呼び出す。
◎**外線**: 受話器を上げたとき、[外線捕捉範囲] (④) 欄で設定した空いている回線を自動的に捕捉する。
- ⑥ **オフフック外線応答** …… 「有効」を設定すると、外線から電話がかかってきたときに受話器を上げるだけで応答できます。
(出荷時の設定: 有効)
- ⑦ **着信優先順位** …………… 「外線優先」を設定すると、外線からの電話を優先して内線子機に着信させます。
(出荷時の設定: 内線優先)
※外線からの電話は、ディスプレイに「着信中(キー番号)」を表示して、使用している回線を確認できます。

7. 「電話機設定」画面

「PBX設定」―「電話機設定」

■ 電話機設定(設定グループ)(つづき)

- ⑧ 外線通話中の内線着信 … 外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。
(出荷時の設定: 拒否)
「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。
- ⑨ 代理応答キー動作 …… <代理応答>を操作したときの動作について設定します。
「グループピックアップ」を設定すると、同じ設定グループに登録した子機への着信に対して代理応答できます。(出荷時の設定: グループピックアップ)
- ⑩ コールピックアップ対象
ほかの内線子機への呼び出しについて、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。(出荷時の設定: 内線のみ)
- ◎ 外線/内線
内線着信(Peer to Peer着信を含む)と外線着信(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信)をコールピックアップの対象とします。
- ◎ 外線のみ
外線着信(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信)だけをコールピックアップの対象とします。
- ◎ 内線のみ
内線着信(Peer to Peer着信を含む)だけをコールピックアップの対象とします。
※「着信設定」画面(☞P120)にある[鳴り分け判別]欄、または「簡単設定」メニューの「簡単設定」画面(☞P97)にある[鳴り分け判別]欄を内線(内線音A～内線音C)に設定している外線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)からの着信は、内線として扱われます。
- ⑪ グループピックアップ対象
同じ設定グループのほかの子機への呼び出しについて、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定: 外線/内線)
- ◎ 外線/内線
内線着信(Peer to Peer着信を含む)と外線着信(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信)をグループピックアップの対象とします。
- ◎ 外線のみ
外線着信(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信)だけをグループピックアップの対象とします。
- ◎ 内線のみ
内線着信(Peer to Peer着信を含む)だけをグループピックアップの対象とします。
※「着信設定」画面(☞P120)にある[鳴り分け判別]欄、または「簡単設定」メニューの「簡単設定」画面(☞P97)にある[鳴り分け判別]欄を内線(内線音A～内線音C)に設定している外線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)からの着信は、内線として扱われます。

■ 電話機設定 (設定グループ) (つづき)

電話機設定					
設定グループの選択	設定グループ1 設定グループを変更				
ピックアップグループ番号	① 01				
ダイヤル待ち時間	② 5 秒				
外線発信キー	③ 0				
外線捕捉範囲	④ 1 ~ 24				
オフフック回線捕捉	⑤ ☒ 内線 ☐ 外線				
オフフック外線応答	⑥ ☐ 無効 ☒ 有効				
着信優先順位	⑦ ☒ 内線優先 ☐ 外線優先				
外線通話中の内線着信	⑧ ☒ 拒否 ☐ 許可				
代理応答キー動作	⑨ ☐ コールピックアップ ☒ グループピックアップ				
コールピックアップ対象	⑩ 内線のみ				
グループピックアップ対象	⑪ 外線/内線				
指定ピックアップ対象	⑫ 外線/内線				
長時間保留の監視時間	⑬ 180 秒				
電話帳[共通]の利用	⑭ ☐ 無効 ☒ 有効				
⑮ ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーク	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
不在転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
応答転送通知					
話中転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
昼夜切替通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用					
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

⑫ 指定ピックアップ対象 …

指定の内線子機への呼び出しについて、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定: 外線/内線)

◎ 外線/内線

内線着信 (Peer to Peer着信を含む) と外線着信 (IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信) を指定ピックアップの対象とします。

◎ 外線のみ

外線着信 (IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信) だけを指定ピックアップの対象とします。

◎ 内線のみ

内線着信 (Peer to Peer着信を含む) だけを指定ピックアップの対象とします。

※「着信設定」画面 (P120) にある [鳴り分け判別] 欄、または「簡単設定」メニューの「簡単設定」画面 (P97) にある [鳴り分け判別] 欄を内線 (内線音 A ~ 内線音 C) に設定している外線 (IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線) からの着信は、内線として扱われます。

7. 「電話機設定」画面

「PBX設定」―「電話機設定」

■ 電話機設定(設定グループ)(つづき)

- ⑬ 長時間保留の監視時間 … 設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音(プププ)を鳴らします。
設定できる範囲は、「30～1800」(秒)です。 (出荷時の設定: 180)
- ⑭ 電話帳[共通]の利用 …… VP-701が起動したときに、本製品の共通電話帳(最大300件)の内容を
VP-701本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。(出荷時の設定: 有効)
「無効」に設定すると、VP-701が起動しても、VP-701本体の電話帳に反映
されません。
- ⑮ ボタン割当(1～24) …… VP-701のフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。
(出荷時の設定: ワンタッチ)

◎ワンタッチ

よく利用する内線番号や外線番号、および本製品で設定した特番などを登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

VP-701ごとに、ワンタッチで発信できる番号を登録します。

◎外線キー

外線発信時に使用する回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)の電話番号、または回線グループ★を選択できる機能です。

※〈外線キー〉に割り当てた回線の使用状況は、ランプ表示で確認できます。

【回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)を選択するには】

ボタンを押すと、点灯(緑色)します。

ダイヤルすると、選択した回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)で発信します。

カーソルキー(着信履歴/発信履歴)+〈外線キー〉で、履歴からでも回線を選択して発信できます。

★回線グループについて

回線グループを〈外線キー〉に割り当てた場合は、その回線グループに登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉して発信できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面で(P85)で確認できます。

※回線グループに登録した回線(電話番号)は、単独で〈外線キー〉に割り当てられません。

【回線の使用状況を確認するには】

回線が使用中で発信できないときは、点灯(赤色)します。

着信すると、高速点滅(赤色)します。

保留中は点滅(緑色)します。

※ほかの子機で保留したときは、点滅(赤色)します。

◎パーク

通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能です。

最大24件まで、パーク保留・応答として設定できます。

※ほかの内線子機が、設定していないパーク番号でパーク保留した場合は、VP-701からは、パーク応答特番(*91(出荷時の設定))+パーク番号をダイヤルして応答できます。

※「特番設定」画面での特番設定が必要です。

■ 電話機設定 (設定グループ) (つづき)

電話機設定					
設定グループの選択	設定グループ1 設定グループを変更				
ピックアップグループ番号	① 01				
ダイヤル待ち時間	② 5 秒				
外線発信キー	③ 0				
外線捕捉範囲	④ 1 ~ 24				
オフフック回線捕捉	⑤ ☒ 内線 ☐ 外線				
オフフック外線応答	⑥ ☐ 無効 ☒ 有効				
着信優先順位	⑦ ☒ 内線優先 ☐ 外線優先				
外線通話中の内線着信	⑧ ☒ 拒否 ☐ 許可				
代理応答キー動作	⑨ ☐ コールピックアップ ☒ グループピックアップ				
コールピックアップ対象	⑩ 内線のみ				
グループピックアップ対象	⑪ 外線/内線				
指定ピックアップ対象	⑫ 外線/内線				
長時間保留の監視時間	⑬ 180 秒				
電話帳[共通]の利用	⑭ ☐ 無効 ☒ 有効				
⑮ ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーク	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
不在転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
応答転送通知					
話中転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
昼夜切替通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用					
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

⑮ ボタン割当 (1~24)

(つづき)

◎留守電設定通知

内線子機が使用するボックスについて、留守番電話機能の動作状態を確認できる機能です。

留守番電話機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※「内線個別設定」画面(☞P110)、または「簡単設定」メニュー(☞6章)の「簡単設定」画面で選択した留守電ボックス番号(ボックス1~ボックス3)の留守番電話機能を開始、または停止するときは、「特番設定」画面の[留守電の開始と停止]欄(☞P108)で設定した特番(出荷時の設定: *99)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

◎留守電通知

内線子機が使用するボックスについて、新しいメッセージがあるか確認できる機能です。

新しいメッセージがあるときは、VP-701のフレキシブルボタンが点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※ボタンを押しても、録音されたメッセージの再生操作はできません。

7. 「電話機設定」画面

「PBX設定」―「電話機設定」

■ 電話機設定 (設定グループ) (つづき)

⑮ ボタン割当 (1～24)

(つづき)

◎ 不在転送通知

不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能が設定されているか確認できる機能です。

不在転送機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※不在転送機能を解除するときは、「特番設定」画面の[不在転送]欄 (☎P107) で設定した特番(出荷時の設定: *94)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、無効な機能です。(☎P107、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎ 不応答転送通知

電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能が設定されているか確認できる機能です。

不応答転送機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※不応答転送機能を解除するときは、「特番設定」画面の[不応答転送]欄 (☎P107) で設定した特番(出荷時の設定: *95)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、無効な機能です。(☎P107、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎ 話中転送通知

内線通話中にほかの内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能が設定されているか確認できる機能です。

話中転送機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※話中転送機能を解除するときは、「特番設定」画面の[話中転送]欄 (☎P107) で設定した特番(出荷時の設定: *96)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、無効な機能です。(☎P107、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎ 昼夜切替通知

あらかじめ登録した外線サービスグループ(☎P146)ごとに、昼間か夜間かを確認できる機能です。

指定の外線サービスグループが夜間の場合は、VP-701のフレキシブルボタンが点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※夜間転送を解除するときは、「特番設定」画面の[昼夜切替]欄 (☎P107) で設定した昼夜切替特番(出荷時の設定: *98)につづけて外線サービスグループ番号(01～08)をダイヤルする、または「ユーザー設定」画面でボタンをクリックして、消灯をご確認ください。

※夜間転送を一括解除するときは、「特番設定」画面の[昼夜切替]欄 (☎P108) で設定した昼夜切替特番(出荷時の設定: *98)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※「PBX拡張設定」メニューの「夜間転送先設定」画面(☎P149)で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

■ 電話機設定 (設定グループ) (つづき)

電話機設定					
設定グループの選択	設定グループ1 設定グループを変更				
ピックアップグループ番号	① 01				
ダイヤル待ち時間	② 5 秒				
外線発信キー	③ 0				
外線捕捉範囲	④ 1 ~ 24				
オフフック回線捕捉	⑤ ☒ 内線 ☐ 外線				
オフフック外線応答	⑥ ☐ 無効 ☒ 有効				
着信優先順位	⑦ ☒ 内線優先 ☐ 外線優先				
外線通話中の内線着信	⑧ ☒ 拒否 ☐ 許可				
代理応答キー動作	⑨ ☐ コールピックアップ ☒ グループピックアップ				
コールピックアップ対象	⑩ 内線のみ				
グループピックアップ対象	⑪ 外線/内線				
指定ピックアップ対象	⑫ 外線/内線				
長時間保留の監視時間	⑬ 180 秒				
電話帳[共通]の利用	⑭ ☐ 無効 ☒ 有効				
⑮ ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーク	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
不在転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
応答転送通知					
話中転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
昼夜切替通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

⑮ ボタン割当 (1～24)

(つづき)

◎ 外線着信転送通知

あらかじめ登録した回線(電話番号)に外線からの着信を転送する機能が設定されているか確認できる機能です。

外線着信転送機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※外線着信転送機能を解除するときは、「特番設定」画面の「外線着信転送の切替」欄(☞P107)で設定した特番(出荷時の設定: *97)のダイヤルにつづけて、外線着信転送通知に割り当てたVP-701のフレキシブルボタン(01～24)を押して、消灯をご確認ください。

※「ユーザー設定」画面で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎ 音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。

ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先のVP-701のスピーカー機能が有効になります。

◎ 未使用

機能を割り当てません。

7. 「電話機設定」画面(つづき)

「PBX設定」―「電話機設定」

■呼出音設定

VP-701の着信音のパターンを設定します。

呼出音設定	
外線A	呼出音1 ▼
外線B	呼出音2 ▼
外線C	呼出音3 ▼
内線A	呼出音5 ▼
内線B	呼出音6 ▼
内線C	呼出音7 ▼
デフォルト内線	呼出音5 ▼
リコール	呼出音4 ▼

「着信設定」画面(☞P120)、または「簡単設定」画面(☞6章)の[鳴り分け判別]欄で設定した呼び出し音のパターンを、「呼出音1」～「呼出音7」、または「呼出音なし」から選択します。

たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、VP-701に着信したとき「呼出音1」が鳴ります。

※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した呼び出し音が鳴ります。

※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した呼び出し音が鳴ります。

※パーク保留した電話機にリコール(再呼出)する場合は、「リコール」に設定した呼び出し音が鳴ります。

8. 「電話帳設定」画面

「PBX設定」－「電話帳設定」

共通で使用する電話帳を編集します。

■ 設定グループの選択

VP-701の共通電話帳や設定グループごとに登録できる電話帳を編集するときに選択します。

設定グループの選択				
共通 0件				
設定グループ 1 0件	設定グループ 2 0件	設定グループ 3 0件	設定グループ 4 0件	設定グループ 5 0件
設定グループ 6 0件	設定グループ 7 0件	設定グループ 8 0件	設定グループ 9 0件	設定グループ 10 0件
設定グループ 11 0件	設定グループ 12 0件	設定グループ 13 0件	設定グループ 14 0件	設定グループ 15 0件
設定グループ 16 0件	設定グループ 17 0件	設定グループ 18 0件	設定グループ 19 0件	設定グループ 20 0件

共通電話帳(最大300件)はすべての多機能電話機に登録されます。
設定グループ1～20(最大100件)は各内線子機の多機能電話設定グループに対応して登録されます。

※上図は、〈共通〉をクリックしたときの画面です。

電話帳の選択……………

編集するVP-701の電話帳を、〈共通〉、〈設定グループ1〉～〈設定グループ20〉から選択します。

クリックすると、選択した電話帳の登録内容を[電話帳登録一覧]項目(☞P136)で確認、または編集できます。

※[電話帳の保存と書き込み]項目では、選択した電話帳ごとに、電話帳の保存やファイルを書き込みできます。

※登録した件数は、それぞれのボタンの下に表示されます。

※VP-701の設定グループは、「電話機設定」画面の[電話機のメンテナンス]項目(☞P121)で登録できます。

8. 「電話帳設定」画面(つづき) 「PBX設定」-「電話帳設定」

■ 電話帳の保存と書き込み

選択した電話帳ごとに、ファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。

電話帳の保存と書き込み	
保存したファイルを書き込む ①	参照... 書き込み CSV形式のファイルが書き込みできます。 ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。
ファイルに保存する ②	保存 phonebook.csvで保存されます。

※上図は、[設定グループの選択]項目(☞P132)で<共通>をクリックしたときの画面です。

- ① 保存したファイルを
書き込む ……………

[ファイルに保存する]欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」(拡張子:csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

電話帳登録ファイルの保存先を指定するため、<参照...>をクリックします。

表示された画面で目的の電話帳登録ファイルを選択して、<開く(O)>をクリックします。

テキストボックスに保存先を指定後、<書き込み>をクリックすると、[電話帳登録一覧]項目にその内容を書き込みます。

書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※電話帳登録ファイルを書き込んだあと、「管理」メニューの「設定のバックアップ/リストア」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、あとから書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますのでご注意ください。
- ② ファイルに保存する ……

[電話帳登録一覧]項目に表示された内容を電話帳登録ファイルとして、パソコンに保存します。

<保存>をクリックして、表示された画面の<保存(S)>をクリックすると、電話帳登録ファイル(拡張子:csv)として保存できます。

※ファイル名は、[設定グループの選択]項目(☞P132)でクリックしたボタンに応じて変わります。

たとえば、設定グループ1をクリックしたときの電話帳登録ファイル名は、phonebook01.csvになります。

※保存したファイルは、表計算やデータベースアプリケーションで編集できます。

■ 電話帳への登録

よく利用する電話番号を電話帳に登録します。

電話帳への登録		
番号	①	1 ▼
名前	②	
ヨミガナ	③	
電話番号	④	
短縮番号	⑤	
表示種別	⑥	電話番号 ▼
回線種別	⑦	外線 ▼
電話帳グループ	⑧	電話帳グループ1 ▼

- ① **番号** 相手先電話番号を登録するために、「1」～「300」の番号を選択します。
 ※共通電話帳には最大300件、グループ電話帳には設定グループごとに最大100件(設定グループ1～設定グループ20の合計:最大2000件)まで相手先電話番号を登録できます。
- ② **名前** 相手の名前を、任意の半角30文字(全角15)以内で入力します。
- ③ **ヨミガナ** 相手のヨミガナを、任意の半角30文字以内で入力します。
 ※半角カタカナ、半角英数字が設定できます。
 ※全角カナは、半角カタカナに変換されます。
 ※「ヨミガナ」が空白(何も設定していない)の場合、電話帳に登録できません。
- ④ **電話番号** 電話機からダイヤルする電話番号を、半角数字22桁以内で入力します。
 ※「電話番号ルーティング設定」画面で設定した宛先電話番号、プレフィックスを付加した電話番号でも登録できます。
- ⑤ **短縮番号** 必要に応じて、短縮番号を、半角数字7桁以内で入力します。
 外線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)へ発信する、またはPeer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)で発信する場合に使用できます。
 ※ユーザー用の「着信設定」画面の転送先番号(不在転送/不応答転送/話中転送)には、短縮番号を設定できません。
- 【短縮ダイヤル機能について】**
 [短縮番号](⑤)欄に、緊急通報(110、118、119)、時報(117)や天気予報(177)など、「1」ではじまる3桁の番号を設定して、その番号をダイヤルすると、短縮番号発信が優先されるため、該当するサービスへ発信できないことがあります。
 短縮ダイヤル機能は、特別な理由がない限り、「1」ではじまる3桁の番号を避けてご利用いただくことをおすすめします。

8. 「電話帳設定」画面

「PBX設定」－「電話帳設定」

■ 電話帳への登録

- | | |
|----------------|---|
| ⑥表示種別 | VP-701に着信者の名前を表示させるとき、着信した相手の「短縮番号」、または「電話番号」のどちらを名前表示の識別に使用するかを選択します。
(出荷時の設定: 電話番号) |
| ⑦回線種別 | 電話帳に回線の捕捉方法(内線/外線)を登録すると、電話帳から電話をかける
とき、回線捕捉方法を指定する必要はありません。 (出荷時の設定: 外線)
※回線種別を間違えて登録すると、発信できないことがありますのでご注意
ください。 |
| ⑧電話帳グループ | 必要に応じて、VP-701本体の電話帳をグループ分け(電話帳グループ1～
電話帳グループ10)するとき選択します。(出荷時の設定: 電話帳グループ1) |

■ 電話帳登録一覧

[電話帳への登録] 項目 (P134) で登録した内容を表示します。

電話帳登録一覧							
番号	名前	ヨミガナ	電話番号	短縮番号	表示種別	回線種別	電話帳グループ
1	ICOM1	アイコム1	05012345678		電話番号	外線	電話帳グループ1
2	ICOM2	アイコム2	05012345679		電話番号	外線	電話帳グループ1
3	営業所1	エイギョウショ1	0612345678		電話番号	外線	電話帳グループ1
全削除							

※上図は、[設定グループの選択] 項目 (P132) で〈共通〉をクリックしたときの登録例です。

- ①〈編集〉 クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を[電話帳への登録] 項目で編集できます。
- ②〈削除〉 ボタンの左欄に表示された登録内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

この章では、
管理者用の「PBX拡張設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「拡張設定」画面	138
■ SIP拡張設定	138
■ VoIP設定	140
2.「電話番号ルーティング」画面	143
■ 電話番号ルーティング設定	143
■ 電話番号ルーティング設定一覧	145
3.「外線サービスグループ」画面	146
■ 外線サービスグループ設定	146
4.「昼夜切替設定」画面	147
■ 昼夜切替曜日設定	147
■ 昼夜切替日付設定	148
5.「夜間転送先設定」画面	149
■ 夜間転送先設定	149

1. 「拡張設定」画面

「PBX拡張設定」—「拡張設定」

本製品に登録された内線子機で共通に使用する詳細な機能を設定します。

■SIP拡張設定

本製品に登録された端末で共通に使用する拡張設定です。

SIP拡張設定		
内線ドメイン	①	☒ LAN IPアドレス ☐ 指定
SIP 183対応	②	☒ 無効 ☐ 有効
電話回線 レスポンス変換	③	☐ 無効 ☒ 有効
SIP レスポンス中継	④	☐ 無効 ☒ 有効
呼出中転送方式	⑤	☐ 被転送番号を中継しない ☒ 被転送番号を中継する
SIP URI競合時の優先	⑥	☒ IP回線 ☐ Peer to Peer

- ①内線ドメイン …………… 簡易中継サーバーとその子機間が共通で使用するSIPサービスドメイン名を任意に設定できます。(出荷時の設定:LAN IPアドレス)
 入力は、半角英数字で63文字までです。
 ※ここで設定した値を子機側の[SIPサービスドメイン]欄に入力します。
- ②SIP 183対応 …………… SIP 183 Session Progressを内線子機へ中継する設定です。
 (出荷時の設定:無効)
 「有効」に設定すると、呼出中の状態で、通話を開始することなく「おかけになった電話番号は、現在使われておりません。」などの自動音声ガイダンス(トーカー)を聞けるようになります。
- ③電話回線 レスポンス変換 …………… 一般加入電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードに変換する設定です。(出荷時の設定:有効)
 ※[SIP 183対応](②)欄で、「有効」を設定したとき使用できる機能です。
- ④SIP レスポンス中継 …………… 「有効」に設定すると、下記のSIPエラーレスポンスを受信したときに、VP-701のディスプレイにエラー情報を表示します。(出荷時の設定:有効)
 ◎404 : 番号を確認してください
 ◎408 : 応答しません
 ◎486 : 話中です
 ◎その他: 受話器を置いてください
 この設定は、スライド発信をするために必要です。
 ※ほかのSIPサーバー(簡易中継サーバー)を簡易中継サーバーの子機として、本製品に接続するような構成で、スライド発信をご利用の場合は、「SIP レスポンス中継」を「有効」に設定してください。

【ご注意】

IP電話ネットワーク内で、同じ内線ドメインは使用できません。

ほかのSIPサーバー(簡易中継サーバー)、VE-IG1やVE-AG1などのゲートウェイ装置を増設する場合、それぞれ異なる内線ドメインを設定してください。

本製品に設定した内線ドメインと、本製品の「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面にあるSIPサービスドメインが一致するような構成はできません。

1. 「拡張設定」画面

「PBX拡張設定」－「拡張設定」

■ SIP拡張設定(つづき)

- ⑤ 呼出中転送方式 …………… 「被転送番号を中継する」に設定すると、呼出中に受話器を置いて転送する(呼出中転送)とき、転送先に被転送の電話番号を表示します。
(出荷時の設定：被転送番号を中継する)
- 【操作例】**
AからBにかかってきた電話を、BがCに転送するとき、Cの電話機にAの電話番号が表示されます。
中継しなければ、Bの電話番号がCに伝わったままで、被転送の番号がわからない代わりに電話も切れません。
※中継する場合は、電話番号の表示を変更しようとしているタイミングでCが電話に出てしまうと切れる場合があります。
この場合のタイミングは、電話番号の表示がBからAの電話番号に切り替わるまでの時間です。
- ⑥ SIP URI競合時の優先 … 上位のSIPサーバー(簡易中継サーバー)からの着信で、IP回線とPeer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)のSIP URIが競合したとき、どちらとみなして動作するかを設定します。(出荷時の設定：IP回線)

1. 「拡張設定」画面(つづき)

「PBX拡張設定」-「拡張設定」

■VoIP設定

IP電話での音質について設定します。

※下記のように、TOS種別の設定ごとに[VoIP設定]項目の内容が変更になります。

TOS種別:使用しない

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	☒ 使用しない ☐ TOS ☐ Diffserv	

TOS種別:TOS

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	☐ 使用しない ☒ TOS ☐ Diffserv	
メディア(RTP)	③	優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8
呼制御(SIP)	④	優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8

TOS種別:Diffserv

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	☐ 使用しない ☐ TOS ☒ Diffserv	
メディア(RTP)	③	DSCP 46	16進表示: B8
呼制御(SIP)	④	DSCP 46	16進表示: B8

※上図は、「IP回線」画面で、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定内容です。

- ① **ジッターバッファ** …… 音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
(出荷時の設定: 40)

設定できる範囲は、「20」(ms)～「160」(ms)です。

設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声途切れやすくなります。

- ② **TOS種別** …………… 本製品のTOS機能について設定します。
(出荷時の設定: Diffserv)

◎使用しない

TOSを使用しないネットワークに該当します。

◎TOS

TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIP packetsをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

RFC1349に準拠して、1ビット～3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。

残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎Diffserv

Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIP packetsをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

1ビット～6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。

残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

1. 「拡張設定」画面

「PBX拡張設定」-「拡張設定」

■ VoIP設定(つづき)

③ メディア(RTP)

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※「IP回線」画面の[接続先の選択]欄を設定すると、回線仕様に合わせた値になりますので、変更された値のままご使用ください。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。

(出荷時の設定: 5

7)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。

(出荷時の設定: 12

0)

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。

(出荷時の設定: 46

56)

1. 「拡張設定」画面

「PBX拡張設定」-「拡張設定」

■VoIP設定(つづき)

TOS種別: 使用しない

VoIP設定	
ジッターバッファ	① 40 ms
TOS種別	② ☒ 使用しない ☐ TOS ☐ Diffserv

TOS種別: TOS

VoIP設定	
ジッターバッファ	① 40 ms
TOS種別	② ☐ 使用しない ☒ TOS ☐ Diffserv
メディア(RTP)	③ 優先度 5 サービスタイプ 12 16進表示: B8
呼制御(SIP)	④ 優先度 5 サービスタイプ 12 16進表示: B8

TOS種別: Diffserv

VoIP設定	
ジッターバッファ	① 40 ms
TOS種別	② ☐ 使用しない ☐ TOS ☒ Diffserv
メディア(RTP)	③ DSCP 46 16進表示: B8
呼制御(SIP)	④ DSCP 46 16進表示: B8

※上図は、「IP回線」画面で、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定内容です。

④呼制御(SIP)

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※「IP回線」画面の[接続先の選択]欄を設定すると、回線仕様に合わせた値になりますので、変更された値のままご使用ください。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。

(出荷時の設定: 5

6

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。

(出荷時の設定: 12

0

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。

(出荷時の設定: 46

48

【TOS設定時の16進数表記】

TOS設定時、出荷時の呼制御(SIP)の優先度設定値を2進数で表示すると、優先度(101)、サービスタイプ(1100)、未使用フィールド(0)なので、「10111000」の16進数表記は、「B8」になります。

【Diffserv設定時の16進数表記】

Diffserv設定時、出荷時の呼制御(SIP)のDSCP設定値46を2進数で表示すると、(101110)、未使用フィールド(00)なので「10111000」の16進表記は「B8」になります。

2.「電話番号ルーティング」画面

「PBX拡張設定」-「電話番号ルーティング」

外線発信するとき、「簡単設定」メニュー(第6章)の「簡単設定」画面、または「PBX設定」メニュー(第7章)の「内線個別設定」画面で設定した優先度に関係なく、特定の相手先への発信に対して使用する回線を指定するための設定です。

■電話番号ルーティング設定

相手先の電話番号、外線発信に使用する回線など、ルーティングの対象となる条件を設定します。

電話番号ルーティング設定							
① 番号	② プレフィクス	③ 宛先電話番号	④ 優先度	⑤ 回線指定	⑥ 第1発信回線	⑦ 第2発信回線	⑧ 追加
1			IP回線⇒ISDN回線	内線設定優先			

- ①番号

.....

各電話番号に対して使用する回線を登録するために、「1」～「200」の番号を選択します。
最大200件まで登録できます。
- ②プレフィクス

.....

半角数字7桁以内で、プレフィクスを入力します。
入力したプレフィクスを相手先の電話番号に付けて発信すると、プレフィクスを取り除いた電話番号で、指定した回線(④～⑦)に発信します。
- ③宛先電話番号

.....

対象となる番号を、半角数字30桁以内で入力します。
入力した電話番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、指定した回線(④～⑦)に発信します。
- ④優先度

.....

登録した内線子機が、プリセット発信(外線経路を捕捉しないで発信した場合の自動捕捉動作)を使用して外線発信したときに、どの回線を優先して発信するか、回線が使用中の場合は、次にどの回線で捕捉スライドして発信するかどうか設定します。
(出荷時の設定：IP回線⇒ISDN回線)

◎IP回線⇒ISDN回線

IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信する。

◎IP回線⇒アナログ回線

IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信する。

◎ISDN回線⇒IP回線

ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信する。

◎ISDN回線⇒アナログ回線

ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信する。

◎アナログ回線⇒IP回線

アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信する。

◎アナログ回線⇒ISDN回線

アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信する。

◎IP回線

IP回線が使用中の場合、発信しない。

◎ISDN回線

ISDN回線が使用中の場合、発信しない。

◎アナログ回線

アナログ回線が使用中の場合、発信しない。

2. 「電話番号ルーティング」画面

「PBX拡張設定」-「電話番号ルーティング」

■電話番号ルーティング設定(つづき)

電話番号ルーティング設定							
① 番号	② プレフィクス	③ 宛先電話番号	④ 優先度	⑤ 回線指定	⑥ 第1発信回線	⑦ 第2発信回線	⑧ 追加
1			IP回線⇒ISDN回線	内線設定優先			

- ⑤回線指定

「簡単設定」画面、または「内線個別設定」画面で設定した回線捕捉を使用して発信するか、異なる回線を指定して発信するか設定します。
(出荷時の設定：内線設定優先)
◎内線設定優先：[優先度](④)欄で設定した優先順位で、「簡単設定」画面、または「内線個別設定」画面で設定した回線捕捉を使用して発信します。
◎指定：[優先度](④)欄で設定した優先順位で、[第1発信回線](⑥)欄、または[第2発信回線](⑦)で設定した回線を使用して発信します。
- ⑥第1発信回線

[回線指定](⑤)欄で「指定」を設定したとき、最初に発信する回線です。
※[優先度](④)欄の設定に応じて、選択できる回線が切り替わります。
- ⑦第2発信回線

[第1発信回線](⑥)欄の回線が使用中の場合に、次に発信する回線です。
※[優先度](④)欄の設定に応じて、選択できる回線が切り替わります。
- ⑧〈追加〉

[電話番号ルーティング設定]項目で設定した内容を[電話番号ルーティング設定一覧]項目に登録するボタンです。

2.「電話番号ルーティング」画面(つづき)

「PBX拡張設定」-「電話番号ルーティング」

■電話番号ルーティング設定一覧

[電話番号ルーティング設定]項目で登録した設定内容を表示します。

電話番号ルーティング設定一覧						
番号	プレフィクス	宛先電話番号	優先度	回線指定	第1発信回線	第2発信回線
1		090	IP回線⇒ISDN回線	内線設定優先		
2		050	IP回線⇒ISDN回線	指定	03	03
						③ 全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集>

.....

クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を[電話番号ルーティング設定]項目で編集できます。
- ②<削除>

.....

クリックすると、ボタンの左欄に表示された設定内容を削除します。
- ③<全削除>

.....

クリックすると、表示された設定内容をすべて削除します。

3.「外線サービスグループ」画面

「PBX拡張設定」→「外線サービスグループ」

本製品に登録した回線(電話番号)が所属する外線サービスグループ番号を設定します。

※「ユーザー設定」画面では、下記の「外線サービスグループ設定」項目で設定した外線サービスグループごとに、「昼間に切替」、「夜間に切替」を選択できます。(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

■外線サービスグループ設定

本製品に登録した回線(電話番号)について、グループを設定します。

外線サービスグループ設定		
外線電話番号	回線	外線サービスグループ
03	IP回線	外線サービスグループ1 ▼
03	ISDN回線	外線サービスグループ1 ▼
03	アナログ回線	外線サービスグループ1 ▼

※画面の内容は、登録例です。

外線サービスグループ…………… 設定できるグループは、「外線サービスグループ1」～「外線サービスグループ8」までです。
(出荷時の設定:外線サービスグループ1)

4. 「昼夜切替設定」画面 「PBX拡張設定」-「昼夜切替設定」

すべての外線サービスグループの昼夜(昼間から夜間、または夜間から昼間)切り替えを一括して、自動で切り替えるための設定です。

※「ユーザー設定」画面では、外線サービスグループごとに昼夜切り替えできます。(☞弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

■ 昼夜切替曜日設定

設定した曜日と時間にしたがって、着信時の昼夜切り替え動作を最大10件まで設定できます。

昼夜切替曜日設定								
昼夜切替	切替時刻	有効曜日						
		日	月	火	水	木	金	土
夜間に切替▼	18 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐
昼間に切替▼	08 : 00	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
無効▼	00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※画面の内容は、登録例です。

- 切替時刻・有効曜日 ……………
- [昼夜切替] 欄で、「昼間に切替」、または「夜間に切替」を選択し、切り替え開始時間を24時間制で入力します。

指定する曜日のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。

設定後は、[昼夜切替曜日設定]項目の<登録>をクリックします。

※本製品の自動時計設定機能(☞P166)と併せてご使用になることをおすすめします。

※[昼夜切替日付設定]項目(☞P148)の設定と重複する場合は、[昼夜切替日付設定]項目の設定が優先されます。

※昼間から夜間に着信動作が切り替わったあとに、本製品が再起動されたときは、次回設定した曜日と時間になるまで、昼間の着信となります。

4. 「昼夜切替設定」画面(つづき)

「PBX拡張設定」-「昼夜切替設定」

■ 昼夜切替日付設定

設定した日時と時間に仕掛けて、着信時の昼夜切り替え動作を最大30件まで設定できます。

昼夜切替		切替日時	
夜間に切替 ▼		7 月 7 日	18 : 00
昼間に切替 ▼		7 月 8 日	08 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00
無効 ▼		月 日	00 : 00

※画面の内容は、登録例です。

切替日時.....

[昼夜切替] 欄で、「昼間に切替」、または「夜間に切替」を選択し、切り替え開始の日時を入力します。

開始時間を24時間制で入力します。

設定後は、[昼夜切替日付設定]項目の〈登録〉をクリックします。

※本製品の自動時計設定機能と併せてご使用になることをおすすめします。

※[昼夜切替曜日設定]項目(P147)の設定と重複する場合は、[昼夜切替日付設定]項目の設定が優先されます。

※昼間から夜間に着信動作が切り替わったあとに、本製品が再起動されたときは、次回設定した日時と時間になるまで、昼間の着信となります。

5. 「夜間転送先設定」画面

「PBX拡張設定」―「夜間転送先設定」

■ 夜間転送先設定

昼夜切り替え動作において、夜間に切り替わったときの転送先を、回線(電話番号)ごとに設定します。

夜間転送先設定			
外線サービスグループ1			
外線電話番号	回線	① 夜間転送先	② 着信内線番号
03	IP回線	留守番電話	なし
03	ISDN回線	転送しない	なし
03	アナログ回線	転送しない	なし

※画面の内容は、「外線サービスグループ1」に登録された回線(電話番号)の設定例です。

- ① 夜間転送先 …………… 昼夜切り替え動作で夜間に切り替わったときの着信動作を設定します。
(出荷時の設定: 転送しない)
- ◎ 転送しない : 夜間に切り替わっても「簡単設定」メニュー(※6章)の「簡単設定」画面、または「PBX設定」メニュー(※7章)の「着信設定」画面で設定した着信内線番号に着信します。
- ◎ 外線 : 「ユーザー設定」画面にある「外線着信転送設定」で設定した回線(電話番号)ごとの転送先番号へ転送します。
- ◎ 内線 : [着信内線番号](②)欄に設定した内線番号、または内線代表番号の子機に着信します。
- ◎ 留守番電話 : 「ユーザー設定」画面にある「留守電ボックス設定」で設定した回線(電話番号)ごとの留守電ボックスで応答します。
※留守電ボックスが設定されていないときは、「転送しない」を選択したときと同じ着信動作になります。
- ② 着信内線番号 …………… 夜間に切り替わったときに着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。
(出荷時の設定: なし)
着信内線番号には、内線番号、または内線代表番号を設定できます。

【着信動作の優先順位について】

管理者用の「夜間転送先設定」画面や「ユーザー設定」画面★で重複した着信動作を設定したときは、下記の優先順位になります。

1. 「夜間転送先設定」画面
2. 「外線着信転送設定」画面★
3. 「留守電ボックス設定」画面★
4. 「着信設定」画面★

★設定について詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。



この章では、
管理者用の「管理」メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 「SYSLOG情報」画面	152
■ SYSLOGサーバー設定	152
■ SYSLOG情報	152
■ SYSLOG表示	153
2. 「電話通信記録」画面	154
■ 電話通信記録	154
3. 「留守電情報」画面	155
■ 留守電ボックス情報	155
■ 内蔵メモリー録音メッセージ	156
4. 「管理者設定」画面	157
■ パスワードの設定	157
5. 「設定のバックアップ/リストア」画面	158
■ 設定のバックアップ	158
■ 設定のリストア	158
■ オンライン設定	159
■ 設定内容一覧	159
6. 「再起動」画面	160
■ 再起動	160
7. 「初期化」画面	161
■ 初期化	161
8. 「ファームウェアの更新」画面	162
■ ファームウェアの更新	162
■ 自動更新	163
■ 手動更新	164
9. 「時刻設定」画面	165
■ 時刻設定	165
■ 自動時計設定	166
10. 「SNMP設定」画面	167
■ SNMP設定	167
11. 「USB設定」画面	168
■ USB設定	168

1. 「SYSLOG情報」画面

「管理」-「SYSLOG情報」

SYSLOG機能についての設定画面です。

■SYSLOGサーバー設定

SYSLOGを受けるホストを設定します。

SYSLOGサーバー設定	
サーバーアドレス	

サーバーアドレス…………… SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
※ホストはSYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。

■SYSLOG情報

指定したホストにログ情報などを出力するための設定です。
※[SYSLOG表示]項目で情報収集したあとの表示フィルターとしても動作します。

SYSLOG情報		
DEBUG	①	☒ 無効 ☐ 有効
INFO	②	☐ 無効 ☒ 有効
NOTICE	③	☐ 無効 ☒ 有効

①DEBUG…………… 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力する設定です。 （出荷時の設定:無効）

②INFO …………… INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
（出荷時の設定:有効）

③NOTICE …………… NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
（出荷時の設定:有効）

1. 「SYSLOG情報」画面(つづき)

「管理」-「SYSLOG情報」

■SYSLOG表示

本製品のログ情報を表示します。

SYSLOG表示

①再読み込み

②クリア

日付・時間	レベル	内容
01/01 00:00:00	NOTICE	Copyright © 2014 Icom Inc.
01/01 00:00:00	NOTICE	VR-7000 Ver. 1.00

③保存

- ①<再読み込み>

SYSLOG情報を最新の状態にするボタンです。
※最大511件のログ情報を記憶できます。
511件を超えると、古いログ情報から削除されます。
- ②<クリア>

表示されたログ情報を削除するボタンです。
※電源を切る、または設定の変更や初期化に伴う再起動でも、それまでのログ情報は削除されます。
- ③<保存>

表示されたログ情報を保存するボタンです。
<保存>をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、ログ情報をテキスト形式(拡張子:txt)で保存できます。

2. 「電話通信記録」画面

「管理」—「電話通信記録」

加入電話、およびIP電話の発信と着信履歴を表示する画面です。

■ 電話通信記録

加入電話、およびIP電話の発信と着信履歴を表示します。

電話通信記録	
①再読み込み ②クリア	
日付・時間	内容
01/01 00:21:02	終了: <通話終了> (ID=2)
01/01 00:20:59	通話開始: 201 [子機No.1] (ID=2)
01/01 00:20:56	内線発信: 202 [子機No.2] → 201 [子機No.1] (ID=2)
01/01 00:20:39	終了: <発信中止> (ID=1)
01/01 00:20:36	内線発信: 201 [子機No.1] → 202 [子機No.2] (ID=1)
01/01 00:19:32	[REGISTER]端末登録: 202 [子機No.2]
01/01 00:18:51	[REGISTER]端末登録: 203 [子機No.3]
01/01 00:15:49	[REGISTER]端末登録: 201 [子機No.1]
③保存	

※画面の内容は、表示例です。

- ①<再読み込み>

履歴を最新の状態にするボタンです。
※最大1000件の履歴を記憶できます。
1000件を超えると、古い履歴から削除されます。
- ②<クリア>

表示された履歴を削除するボタンです。
※電源を切る、または設定の変更や初期化に伴う再起動でも、それまでの履歴は削除されます。
- ③<保存>

表示された履歴を保存するボタンです。
<保存>をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、履歴をテキスト形式(拡張子:txt)で保存できます。

3.「留守電情報」画面

「管理」―「留守電情報」

留守番電話機能の使用状態を表示します。

■留守電ボックス情報

留守電ボックスごとの使用状態を表示します。

留守電ボックス情報				
ボックス1	状態	動作中		
	保存件数	内蔵メモリー	新着:3件	再生済み:1件
ボックス2	状態	動作中		
	保存件数	内蔵メモリー	新着:0件	再生済み:0件
ボックス3	状態	動作中		
	保存件数	内蔵メモリー	新着:0件	再生済み:0件

※画面の内容は、表示例です。

ボックス1～ボックス3 ……

留守番電話のボックスごとに、新着や再生済みの件数など使用状態を表示します。

※留守番電話機能を使用する回線(電話番号)ごとのボックス番号、保存できる録音件数などは、「ユーザー設定」画面で設定できます。

(☞「ユーザー設定」画面については、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。)

3. 「留守電情報」画面(つづき)

「管理」-「留守電情報」

■内蔵メモリー録音メッセージ

録音された留守番電話ごとに、相手先の電話番号や状態などを表示します。

① ボックス番号	② 録音日時	③ 相手先番号	④ 着信先番号	⑤ 状態	⑥ 音声データ
1	2012/06/24 16:22	08012345678	03	再生済み	FB01M000.wav
1	2012/06/24 17:08	08012345678	03	新着	FB01M001.wav
2	2012/07/07 11:30	0612345678	03	新着	FB01M002.wav
3	2012/07/07 11:31	P	03	新着	FB01M003.wav

※画面の内容は、表示例です。

- ① **ボックス番号** メッセージが録音されたボックス番号(1～3)を表示します。
- ② **録音日時** メッセージが録音された日時を表示します。
- ③ **相手先番号** ナンバーディスプレイサービスをご契約の場合、メッセージを録音した相手先から通知された発信者番号を表示します。
 発信者番号を表示できないときは、非通知理由を下記の記号で表示します。
 ◎P：ユーザー非通知(相手が非通知発信(184発信など)したことによる非通知)
 ◎C：公衆電話発信による非通知
 ◎O：サービス提供不可(一部の国際電話などで非通知理由が取得できない場合)
 ◎S：サービス競合のため通知不可能(相手から発信者番号が通知されているが、サービスの契約条件などにより発信番号を通知しない)
 ※ナンバーディスプレイサービスをご契約でない場合は、非通知理由として、O(サービス提供不可)を表示します。
- ④ **着信先番号** 不在時などにメッセージが録音された電話番号を表示します。
 ※留守番電話を使用する電話番号(本製品に登録した回線)とボックス番号の設定は、「ユーザー設定」画面で設定できます。
 (※「ユーザー設定」画面については、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。)
- ⑤ **状態** メッセージの確認状態を「再生済み」/「新着」で表示します。
- ⑥ **音声データ** ファイル名を右クリックして、表示された画面にしたがって操作すると、音声データ(拡張子:wav)を保存できます。
 ※ファイル名をクリックすると、再生用ソフトウェア(Windows Media® Playerなど)が起動して、音声データ(拡張子:wav)を再生できます。
 ※操作方法は、ご使用のソフトウェアによって異なりますので、ソフトウェアの取扱説明書などでご確認ください。

4. 「管理者設定」画面

「管理」－「管理者設定」

本製品の設定画面にアクセスするためのパスワードを変更する画面です。

■ パスワードの設定

本製品の設定画面にアクセスするためのパスワードを変更します。

パスワードの設定		
管理者ID	①	admin
現在のパスワード	②	
新しいパスワード	③	
新しいパスワード(確認用)	④	

- ① 管理者ID

本製品の設定画面へのアクセスを許可する管理者IDを表示します。
※本製品の設定画面にアクセスすると、ユーザー名として入力を求められますので、本製品の管理者ID (admin) を入力します。
※本製品の[管理者ID]は、変更できません。
- ② 現在のパスワード

新しいパスワードに変更するとき、現在のパスワードを大文字/小文字の区別に注意して入力します。
(出荷時の設定: admin)
※入力中の文字は、すべて* (アスタリスク)、または● (黒丸) で表示します。
- ③ 新しいパスワード

新しいパスワードを入力します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。
※新しいパスワードを登録後は、設定内容がマスクされ、すぐにパスワードの入力を求める画面を表示しますので、そこに新しいパスワードを入力します。
- ④ 新しいパスワード(確認用)

確認のために、新しいパスワードを再入力します。

【不正アクセス防止のアドバイス】

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更すると効果があります。

【ご注意】

パスワードを忘れた場合、設定を確認できなくなりますのでご注意ください。
※お忘れの場合、本製品の<INIT>ボタンを操作して、設定を工場出荷時(初期化)の状態に戻していただくことになります。
(別紙の「ご注意と保守について」)

5.「設定のバックアップ/リストア」画面

「管理」―「設定のバックアップ/リストア」

本製品の設定内容を保存する画面です。

■ 設定のバックアップ

本製品の設定内容を保存します。



設定のバックアップ……………

本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップできます。
 〈バックアップ〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、設定ファイル(拡張子:sav)を保存できます。
 保存したファイルは、[設定のリストア]項目の操作で、本製品に書き込みできます。

■ 設定のリストア

保存した設定ファイルを本製品に書き込みます。
 ※書き込みには数分かかる場合があります。



① 設定ファイルの選択 ……

[設定のバックアップ]項目の操作で保存した設定ファイル(拡張子:sav)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
 設定ファイルの保存先を指定するため、〈参照…〉をクリックします。
 表示された画面から目的の設定ファイルをクリックして、〈開く(O)〉をクリックすると、選択した設定ファイルの参照先が表示されます。

② リストア ……………

[設定ファイルの選択](①)欄のテキストボックスに保存先を指定後、〈リストア〉をクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。
 書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。
 ※書き込みを完了すると、本製品は自動的に再起動します。
 ※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。

【ご注意】

本製品の設定ファイルを本製品以外の機器に組み込んだ場合や、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

5. 「設定のバックアップ/リストア」画面(つづき) 「管理」-「設定のバックアップ/リストア」

■オンライン設定

本製品の設定内容を暗号化された通信経路を利用して転送でき、遠隔地から保守できます。
※オンライン設定を使用するには、別途SFTPサーバーが必要です。

オンライン設定		
オンライン設定	①	☒ 無効 ☐ 有効
サーバーホスト名	②	
契約ユーザー名	③	
パスワード	④	
設定をアップロード	⑤	実行
設定をダウンロード	⑥	実行

- ① **オンライン設定** オンライン設定を使用するとき、「有効」にします。 (出荷時の設定:無効)
※SFTPサーバーの設備がない場合は、「有効」に設定しても、使用できません。
- ② **サーバーホスト名** SFTPサーバーホスト名のIPアドレス、またはFQDN(Fully Qualified Domain Name)を128文字(半角)以内で入力します。
- ③ **契約ユーザー名** SFTPサーバー契約ユーザー名を、128文字(半角英数字/記号)以内で入力します。
- ④ **パスワード** SFTPサーバーパスワードを、128文字(半角英数字/記号)以内で入力します。
- ⑤ **設定をアップロード** <実行>をクリックすると、本製品から設定内容を読み出して、自動でSFTPサーバーへ転送します。
- ⑥ **設定をダウンロード** <実行>をクリックすると、SFTPサーバーから本製品の設定内容を読み出して、本製品に自動で書き込みます。
※設定内容の書き込みが完了すると、本製品が自動的に再起動され、設定が有効になります。

■設定内容一覧

出荷時の設定から変更された内容を表示します。
※出荷時や全設定初期化後は、何も表示されません。

設定内容一覧
isdn port global callring 1 isdn port global telnumber 1 "03 12345678" voip answering on voip ptop uri 1 "sip:VR7000@telephone.icom.co.jp" voip relayserver hunt group 2 "200" voip relayserver hunt group 3 "300" voip relayserver hunt group 4 "400" voip relayserver hunt number 2 3 "201" voip relayserver hunt number 3 6 "301"

※画面の内容は、表示例です。

9 「管理」メニュー

6. 「再起動」画面

「管理」－「再起動」

本製品を再起動する画面です。

■再起動

〈実行〉をクリックすると、本製品は再起動します。

再起動	
再起動	実行

7. 「初期化」画面

「管理」－「初期化」

本製品の設定内容を出荷時の状態に戻す画面です。

■ 初期化

〈実行〉をクリックすると、本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。

初期化	
初期化	実行

※IPアドレスと管理者用のパスワードが不明な場合などの初期化については、別紙の「ご注意と保守について」をご覧ください。

【ご注意】

初期化実行後、本製品のLAN側IPアドレスは、「192.168.0.1（出荷時の設定）」で動作します。
初期化によって、ご使用になる端末を内線子機としてご利用いただけなくなりますので、ご契約の回線接続業者から指定された回線種別と契約者番号、本製品に接続する電話機の内線番号などを設定しなおしてください。

8.「ファームウェアの更新」画面

「管理」→「ファームウェアの更新」

ファームウェアを更新する画面です。

【バージョンアップについてのご注意】

- ◎故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。
 - ◎通話中、または留守番電話録音終了後しばらくのあいだ(本製品への書き込みが完了するまで)は、ファームウェアを更新できません。
 - ◎緊急番号へ発信したあと、数分間はファームウェアを更新できません。(NTTひかり電話設定時のみ)
 - ◎自動更新中は、ひかり電話がご利用いただけません。
そのあいだは、緊急通報(110、118、119)などもかけることができませんのでご注意ください。
 - ◎更新中(数分間)は、すべての接続が切断されます。
インターネットご利用中に更新が実行される場合がありますのでご注意ください。
 - ◎ネットワークやサーバーの状態によっては、更新に失敗することがあります。
- ※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

■ファームウェアの更新

本製品のファームウェアについて、バージョン情報を表示します。

ファームウェアの更新

ファームウェアバージョン	VR-7000 Ver. 1.00 (1.00)
	Copyright 2007-2010 Icom Inc.

「管理」ー「ファームウェアの更新」

■自動更新

ファームウェアをオンラインでバージョンアップします。

※ファームウェアの確認や自動更新には、インターネットへの接続環境と本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイ、自動更新サーバーの設定が必要です。

自動更新

ファームウェアの確認 ①

自動更新 ② ☐ 無効 ☒ 有効

①ファームウェアの確認 …

〈確認〉をクリックすると、アップデート管理サーバーに接続します。
接続に成功すると、最新のファームウェア情報(下図)を表示します。

ファームウェア情報	
状況	情報取得成功
バージョン	Ver. 1.0.0
更新内容	2023/10/10 Ver. 1.0.0からVer. 1.0.1にバージョンアップ ※詳しくは、 更新履歴
最新の情報に更新 ファームウェアを更新	

【ファームウェア情報について】

- ◎ 「新しいファームウェアはありません」が表示されるときは、現在のファームウェアが最新ですので、ファームウェアの更新は必要ありません。
- ◎ 「情報取得成功」と更新内容が表示されたときは、〈ファームウェアを更新〉をクリックすると最新のファームウェアをアップデート管理サーバーからオンラインで更新できます。
- ◎ 「接続失敗」や「通信エラー」が表示されるときは、下記を参考に、本製品からアップデート管理サーバーへ接続できる環境であることをご確認ください。

LANケーブルが「WAN」ポートに接続されていますか？

→「WAN」ランプの点灯(緑)を確認する

デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを本製品に設定していますか？

→「ルーター機能設定」メニューの「LAN設定」画面で設定を確認する
( 3章)

本製品からWeb通信することを、ファイアウォールなどで遮断していませんか？

→ネットワーク管理者に確認する

②自動更新

ファームウェアの自動更新機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)

「有効」に設定すると、重要な更新が含まれる場合に、アップデート管理サーバーから自動的に本製品のファームウェアを更新できます。

※自動更新を望まない場合は、「無効」に設定してください。

その場合は、手動で更新する必要があります。

8. 「ファームウェアの更新」画面(つづき)

「管理」→「ファームウェアの更新」

■手動更新

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアをバージョンアップします。

手動更新	
ファームウェアの選択 ①	参照...
ファームウェアの更新 ②	更新

- ① **ファームウェアの選択** ... <参照...>をクリックして、表示された画面から、パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子:dat)を選択して、<開く(O)>をクリックします。
選択したファイルとその階層が、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに自動入力されたことを確認します。
- ② **ファームウェアの更新** ... <更新>をクリックすると、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに表示された保存先のファームウェアファイル(拡張子:dat)を本製品に書き込みます。
更新を開始すると、「ファームウェアを更新しています。」と表示されます。

9. 「時刻設定」画面

「管理」-「時刻設定」

本製品の内部時計についての設定画面です。

■時刻設定

本製品の内部時計を手動で設定します。

時刻設定		
主装置の現在時刻	① 2012年 07月 07日 09時 49分	③
設定する時刻	② 2012 年 07 月 09 日 12 時 50 分	設定

※ ②、③は、[自動時計設定]項目の[自動時計設定]欄を「無効」に設定した場合に編集できます。

- ①主装置の現在時刻 …………… 本製品に設定されている時刻を表示します。
 ※自動時計設定時、インターネット上に存在するNTPサーバーに日時の問い合わせをしているときは、「NTPサーバーへアクセスしています…」を表示します。
- ②設定する時刻 …………… 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を表示します。
 ※WWWブラウザの〈更新〉をクリックすると、端末の時計設定を取得して表示します。
- ③〈設定〉 …………… [設定する時刻] (②) 欄に表示された時刻を本製品に手動で設定するボタンです。
 ※時刻を手動で設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスするか、WWWブラウザの〈更新〉をクリックしてから、〈設定〉をクリックしてください。
 ※[自動時計設定]項目の[自動時計設定]欄が「有効」に設定されているときは、〈設定〉をクリックできません。

■自動時計設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバーの設定です。

自動時計設定	
自動時計設定	① ☐ 無効 ☒ 有効
NTPサーバーIPアドレス1	② 210.173.160.27
NTPサーバーIPアドレス2	③ 210.173.160.57

- ① **自動時計設定** …………… 本製品の自動時計設定機能を設定します。 (出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、インターネット上に存在するNTPサーバーに日時の問い合わせをして、内部時計を自動設定します。
※「無効」に設定した場合は、[時刻設定]項目で内部時計を手動で設定します。
- ② **NTPサーバーIPアドレス1** アクセスするNTPサーバーのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定: 210.173.160.27)
返答がないときは、[NTPサーバーIPアドレス2] (③)欄で設定したNTPサーバーにアクセスします。
※初期に参照しているNTPサーバーアドレスは、インターネットマルチフィード株式会社 <http://www.jst.mfeed.ad.jp/> のものです。
- ③ **NTPサーバーIPアドレス2** [NTPサーバー IPアドレス1] (②)欄の次にアクセスさせるNTPサーバーがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定: 210.173.160.57)

【ご注意】

自動時計設定機能は、NTPサーバーへの問い合わせ先(経路)を設定する必要があります。
経路を設定しないときは、問い合わせできませんので、自動時計設定機能をお使いいただけません。
「ルーター機能設定」メニュー→「LAN設定」画面→「IPアドレス設定」項目にある「LANデフォルトゲートウェイ」欄、または「スタティックルーティング」画面の「スタティックルーティング設定」項目で、ルーティングテーブルを設定するか、「WAN動作モード設定」画面の「回線種別設定」項目を設定してください。

10. 「SNMP設定」画面

「管理」-「SNMP設定」

SNMP機能についての設定画面です。

■ SNMP設定

TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから本製品の情報を自動的に収集して、ネットワーク管理をするときの設定です。

SNMP設定	
SNMPの使用 ①	☐ 無効 ☒ 有効
コミュニティID(GET) ②	public

- ① SNMPの使用

本製品のSNMP機能を設定します。
「有効」に設定すると、本製品の設定情報をSNMP管理ツール側で管理できます。

(出荷時の設定: 有効)
- ② コミュニティID(GET)

本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを、半角31文字以内の英数字で入力します。

(出荷時の設定: public)

11. 「USB設定」画面

「管理」→「USB設定」

本製品の[USB]ポートについての設定画面です。

■USB設定

市販のUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときの動作を設定します。

USB設定	
USBポート	☐ 無効 ☒ 有効

[USB]ポート

本製品の[USB]ポートの有効と無効について設定します。

(出荷時の設定: 有効)

※「無効」に設定されていると、本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存したUSBメモリー(市販品)を差し込んだ状態で、本製品の電源を接続しても、設定の復元やファームウェアのバージョンアップをしません。

この章では、
Telnetを使用した接続、設定画面の構成、初期値などを説明しています。

1. Telnetで接続するには	170
■ Windows Vista/Windows 7の場合	170
■ Telnetコマンドについて	170
2. 設定画面の構成について	171
■ 管理者用の設定画面	171
■ ユーザー用の設定画面	174
3. 設定項目の初期値一覧	175

1. Telnetで接続するには

Telnet での接続について説明します。

ご使用の OS や Telnet クライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■ Windows Vista/Windows 7の場合

お使いいただくときは、「コントロールパネル」→「プログラム」→「Windows の機能の有効化または無効化」から、「Telnetクライアント」を有効にしてから、下記の手順で操作してください。

【設定のしかた】

① Windowsを起動します。

② [スタート] (ロゴボタン) から [プログラムとファイルの検索] を選択します。

名前欄に「telnet.exe」と入力し、[Enter] キーを押します。

※ Windows Vista をご使用の場合は、[スタート] (ロゴボタン) から [検索の開始] を選択します。

③ Telnet クライアントが起動しますので、下記のように入力します。

Microsoft Telnet>open 本製品のLAN側IPアドレス(入力例: open 192.168.0.1)

④ 下記を入力して [Enter] キーを押すと、ログインできます。

login : admin

password : admin

※ admin は、本製品の出荷時や全設定初期化時の password です。

※ password は、管理者用の設定画面にある「管理」メニューで設定された内容と同じです。

⑤ ログインメッセージ (VR-7000 #) が表示されます。

■ Telnetコマンドについて

本製品で利用できる Telnet コマンドの表示方法と、コマンド入力について説明します。

コマンド一覧……………	[Tab] キーを押すと、利用できるコマンドの一覧が表示されます。 コマンド名の入力につづいて [Tab] キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。
コマンドヘルプ……………	コマンドの意味を知りたいときは、ヘルプコマンドにつづいて、コマンド名を入力するとコマンドのヘルプが表示されます。 例) help save (save コマンドのヘルプを表示する場合)
コマンド名の補完……………	コマンド名を先頭から数文字入力し [Tab] キーを押すと、コマンド名が補完されます。 入力した文字につづくコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。 例) n[Tab] → network 複数のコマンドがあるときは、コマンドの候補を表示します。 例) res[Tab] → reset restart

2. 設定画面の構成について

本製品の全設定を初期化したとき、WWW ブラウザーに表示される画面構成です。

■ 管理者用の設定画面

設定メニュー	設定画面	設定項目
TOP		設定一覧(製品情報)
		設定一覧(ネットワーク)
		設定一覧(外線電話番号)
ルーター機能設定	LAN設定	LAN設定/DHCPサーバー設定
		固定IPアドレス設定
		固定IPアドレス一覧
		DHCPクライアント一覧
	スタティックルーティング設定	IP経路情報
		スタティックルーティング設定
		現在の登録
	WAN側動作モード設定	回線状態表示
		回線種別設定
	VoIP用WAN側設定	回線状態表示
		回線種別設定
		回線設定
	ブリッジ設定	PPPoEブリッジ
		IPv6ブリッジ
	NAT設定	アドレス変換設定
		DMZホスト設定
		静的マスカレードテーブル設定
		現在の登録
	ダイナミックDNS	ダイナミックDNS設定(1)
		ダイナミックDNS設定(2)
		ダイナミックDNS登録状況
	VPNパススルー設定	IPSecパススルー
		PPTPパススルー
	IPフィルター設定	IPフィルター設定
		現在の登録
	簡易DNS設定	DNSサーバーの代理応答
		簡易DNSサーバー設定
		現在の登録
	不正アクセス設定	ICMPステルス
	QoS設定	QoS設定
		QoSルール設定
		現在の登録

2. 設定画面の構成について

■ 管理者用の設定画面(つづき)

設定メニュー	設定画面	設定項目
電話回線設定	アナログ電話回線1	PSTN設定(1)
		モデムダイヤルイン設定
	アナログ電話回線2	PSTN設定(2)
		モデムダイヤルイン設定
	ISDN共通設定	ISDN共通設定
	ISDN回線1	ISDN設定(1)
		i・ナンバー/ダイヤルイン設定
	ISDN回線2	ISDN設定(2)
		i・ナンバー/ダイヤルイン設定
	ISDN回線3	ISDN設定(3)
		i・ナンバー/ダイヤルイン設定
	代表取扱サービス	代表取扱サービス設定
		使用する回線の設定
		契約回線設定
		ダイヤルイン設定
	IP回線	SIPサーバー接続共通設定
		SIPサーバー設定
		SIPサーバー設定一覧(契約者番号)
		SIPサーバー設定一覧(追加番号)
	回線グループ設定	回線スライド設定
		回線グループ設定
		現在の登録
Peer to Peer設定	Peer to Peer設定	Peer to Peer共通設定
		Peer to Peer設定
		Peer to Peer設定一覧
	VoIP電話帳設定	VoIP電話帳の保存と書き込み
		VoIP電話帳への登録
簡単設定		VoIP電話帳登録一覧
PBX設定		簡単設定ウィザード
	PBX情報	PBX情報
		内線代表一覧
		内線一覧
	基本設定	基本設定
	特番設定	特番設定
		外線発信特番設定
	内線個別設定	内線設定(新規登録)
		内線設定一覧
		TEL1設定
		TEL2設定
	内線代表設定	内線代表設定(新規登録)
		内線代表設定一覧
	着信設定	着信設定
	電話機設定	電話機のメンテナンス
		電話機設定
		呼出音設定
	電話帳設定	設定グループの選択
		電話帳の保存と書き込み
		電話帳への登録
		電話帳登録一覧

2. 設定画面の構成について

■ 管理者用の設定画面(つづき)

設定メニュー	設定画面	設定項目
PBX拡張設定	拡張設定	SIP拡張設定
		VoIP設定
	電話番号ルーティング	電話番号ルーティング設定
		電話番号ルーティング設定一覧
	外線サービスグループ	外線サービスグループ設定
		昼夜切替曜日設定
	昼夜切替設定	昼夜切替日付設定
管理	夜間転送先設定	夜間転送先設定
	SYSLOG情報	SYSLOGサーバー設定
		SYSLOG情報
		SYSLOG表示
	電話通信記録	電話通信記録
	留守電情報	留守電ボックス情報
		内蔵メモリー録音メッセージ
	管理者設定	パスワードの設定
	設定のバックアップ/リストア	設定のバックアップ
		設定のリストア
		オンライン設定
		設定内容一覧
	再起動	再起動
	初期化	初期化
	ファームウェアの更新	ファームウェアの更新
		自動更新
		手動更新
	時刻設定	時刻設定
		自動時計設定
	SNMP設定	SNMP設定
	USB設定	USB設定

2. 設定画面の構成について(つづき)

■ユーザー用の設定画面

(※弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

設定画面	設定項目
非通知着信拒否設定	回線の選択 非通知条件の追加 着信拒否の方式
迷惑電話お断り設定	回線の選択 着信拒否の方式 相手先名 電話番号 動作 着信内線番号 鳴り分け判別
外線着信転送設定	回線 転送状態 転送先(1～3) 番号 使用回線
留守番電話設定	留守電ボックス情報 留守電ボックス設定 使用するボックス 留守番電話状態 留守番電話の応答時間(開始状態) 留守番電話の応答時間(停止状態) 応答専用モード 応答専用メッセージ 留守電保存件数
	リモコン設定 リモコン用電話番号
昼夜切替設定	外線サービスグループ(1～8)
電話帳の編集	名前 ヨミガナ 電話番号 短縮番号 表示種別 回線種別 電話帳グループ
保留音設定	保留音 保留音の音量
ユーザーID パスワード	着信設定★ 不在転送 不応答転送 呼び出し時間 話中転送 内線代表着信時の転送 パスワード変更★ 現在のパスワード 新しいパスワード

★ 管理者用の「簡単設定」画面で、内線子機を登録したあとに利用できます。

「ユーザー設定」画面の[ユーザーID](内線番号)、[パスワード](初期設定:内線番号)を入力して、〈ログイン〉をクリックします。

3. 設定項目の初期値一覧

本製品の設定画面について、全設定を初期化したとき表示される各項目の初期値です。

ルーター機能設定

「LAN設定」画面

LAN設定/DHCPサーバー設定

LAN IPアドレス: 192.168.0.1
 LANサブネットマスク: 255.255.255.0
 DHCPサーバー機能: 有効
 開始IPアドレス: 192.168.0.10
 割り当て個数: 30個

「WAN側動作モード設定」画面

回線種別設定

回線種別: 使用しない

「VoIP用WAN側設定」画面

回線種別設定

回線種別: DHCPクライアント(自動)

「ブリッジ設定」画面

PPPoEブリッジ

PPPoEブリッジ機能: 無効

IPv6ブリッジ

IPv6ブリッジ機能: 無効

「NAT設定」画面

アドレス変換設定

アドレス変換機能: 有効

「ダイナミックDNS」画面

ダイナミックDNS設定(1)/(2)

自動更新機能: 無効
 定期更新間隔: 10(日)
 ダイナミックDNSサーバー: 使用しない
 接続状態: オンライン

「VPN/パススルー設定」画面

IPSecパススルー

IPSecパススルー機能: 有効

PPTPパススルー

PPTPパススルー機能: 有効

ルーター機能設定(つづき)

「IPフィルター設定」画面

IPフィルター設定

エントリーの動作: 無効
 フィルター方法: 透過
 フィルター方向: IN
 プロトコル: すべて
 TCPフラグ: 指定なし
 送信元ポート番号: すべて
 宛先ポート番号: すべて
 ステートフルインスペクション(SPI)機能: 無効
 フィルター検索合致時の動作: 検索を終了
 SYSLOGに出力: 無効

現在の登録

1番(受信するパケットをすべて遮断する)
 2番(送信するパケット、およびそれに対する応答パケットをすべて通過する)
 58番(FTPを通過させる)
 59~64番
 (Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性、および、ファイル共有機能による外部への情報漏えいを防止)

「簡易DNS設定」画面

DNSサーバーの代理応答

DNS代理応答機能: 有効

「不正アクセス設定」画面

ICMPステルス

ICMPステルス機能: 有効
 SYSLOGに出力: 無効

「QoS設定」画面

QoS設定

QoS機能: 有効
 送信帯域制限
 WAN: 10.0(Mbps)/LAN: 10.0(Mbps)

現在の登録

1番(TOS値: B8)
 2番(TOS値: 80)

3. 設定項目の初期値一覧(つづき)

電話回線設定

「アナログ電話回線1/2」画面

PSTN設定(1)/(2)

アナログ回線種別: 自動

受話音量: 0(dB)

送話音量: 0(dB)

エコーキャンセラー: 有効(起動時最適化)

エコーサプレッション: 有効

エコーサプレッションレベル: -30(dB)

CNG: 有効

CNGレベル: -52(dB)

ナンバーディスプレイ: 自動

モデムダイヤルイン設定

モデムダイヤルイン: 無効

「ISDN共通設定」画面

ISDN共通設定

ISDNマスタートロック: 自動

「ISDN設定1/2/3」画面

ISDN設定(1)/(2)/(3)

受話音量: 0(dB)

送話音量: 0(dB)

エコーキャンセラー: 有効

エコーサプレッション: 有効

エコーサプレッションレベル: -30(dB)

CNG: 有効

CNGレベル: -52(dB)

発番号通知: 通知する

ナンバー/ダイヤルイン設定

使用するサービス: 無効

「代表取扱サービス」画面

代表取扱サービス設定

代表取扱サービス: 無効

使用する回線の設定

ISDN回線: ☐ ISDN回線1、☐ ISDN回線2、☐ ISDN回線3

契約回線設定

発番号通知: 通知する

ダイヤルイン設定

発番号通知: 通知する

「IP回線」画面

SIPサーバー接続共通設定

接続先の選択: ひかり電話(網直収)

SIP接続簡易設定: 有効

自動設定に使用するサーバー番号: 1

SIPサーバー設定

番号種別: 契約者番号

登録時間: 3600(秒)

「回線グループ設定」画面

回線スライド設定

SIPレスポンス: 500、503

Peer to Peer設定

「Peer to Peer設定」画面

Peer to Peer共通設定

WAN側からの着信: 拒否

Peer to Peer設定

SIP URI: sip:(空白)

3. 設定項目の初期値一覧(つづき)

PBX設定

「基本設定」画面

基本設定

転送切り戻り時間: 20(秒)
 鳴動時間: 30(秒)
 パークリコール時間: 120(秒)
 保留音: 保留音1
 保留音の音量: 0dB
 留守番電話機能: 無効
 TELポートの通信中転送: 無効

「特番設定」画面

特番設定

コールピックアップ: *81
 グループピックアップ: * *
 指定ピックアップ: *80
 パーク保留: *90
 パーク応答: *91
 外線キー応答: *92
 音声呼出: *83
 不在転送: *94
 不応答転送: *95
 話中転送: *96
 外線着信転送の切替: *97
 昼夜切替: *98
 留守電の開始と停止: *99
 留守電の再生: *84
 システム特番: *82、*93、*85

「内線個別設定」画面

内線設定(新規登録)

優先度: IP回線⇒ISDN回線
 IP回線: 捕捉しない
 ISDN回線: 捕捉しない
 アナログ回線: 捕捉しない
 Peer to Peer: 捕捉しない
 機種: 自動

留守電ボックス: ボックス1
 WAN側からの接続: 禁止

TEL1設定/TEL2設定

ナンバーディスプレイ: 無効
 FAXの接続: 有効
 受話音量: 0(dB)
 送話音量: 0(dB)
 電話機のダイヤル方式: 全方式に対応
 桁間タイマー: 5(秒)
 エコーキャンセラー: 有効
 エコーサプレッション: 有効
 エコーサプレッションレベル: -30(dB)
 CNG: 有効
 CNGレベル: -55(dB)

PBX設定(つづき)

「電話機設定」画面

電話機設定

設定グループの選択: 共通設定
 受話音量: 0(dB)
 送話音量: -6(dB)

呼出音設定

外線A: 呼出音1
 外線B: 呼出音2
 外線C: 呼出音3
 内線A: 呼出音5
 内線B: 呼出音6
 内線C: 呼出音7
 デフォルト内線: 呼出音5
 リコール: 呼出音4

PBX拡張設定

「拡張設定」画面

SIP拡張設定

内線ドメイン: LAN IPアドレス
 SIP 183対応: 無効
 電話回線 レスポンス変換: 有効
 SIP レスポンス中継: 有効
 呼出中転送方式: 被転送番号を中継する
 SIP URI競合時の優先: IP回線

VoIP設定

ジッターバッファ: 40(ms)
 TOS種別: Diffserv
 メディア(RTP)DSCP: 46
 呼制御(SIP)DSCP: 46

「電話番号ルーティング設定」画面

電話番号ルーティング設定

優先度: IP回線⇒ISDN回線
 回線指定: 内線設定優先

「外線サービスグループ」画面

外線サービスグループ設定

外線サービスグループ: 外線サービスグループ1

「昼夜切替設定」画面

昼夜切替曜日設定

昼夜切替: 無効

昼夜切替日付設定

昼夜切替: 無効

「夜間転送先設定」画面

夜間転送先設定

夜間転送先: 転送しない

3. 設定項目の初期値一覧(つづき)

管理

「SYSLOG情報」画面

SYSLOG情報

DEBUG:無効

INFO:有効

NOTICE:有効

「管理者設定」画面

パスワードの設定

現在のパスワード:admin(半角小文字)

「設定のバックアップ/リストア」画面

オンライン設定

オンライン設定:無効

「ファームウェアの更新」画面

自動更新

自動更新:有効

「時刻設定」画面

時刻設定

設定する時刻:パソコンから取得した時刻

自動時計設定

自動時計設定:有効

NTPサーバーIPアドレス1:210.173.160.27

NTPサーバーIPアドレス2:210.173.160.57

※初期に参照しているNTPサーバーは、インターネット
マルチフィード株式会社のものです。

<http://www.jst.mfeed.ad.jp/>

「SNMP設定」画面

SNMP設定

SNMPの使用:有効

コミュニティID(GET):public

「USB設定」画面

USB設定

USBポート:有効

ユーザー設定(ユーザー用)

(※弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

「非通知着信拒否設定」画面

非通知条件の追加:☐C(公衆電話)

☐S(サービス競合)

☐O(サービス提供付加)

着信拒否の方式:ビジー

「迷惑電話お断り設定」画面

着信拒否の方式:ビジー

動作:着信拒否

「外線着信転送設定」画面

転送状態:無効

使用回線:なし

「留守番電話設定」画面

留守電ボックス設定

使用するボックス:使用しない

留守番電話状態:停止

留守番電話の応答時間(開始状態):9(秒)

留守番電話の応答時間(停止状態):120(秒)

応答専用モード:無効

応答専用メッセージ:ただいま留守にしております…

留守電保存件数:15(件)

※1ボックスの件数

「昼夜切替設定」画面

外線サービスグループ(1~8):状況:昼間

「電話帳の編集」画面

表示種別:電話番号

回線種別:外線

電話帳グループ:電話帳グループ1

「保留音設定」画面

保留音:保留音1

保留音の音量:0dB

ユーザーID、パスワード

着信設定

不在転送:転送しない

不応答転送:転送しない

呼び出し時間:5(秒)

話中転送:転送しない

内線代表着信時の転送:転送しない

高品質がテーマです。